
Reflection Desktopヘルプ

ユーザーガイド

21.0

ナビゲーション

Reflection FTPクライアント	6
はじめに	7
はじめに	7
[FTP サイトに接続] ダイアログボックス	8
ローカルPCファイルの表示	8
サーバファイルの表示	9
FTP クライアント設定ファイル	10
FTP クライアント転送の自動化オプション	11
FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続	12
FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続	12
サイトへの接続	12
接続一覧への新しいサイトの追加	13
接続情報の表示	14
サーバへの接続の保持	14
安全な FTP クライアント接続	15
FTP クライアント設定ファイルの操作	30
FTP クライアント設定ファイルの操作	30
FTP クライアント設定の保存	30
保存されている FTP クライアント設定の読み込み	31
FTP クライアント設定のインポート	31
FTPクライアントへのWS_FTP設定のインポート	32
[終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス	33
[FTP設定のエクスポート] ダイアログボックス	33
サイトおよびグローバルプロパティの構成	35
サイトおよびグローバルプロパティの構成	35
FTP クライアントの全体設定の変更	35
FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更	40
ファイルの転送	55
ファイルの転送	55

FTP クライアントでのファイルの転送	55
ファイル転送方式の設定(転送方式)	56
スマートファイル転送するファイルの種類の追加	57
スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加	58
既存のファイルの処理方法(転送モード)	59
ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定	60
2つのリモートサイト間でのファイルの転送	61
ダウンロード時のファイル名の変更	62
アップロード時のファイル名の変更	63
未完了のサーバファイル転送の再開	64
[文字セット] ダイアログボックス	65
[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス	68
[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス	69
[ファイル置換の確認] ダイアログボックス	70
ファイルとフォルダの管理	71
ファイルとフォルダの管理	71
ファイルの操作	71
ローカルフォルダの操作	72
ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成	73
サーバディレクトリの操作方法	74
既定ホームディレクトリの設定	75
ファイル名の文字について	76
サーバファイルの一覧のフィルタリング	77
ディレクトリ定義ウィザードの実行	79
ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定	80
[サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス	82
[サーバファイルのプロパティ] ダイアログボックス	82
[フォルダへ移動] ダイアログボックス	83
FTP クライアントの起動のカスタマイズ	84
FTP クライアントの起動のカスタマイズ	84
設定ファイルを読み込むショートカットの作成	84

サイトに接続するショートカットの作成	85
FTP クライアント起動スイッチ	85
起動コマンドの例	87
起動時にスクリプトファイルを実行する	88
スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例	89
FTP クライアントの問題解決	91
FTP クライアントの問題解決	91
問題の原因を突き止める方法	91
FTP クライアント接続の問題解決	92
ファイル転送の問題解決	94
FTP ディレクトリ一覧の問題解決	95
Secure Shell のログファイル	96
FTP サイト間のファイル転送の問題解決	96
FTP クライアントエラーメッセージ	98
Windows Sockets のエラーメッセージ	100
エラーメッセージ	101
FTP コマンドラインの使用	103
FTP コマンドラインの使用	103
FTP コマンドウィンドウ	103
コマンドウィンドウのクリア	104
FTPコマンドラインの使用	105
FTP および SFTP コマンド構文	106
FTP または SFTP コマンド内の引用符	107
FTP スクリプト	108
FTP スクリプト	108
FTP クライアントスクリプト	108
スクリプトの記録	109
スクリプトの実行	110
スクリプトの編集	110
FTP クライアントのスクリプトファイル形式	110
スクリプトの収録機能で捕捉される操作	111

スクリプト内のパスワードの機密保持	114
エラー処理に使用するコマンド	114
バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行	115
スクリプトのログファイルを作成する場合	116
コマンドの解説	117
コマンドの解説	117
FTP コマンド	117
SFTP コマンド	160
Copyright	178

1. Reflection FTPクライアント

FTP クライアントを使用して、ローカルコンピュータとリモートホスト間でファイルを転送することができます。クライアントは、FTP と SFTP(SSH)サーバ両方からの送受信をサポートしています。Reflection FTP クライアントを使用すると、FTP サイトに接続し、FTP プロトコルを使ってファイルを素早く転送することができます。以下の機能が備わっています。

- 画面が分割されているため、ローカルファイルとサーバファイルの両方を参照することができます。
[表示] メニューのオプションにより、希望に合ったファイルの表示設定を選択できます。
- Windows 標準のドラッグ ドロップ操作およびコピーと貼り付け操作により、サーバと PC 間でファイルを転送できます。
- SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティプロトコルに対応しています。
- [FTPサイトの追加ウィザード]を使って、FTPサイトの構成に必要なlistitemsの案内をします。ウィザードを起動するには、[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで[新規サイト]をクリックします。
- 標準的なほとんどの FTP サーバは、自動的に認識されます。サーバの問題を解決するオプションには、簡略化されたファイル一覧の作成機能や [ディレクトリ定義ウィザード] などがあります。
- オプションのコマンドウィンドウを使うと、FTP クライアントとサーバ間で送信されたすべてのメッセージを表示できます。このウィンドウでは、標準の FTP コマンドをコマンドラインに直接入力することにより、FTP サーバと通信することもできます。
- スマートファイル転送方式により、指定された種類のファイルに適した転送方式 (テキストまたはバイナリ) が自動的に認識されます。
- スクリプトの収録機能により、FTP クライアントを使って実行した操作をコマンドスクリプトとして捕捉し、後で再生して接続とファイルの転送を自動化することができます。
- OLE オートメーションへの対応により、外部アプリケーションから FTP 転送のスクリプトを作成できます。

2. はじめに

2.1 はじめに

Reflection FTP クライアントを使用すると、FTP サイトに接続し、FTP プロトコルを使ってファイルを素早く転送することができます。以下の機能が備わっています。

- 画面が分割されているため、ローカルファイルとサーバファイルの両方を参照することができます。
[表示] メニューのオプションにより、希望に合ったファイルの表示設定を選択できます。
- Windows 標準のドラッグ ドロップ操作およびコピーと貼り付け操作により、サーバと PC 間でファイルを転送できます。
- SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティプロトコルに対応しています。
- [FTPサイトの追加ウィザード]を使って、FTPサイトの構成に必要なlistitemsの案内をします。ウィザードを起動するには、[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで[新規サイト]をクリックします。
- 標準的なほとんどの FTP サーバは、自動的に認識されます。サーバの問題を解決するオプションには、簡略化されたファイル一覧の作成機能や[ディレクトリ定義ウィザード]などがあります。
- オプションのコマンドウィンドウを使うと、FTP クライアントとサーバ間で送信されたすべてのメッセージを表示できます。このウィンドウでは、標準の FTP コマンドをコマンドラインに直接入力することにより、FTP サーバと通信することもできます。
- スマートファイル転送方式により、指定された種類のファイルに適した転送方式 (テキストまたはバイナリ) が自動的に認識されます。
- スクリプトの収録機能により、FTP クライアントを使って実行した操作をコマンドスクリプトとして捕捉し、後で再生して接続とファイルの転送を自動化することができます。
- OLE オートメーションへの対応により、外部アプリケーションから FTP 転送のスクリプトを作成できます。

詳細

- [FTP クライアントでのファイルの転送](#)
- [\[FTP サイトに接続\] ダイアログボックス](#)
- [ローカルPCファイルの表示](#)
- [サーバファイルの表示](#)
- [FTP クライアント設定ファイル](#)

- [FTP クライアント転送の自動化オプション](#)

2.2 [FTP サイトに接続] ダイアログボックス

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスは、FTP クライアントの起動時に開きます。また、[接続] - [接続] を選択して開くこともできます。このダイアログボックスには、現在の設定ファイルに定義および保存されているすべてのサイトが表示されます。

[接続]	選択されたサイトに接続します。クライアントが、そのサイト用に構成した設定を使用して接続します。
[新規]	FTP サイトを追加します。[FTP サイトの追加] ウィザードが開きます。
[プロパティ]	選択されたサイトの設定を表示、または変更します。
[セキュリティ]	選択されたサイトへのセキュアな接続を設定します。

詳細

- [接続一覧への新しいサイトの追加](#)
- [サイトへの接続](#)
- [安全な FTP クライアント接続](#)
- [FTP クライアント接続の問題解決](#)
- [FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続](#)

2.3 ローカルPCファイルの表示

ローカル PC 上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアント の左画面を使用します。[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

ローカル PC ファイルを表示するには

1. FTP クライアントを起動します。
2. 左画面をクリックしてアクティブにします。

3. 左画面を使って、フォルダおよびファイルを参照します。

💡 メモ

- すべてのフォルダの階層を表示および移動するには、作業中の画面に移動し、[別のフォルダへ移動] リストボックスをクリックし、開くフォルダを選択します。
- ファイルの表示方法を変更するには、アクティブな画面に移動して、[表示]メニューのコマンドまたはツールバーにある4つの表示用ボタンを使用します。

詳細

[ファイルとフォルダの管理](#)

2.4 サーバファイルの表示

サーバ上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアントの右画面を使用します。[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

サーバファイルを表示するには

1. FTP クライアントを起動して、リモートサイトに接続します。
2. 右画面をクリックしてアクティブにします。
3. フォルダまたはファイルを開くかプログラムを起動するには、それをダブルクリックします。

ファイルの内容を表示したり、プログラムを実行したりするには、FTP クライアントはまずサーバのファイルを、既定のローカルホームフォルダにコピーします。

メモ

- FTP接続 (ただし、SFTP接続を除く) の場合、ファイルの表示フィルタを使うと、現在のディレクトリ一覧に特定の種類のファイルだけを表示できるようになります。[表示] - [フィルタ] コマンドをクリックします。
- すべてのフォルダの階層を表示および移動するには、作業中の画面に移動し、[別のフォルダへ移動] リストボックスをクリックし、開くフォルダを選択します。
- ファイルの表示方法を変更するには、アクティブな画面に移動して、[表示]メニューのコマンドまたはツールバーにある4つの表示用ボタンを使用します。

詳細

- [サーバディレクトリの操作方法](#)
- [サーバファイルの一覧のフィルタリング](#)
- [既定ホームディレクトリの設定](#)
- [ディレクトリ定義ウィザードの実行](#)

2.5 FTP クライアント設定ファイル

Reflection FTP クライアントは、設定ファイルを使って構成を保存します。設定ファイルには、次の情報が含まれます。

- ユーザが設定したすべてのサイト。サイトのプロパティも含まれます。パスワードを保存するように選択した場合、パスワードは暗号化テキストとして設定ファイルに保存されます。
- [転送方式] と [ファイル既存の場合に] の設定。
- [オプション] ダイアログボックスで構成した設定。

既定では、クライアントを起動すると、「Settings.rfw」という名前の付いた設定ファイルが自動的に開きます。クライアントを起動して任意の設定ファイルを自動的に開くショートカットを作成できます。クライアントのタイトルバーには、現在開いている設定ファイルの名前が表示されます。設定ファイルの拡張子は、RFW です。

💡 メモ

- 設定ファイルを開くと、そのファイルに保存されている設定が現在の設定に置き換えられます。
- **[設定のインポート]**コマンドを使用して、クライアントの設定を変更することもできます。この場合、インポートした設定は現在の設定に追加されます。セッションのタイトルは変更されません。
- 一部の表示設定は、設定ファイルではなくWindowsレジストリに保存されます。これには、コマンドウィンドウ、ローカルウィンドウ、サーバウィンドウの表示設定が含まれます。これらの設定を変更した場合は、現在開いている設定ファイルに関係なく、すべてのクライアントセッションに影響します。
- 13.0より前のバージョンでは、設定はWindowsレジストリに保存されていました。旧バージョンからアップグレードした場合、これらの設定はクライアントの初回起動時に設定ファイルに自動的に移行されます。

詳細

- [FTP クライアント設定ファイルの操作](#)
- [設定ファイルを読み込むショートカットの作成](#)
- [FTP クライアント設定のインポート](#)

2.6 FTP クライアント転送の自動化オプション

FTP クライアントには、ファイル転送を自動化するための次のオプションが備わっています。

- クライアント内からの接続およびファイル転送を自動化するには、FTP クライアントスクリプトを使用します。詳細については、[FTP スクリプト](#)および[コマンドの解説](#)を参照してください。
- 外部アプリケーションからの転送を自動化するには、FTP クライアントオートメーション API を使用します。APIのマニュアルは、[Reflection FTPクライアントAPI](#)で確認できます。

3. FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続

3.1 FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続

このセクションの内容

- [サイトへの接続](#)
- [接続一覧への新しいサイトの追加](#)
- [接続情報の表示](#)
- [サーバへの接続の保持](#)
- [安全な FTP クライアント接続](#)

3.2 サイトへの接続

以下のいずれかの方法で、FTP または SFTP サーバに接続することができます。

- クライアントの起動時に表示される **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスを使用します。
- 設定ファイルを読み込んで自動的にサイトに接続するショートカットを作成します。
- FTP コマンドラインに **OPEN** コマンドを入力します。詳細については、[「コマンドの解説」の「Open」](#) の項目を参照してください。
- スクリプトを実行するかまたはサーバに接続して、自動的にファイル転送コマンドを実行する起動コマンドを使って、クライアントを起動します。
- **[接続] - [サイト 2 に接続]** コマンドを使って同じセッションで 2 つ目のサイトに接続します。

詳細

- [\[FTP サイトに接続\] ダイアログボックス](#)
- [サイトに接続するショートカットの作成](#)
- [FTP クライアント起動スイッチ](#)
- [接続一覧への新しいサイトの追加](#)
- [FTP クライアントの起動のカスタマイズ](#)
- [安全な FTP クライアント接続](#)

3.3 接続一覧への新しいサイトの追加

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスを使って、接続一覧へ新しいサイトを追加します。

接続一覧に新しい FTP または SFTP サイトを追加するには

1. FTP クライアントを起動します。

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - ** [接続**] コマンドをクリックします)。

2. [新規サイト] をクリックして、[FTP サイトの追加] ウィザードを起動します。
3. FTP (または SFTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力して、[次へ] をクリックします。
4. ユーザ名を使ってログインするか、anonymous ログインを使用するかを指定します(SFTP 接続では、anonymous ログオンは使用できません)。
5. (オプション) サイトのプロパティを構成するには [ログイン情報] パネルの [詳細設定] ボタンをクリックします。
6. (オプション) 安全な接続を構成するには、[ログイン情報] パネルの [セキュリティ] ボタンをクリックします。

メモ

セキュリティ構成、およびその他のプロパティは後で変更することもできます。これを行うには、[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択してから、[セキュリティ] または [プロパティ] をクリックします。

7. 登録ユーザ用の接続を構成している場合は、[FTP ユーザログイン] パネルが表示されます。ユーザ名を入力します。難読化されたテキストとしてパスワードを設定ファイルに保存することもできます。
8. [接続] パネルで、このサイトに使用する説明的な名前を入力します。この名前は [FTP サイトに接続] ダイアログボックスで使用されます。
9. すぐにサイトに接続するかどうかを指定して、[完了] をクリックします。
10. [ファイル] - [保存] コマンドを選択して、現在の設定ファイルへの変更を保存します。

詳細

- [FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続](#)
- [サイトに接続するショートカットの作成](#)
- [安全な FTP クライアント接続](#)

3.4 接続情報の表示

ホストへ接続している場合は、サーバおよび接続に関する情報を表示できます。

接続情報を表示するには

1. [接続] - [サイトプロパティ] コマンドをクリックします。
2. [情報] タブをクリックします。

[情報] タブには、次の統計情報が表示されます。

- サーバの種類
- 接続日と時刻
- 通信時間
- 前回の転送時間
- 前回の転送効率
- 現在のセッション中に行われたすべてのファイル転送の平均速度
- 現在のセッションに関するセキュリティ情報

3.5 サーバへの接続の保持

ほとんどのサーバでは、活動が検出されない場合にユーザのセッションを継続する時間を指定することができます。この時間を超過すると、サーバとの接続が切断されます。サーバが不活動状態を理由に接続を切断してしまうのを防ぐため、「キープアライブ」コマンドを送信するよう FTP クライアントを構成できます。

サーバへの接続を保持するには

1. [サイトプロパティ] ダイアログボックスを開いて、[接続] タブをクリックします。
2. [キープアライブの送信間隔] チェックボックスをオンにして、連続したキープアライブ (NOOP) コマンドの送信間隔を秒数で指定します。
3. [OK] をクリックします。

💡 メモ

この設定はSFTP接続には影響を与えません。SFTP 接続の場合は、[Reflection Secure Shell の設定] ダイアログボックスの [全般] タブにある [サーバキープアライブ] コマンドを使用します。

3.6 安全な FTP クライアント接続

3.6.1 安全な FTP クライアント接続

SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティプロトコルに対応しています。

このセクションの内容

- [SOCKS プロキシサーバを使った接続](#)
- [ファイアウォール経由での接続](#)
- [Secure Shell 接続 \(FTP クライアント\)](#)
- [SSL/TLS 接続 \(FTP クライアント\)](#)

3.6.2 SOCKS プロキシサーバを使った接続

サイトで SOCKS プロキシサーバを使用している場合は、以下の手順を使用して FTP クライアントでの接続を構成します。

SOCKS プロキシサーバを使って接続するには

1. FTP クライアントを起動します。

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます (FTP クライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]をクリックします。)

2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイトの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボックスで、[ユーザ] を選択します。
既存サイトの変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] をクリックします。

4. SOCKS の構成は、FTP 接続と SFTP 接続で次のように異なります。

宛先	操作
FTP 接続を構成する	[SOCKS] タブで、[SOCKS を使用] チェックボックスをオンにします。[構成] をクリックして、SOCKSプロキシサーバを構成します。
SFTP 接続を構成する	[Secure Shell] タブで、[構成] をクリックして [Secure Shellの設定] ダイアログボックスを開きます。[全般] タブで [SOCKS プロキシを使用する] チェックボックスをオンにします。[SOCKSの構成(Configure SOCKS)] をクリックして、SOCKSプロキシサーバを構成します。

5. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイトの作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックスで、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。[終了] をクリックします。
既存サイトの変更	[OK] をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

🔔 注

SOCKSサーバの既定のポート番号は1080です。

3.6.3 ファイアウォール経由での接続

ファイアウォール経由での接続

ファイアウォール経由で FTP または SFTP サーバに接続している場合は以下の手順を使用します。

ファイアウォールを介して接続するには

1. FTP クライアントを起動します。

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - ** [接続]** コマンドをクリックします)。

2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイトの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボックスで、[ユーザ] を選択します。
既存サイトの変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] をクリックします。

4. [ファイアウォール] セクションで、[ファイアウォールを使用] を選択します。

5. [スタイル] から、ファイアウォールで使用する認証コマンドシーケンスを選択します(選択するスタイルによって、設定できるオプションが異なります)。

6. サーバに適切な認証情報を構成します。

7. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイトの作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックスで、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。[終了] をクリックします。

目的	操作
既存サイトの 変更	[OK] をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

メモ

- SFTP接続では、**[ファイアウォール]** タブは使用できません。
- [セキュリティのプロパティ]ダイアログボックスの**[ファイアウォール]**タブの設定は、ファイアウォールを介して接続するよう設定した、すべてのサイトに対して使用されます。
- **[パッシブモードを使用する]**チェックボックスをオンにすると (既定値)、FTPクライアントはディレクトリ一覧とファイル転送用に別々のデータ接続を確立します。一部のファイアウォールを経由する接続では、この設定は必須です。passive モードをオフにしている、ディレクトリ一覧が表示されなかったり、「425 Can't open data connection」(データ接続を開くことができません) というエラーが返される場合は、このチェックボックスをオンにしてください。

詳細

- [ファイアウォールの認証スタイル \(FTP クライアント\)](#)
- [\[接続\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

ファイアウォールの認証スタイル (FTP クライアント)

FTP クライアントでは、ユーザが指定したサーバの形式に基づいてファイアウォールサーバにさまざまなコマンドを送信し、FTP サーバに接続します。この認証シーケンスの実行中、FTPクライアントでは、**[サイトのプロパティ]** ダイアログボックスと、**[セキュリティのプロパティ]** ダイアログボックスの**[ファイアウォール]** セクションで設定した情報が使用されます。これらの情報の一部を指定していない場合、接続するたびに情報を指定するよう求められます。

次のスタイルがあります。

• [SITE サーバ名]

中継サーバが SITE コマンドを送信して FTP サーバに接続する場合は、この形式を使用します。詳細については、「[\[SITEサーバ名\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

• [ユーザ名@サーバ名]

中継サーバが **[ユーザ名@サーバ名]** 形式のサーバログオンを必要とする場合は、この形式を使用します。詳細については、「[\[ユーザ名@サーバ名\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

• [USER-PASS-ACCT]

自動的にファイアウォールを経由して接続が行われるようにネットワークが設定されていて、プロキシサーバを指定する必要がない場合は、このスタイルを使用します。このログオンシーケンスでは、FTP サイトとファイアウォール両方のユーザ名が 1 回の USER コマンドによって送信され、ファイアウォールのパスワードは ACCT コマンドによって送信されます。詳細については、「[\[USER-PASS-ACCT\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

- 透明

自動的にファイアウォールを経由して接続が行われるようにネットワークが設定されていて、プロキシサーバを指定する必要がない場合は、このスタイルを使用します。このスタイルの接続では、一連の USER コマンドと PASS コマンドによってファイアウォールのログオン情報が送信され、それに引き続き、FTP サーバのログオン情報が送信されます。詳細については、「[\[透過\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

- チャレンジ/レスポンス方式

使用しているサーバで、接続時にハードウェアトークンを使用して識別情報を指定する必要がある場合は、このスタイルを使用します。このスタイルを選択した場合、パスワード情報を事前に設定しておくことはできません。ログオン処理中、試行を求めるメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、トークンを使用して正しい情報を指定してください。詳細については、「[\[試行/応答\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

- [ユーザ ID@ファイアウォール ID@リモートホスト]

サーバがユーザ ID@ファイアウォール ID@リモートホスト形式のログオンを必要とする場合は、この形式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP クライアントには下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイアウォールユーザ名、ファイアウォールパスワード、FTP サーバアドレス、FTP ユーザ名。

- [ファイアウォールのユーザ名@FTP サーバ]

サーバがファイアウォールユーザ@FTP サーバ形式のログオンを必要とする場合は、この形式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP クライアントには下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイアウォールユーザ名、ファイアウォールパスワード、FTP ユーザ名。詳細については、「[\[ファイアウォールユーザ@FTPサーバ名\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

- [FtpUser@FtpServer FirewallUser]

サーバがFTP ユーザ@FTP サーバファイアウォールユーザ形式のログオンを必要とする場合は、この形式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP クライアントには下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイアウォールユーザ名、ファイアウォールパスワード、FTP ユーザ名、FTP パスワード。詳細については、「[\[FtpUser@FtpServer FirewallUser\]認証コマンドシーケンス](#)」を参照してください。

詳細

ファイアウォール経由での接続

[SITEサーバ名] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの[ファイアウォール] セクションで[スタイル] を[SITEサーバ名] に構成した場合、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <proxy_server>
USER <firewall_username>
PASS <firewall_password>
SITE <FTP_server>
USER <FTP_server_username>
PASS <FTP_server_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[ユーザ名@サーバ名] 認証コマンドシーケンス

[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの[ファイアウォール] セクションで[スタイル] を[ユーザ名@サーバ名] に構成した場合、FTPクライアントでは接続時に次のコマンドシーケンスのいずれかが使用されます。

[パススルー認証] チェックボックスをオンにした場合:

```
OPEN <proxy_server>
USER <firewall_username>
PASS <firewall_password>
USER <username>@<FTP_server>
PASS <FTP_server_password>
```

[中継の認証] チェックボックスをオフにした場合:

```
OPEN <proxy_server>
USER <username>@<FTP_server>
PASS <FTP_server_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[USER-PASS-ACCT] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの[ファイアウォール] セクションで、[スタイル] を[USER-PASS-ACCT] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <FTP_server>
USER <FTP_server_username> <firewall_username>
PASS <FTP_server_password>
ACCT <firewall_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[透過] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの[ファイアウォール] セクションで、[スタイル] を[透過] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <FTP_server>
USER <firewall_username>
PASS <firewall_password>
USER <FTP_server_username>
PASS <FTP_server_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[試行/応答] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの[ファイアウォール] タブで、[スタイル] を[試行/応答] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <FTP_server>
USER <firewall_username>
PASS <challenge_response_from_token>
USER <FTP_server_username>
PASS <FTP_server_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[ファイアウォールのユーザ名@FTPサーバ] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] セクションで、[スタイル] を [ファイアウォールのユーザ名@FTPサーバ] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <Firewall_server>
USER <Firewall_username>@<FTP_server>
PASS <Firewall_password>
USER <FTP_username>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

[FTPユーザ@FTPサーバファイアウォールのユーザ] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] セクションで、[スタイル] を [FTPユーザ@FTPサーバファイアウォールのユーザ] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <Firewall_server>
USER <FTP_username>@<FTP_server> <Firewall_username>
PASS <FTP_server_password>
ACCT <Firewall_password>
```

詳細

[ファイアウォール経由での接続](#)

3.6.4 Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

Secure Shell 接続は、サーバ認証とユーザ認証の両方を要求します。Secure Shell プロトコルは、データ暗号化も行います。FTP クライアントを使用して Secure Shell 接続を構成するとき、次のいずれかの方法を使用して、転送されるすべてのデータを確実に安全に暗号化できます。

- SFTP プロトコルを使用してファイルを転送する。
- FTP プロトコルを使用してファイルを転送し、トンネリングを使用してすべての通信を安全な SSH トンネルを介して転送する。

詳細

- [Secure Shell を使った接続 \(FTP クライアント\)](#)
- [FTP 通信の転送](#)

Secure Shell を使った接続 (FTP クライアント)

FTP クライアントでの認証および暗号化に Secure Shell を使用するには、以下の手順に従います。

FTP クライアントで Secure Shell 接続を構成するには

1. FTP クライアントを起動します。

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - ** [接続]** コマンドをクリックします)。
2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイトの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。
	[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。
	[ログイン情報] ダイアログボックスで、[ユーザ] を選択します。
既存サイトの変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] をクリックします。
4. [Secure Shell] セクションを選択します。
5. [Reflection Secure Shellを使用] を選択します。
6. 次のいずれかのオプションを選択します。

[SFTP]	Reflection は SFTP (Secure FTP) プロトコルを使用して接続します。SFTP では、対応するコマンドの数が、完全な FTP プロトコルより少なくなります。
--------	--

[ポート転送を使用した FTP コマンドのトンネリング]	[ローカルポート] に指定したポートが SSH トンネルを介して保護されます。このように設定した場合、すべての FTP コマンドが使用できるようになります。すべての通信は SSH トンネルを介して送信されます。これには、ユーザ名やパスワードなどの FTP コマンド、およびディレクトリ一覧や転送するファイルの内容などのすべての転送データが含まれます。
------------------------------	---

7. (オプションで) **[SSH 構成セクション]** を指定します(**[SSH 構成セクション]** を空白にすると、行ったあらゆる変更は、現在のホストと同じ名前の SSH 構成セクションに保存されます)。
8. (オプション) **[構成]** をクリックして **[Secure Shellの設定]** ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、ユーザ認証とそのほかの Secure Shell の設定を構成します。
9. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイトの作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、[次へ] をクリックします。 [FTPユーザログイン]ダイアログボックスで、FTPサーバでのユーザ名を入力して、[次へ]をクリックします。 [完了] をクリックします。

目的	操作
既存サイトの変更	[OK] をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

💡 メモ

- ホスト認証により、Secure ShellクライアントはSecure Shellサーバを確実に識別することができます。この認証は、公開鍵認証を使用して行われます。ホストの公開鍵がクライアントに事前にインストールされていない場合は、初回の接続試行時に、不明なホストであることを示すメッセージが表示されます。このメッセージにはホストを識別する指紋が含まれています。ホストが実際に自分のホストであることを確認するには、正しい指紋であるかどうかを確認できるホストのシステム管理者に問い合わせる必要があります。ホストが実際に自分のホストであることを確認するまでは、別のサーバがユーザのホストを装う「中間者」攻撃を受ける危険性があります。
- ほとんどの場合、ホストに接続して既定のSecure Shell構成を使用し、パスワードでログインできるようになります。別のユーザ認証方法を構成する必要がある場合、またはSecure Shell構成にほかに変更を加える必要がある場合は、[Secure Shellの設定]ダイアログボックスを使用します。
- FTPクライアントの[サーバの種類]の既定値は[自動検出]です。この設定は、Secure Shell が SFTP 用に構成されている場合は無効になります。SFTPを使用するようにSecure Shellを構成した場合、FTPクライアントはこの設定を自動的に[自動検出]から[UNIX]に変更します。サーバの種類を変更するには、Secure Shellの設定を構成した後に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブを使用します。

詳細

Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

FTP 通信の転送

この手順を使用してSecure Shellポート転送を使用したFTPプロトコル通信（FTPコマンドチャンネルおよびすべてのデータチャンネルを含む）を暗号化します。ポート転送を使用することで、FTPサーバに安全に接続でき、SFTP 接続では使用できないオプションやコマンドも含め、すべての FTP オプションおよびコマンドにアクセスできます。

💡 メモ

データチャンネルの転送を有効にするためには、FTPクライアントは、パッシブ(PASV)モード(既定値)で通信するように構成されている必要があります。

FTP通信を転送するには

- 1. FTPクライアントを起動します。[FTPサイトに接続] ダイアログボックスが開きます。(クライアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - ** [接続]** コマンドをクリックします)。
- 2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイトの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTPサイトの追加] ダイアログボックスで、FTPサーバホストの名前またはIPアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボックスで、[ユーザ] を選択します。
既存サイトの変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

- 3. [セキュリティ] をクリックします。
 - 4. [Secure Shell] タブをクリックします。
 - 5. [Reflection Secure Shellを使用] を選択します。
 - 6. [ポート転送を使用した FTP コマンドのトンネリング] チェックボックスをオンにします。
 - 7. この手順は、Secure Shell サーバが FTP サーバとは別のホスト上にある場合のみ、実行する必要があります。
- [FTP ホストが Secure Shell ホストと異なる] チェックボックスをオンにします。

 **メモ**

- [FTPホストがSecure Shellホストと異なる] をオンにした場合、FTPコマンドとデータは、クライアントコンピュータからSecure Shellサーバに安全なトンネルを介して安全に送信されます。コマンドとデータは、Secure ShellサーバとFTPサーバ間で暗号化されずに送信されます。
- [SSHサーバアドレス] で、Secure Shellサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。
- [SSHユーザ名] で、Secure Shellサーバでのログイン名を入力します。

- 8. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイトの作成	[OK] を選択して [セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、[次へ] を選択します。[FTPユーザログイン] ダイアログボックスで、FTPサーバでのユーザ名を入力して、[次へ] を選択します。[完了] を選択します。

目的	操作
既存サイトの 変更	[OK] を選択して、開いているダイアログボックスを閉じます。

 **メモ**

Secure ShellサーバとFTPサーバの両方に認証を行う必要があります。

3.6.5 SSLとTLS接続 (FTPクライアント)

SSL/TLS 接続 (FTP クライアント)

Secure Socket Layer (SSL) プロトコルと、その後に開発された Transport Layer Security (TLS) プロトコルにより、公衆通信回線を介して、クライアントとサーバ間で暗号化された安全な接続を確立できます。SSL/TLS を使用した接続では、クライアント側でサーバを認証してから接続を確立し、クライアントとサーバ間でやりとりされる全データが暗号化されます。サーバ構成によっては、サーバはクライアントの認証も行います。

説明

[SSL/TLS の構成 \(FTP クライアント\)](#)

SSL/TLS の構成 (FTP クライアント)

 **メモ**

SSL/TLS接続では認証のためにデジタル証明書が使用されます。証明書がどのように発行されたかによって、およびホストがどのように構成されているかによって、SSL/TLS を使用して接続するためにホストや個人の証明書をインストールしなければならないことがあります。

FTP クライアントで安全な SSL/TLS 接続を構成するには

1. FTP クライアントを起動します。
- [FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - ** [接続]** コマンドをクリックします)。
2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイトの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボックスで、[ユーザ] を選択します。
既存サイトの変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] を選択します。
4. [セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [SSL/TLS] セクションで、[SSL/TLSセキュリティを使用] を選択します。
5. (オプション) SSL/TLS 接続の暗号化の最小許容レベルを指定するには、[暗号化レベル] 一覧のレベルを選択します。指定したレベル以外が使用されていると接続に失敗します。

暗号強度のオプション	説明
推奨されるサイファ	FTPクライアントはホストシステムと交渉して、ホストとクライアントの両方でサポートされる最強の暗号化レベルを選択します。この新しい設定には、Rocket Softwareで推奨されている暗号化レベルが含まれ、定期的に変更されます。 注: FIPSモードで実行していて、[推奨されるサイファ] を選択した場合、FTPクライアントはFIPS準拠の暗号化レベルのみを使用するように交渉します。
カスタムサイファ	[カスタムサイファ] を選択した場合は、[カスタムサイファ] リストビュー内の使用可能なサイファ一覧から選択するように求められます。 注: デフォルト、168、128、または256ビットの暗号化強度を使用している以前のバージョンのReflectionからのセッションファイルは、カスタムサイファとしてインポートされ、これらの設定オプションに対して旧バージョンで使用されていたリストが維持されます。

6. (オプション)左側のメニューで [PKI] セクションを選択します。

これにより、[PKIの構成] 設定が開き、認証に使用するデジタル証明書を管理できます。

Reflection証明書マネージャを使用するには

- a. [PKIの構成] 設定から [Reflection証明書マネージャ] を選択します。
- b. [Reflection証明書マネージャ] ダイアログボックスで、[信頼された認証局(Trusted Certificate Authorities)] タブを選択します。
- c. [インポート] を選択し、サーバのCA証明書を参照して選択します。

- d. 必要に応じて、既定の設定を変更します(例えば、Reflection 証明書マネージャの格納場所だけを使用するには、[システムの格納場所にある証明書を使用して SSL/TLS に接続する] をオフにする必要があります。このオプションをオンにすると、Reflection FTPクライアントは、Reflection証明書マネージャの格納場所とWindows証明書ストアの両方で証明書を検索します)。

💡 メモ

デフォルトのPKI設定のいずれかをカスタマイズすると、 `pki_config` ファイルが作成されます。

- a. [証明書マネージャ] ダイアログボックスを閉じ、[OK] をクリックして、開いているほかのダイアログボックスを閉じます。

インポートされた証明書は `trust_store.p12` ファイルに保存されます。

接続が確立されたら、ツールバーの [保存] ボタンをクリックしてセッションドキュメントを保存します。

7. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイトの作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックスで、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。[終了] をクリックします。
既存サイトの変更	[OK] をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

💡 メモ

- Reflectionでは、SSL/TLS接続を確立する前にホストシステムを認証します。認証のためにホストから提示される証明書は、信頼された認証局からのものである必要があります。コンピュータが認証局を認識できない場合は、SSL/TLS 接続を確立することはできません。ホストの証明書が発行された方法によっては、コンピュータに証明書をインストールする必要があります。
- SSL/TLS接続を行うと、データストリームが暗号化されていることを示す南京錠のアイコンが表示されます。キーアイコンはコマンドチャネル (入力されたパスワードを含む) が暗号化されていることを示します。

4. FTP クライアント設定ファイルの操作

4.1 FTP クライアント設定ファイルの操作

Reflection FTP クライアントは、設定ファイルを使って構成を保存します。設定ファイルの拡張子は、RFW です。

- FTP クライアント設定の保存
- 保存されている FTP クライアント設定の読み込み
- FTP クライアント設定のインポート
- FTP クライアントへの WS_FTP 設定のインポート
- [終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス
- [FTP 設定のエクスポート] ダイアログボックス

詳細

FTP クライアント設定ファイル

4.2 FTP クライアント設定の保存

FTP クライアント を Windows の [スタート] メニューから起動すると、「Settings.rfw」という名前の付いた設定ファイルが自動的に開き、構成に対して行ったすべての変更がこのファイルに保存されます。必要に応じて、別の設定ファイルを作成することもできます。

[ファイル] - [<ファイル名>の上書き保存] コマンドをクリックします。

別の設定ファイルに設定を保存するには

1. [ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。
2. 保存するファイルの名前を入力します。
3. (オプション) クライアント起動時にこの設定ファイルを開くショートカットをデスクトップに保存する場合は、[ショートカットをデスクトップに保存する] チェックボックスをオンにします。
4. [保存] をクリックします。

詳細

- [FTP クライアント設定ファイル](#)
- [保存されている FTP クライアント設定の読み込み](#)
- [FTP クライアント設定のインポート](#)
- [設定ファイルを読み込むショートカットの作成](#)

4.3 保存されている FTP クライアント設定の読み込み

FTP クライアント を Windows の [スタート] メニューから起動すると、「Settings.rfw」という名前の付いた設定ファイルが自動的に開き、構成に対して行ったすべての変更がこのファイルに保存されます。その他の設定ファイルを作成している場合は、これらのファイルを開くのに次のいずれかの方法を使用できます。

[ファイル] - [開く] コマンドを選択し、保存されているファイルを検索して指定します。

Windows ショートカットを使用して設定ファイルを開くには

1. 設定ファイルを保存したら、ショートカットを作成します。
2. このショートカットを使って、クライアントを起動し設定ファイルを読み込みます。

詳細

- [FTP クライアント設定の保存](#)
- [設定ファイルを読み込むショートカットの作成](#)
- [FTP クライアント設定のインポート](#)
- [FTP クライアント設定ファイル](#)

4.4 FTP クライアント設定のインポート

[設定のエクスポート] コマンドを使って FTP クライアント設定を XML フォーマットにエクスポートできます。この手順では、設定を XML ファイルからインポートします。

設定を XML ファイルからインポートするには

1. [ファイル] - [設定のインポート] コマンドを選択します。
2. サイト構成が保存されている XML ファイルを検索して見つけます。
3. [開く] をクリックします。

サイトが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

4. **[OK]** をクリックします。

🔔 メモ

インポートファイルに含まれている設定が現在の設定に追加されます。セッションタイトルは変更されません。これは、保存されている設定ファイル(*.rftw)を開く場合と異なります。設定ファイルを開いた場合は、そのファイルに含まれている設定によって現在のクライアントの設定が上書きされ、開いた設定ファイルの名前がセッションタイトルになります。

詳細

- [FTP クライアント設定の保存](#)
- [保存されている FTP クライアント設定の読み込み](#)
- [FTP クライアント設定ファイル](#)
- [\[FTP 設定のエクスポート\] ダイアログボックス](#)

4.5 FTPクライアントへのWS_FTP設定のインポート

WS_FTPから移行している場合は、FTPクライアントに設定をインポートできます。

まず、`wsftp_options.ini` ファイルを見つけます。通常は、以下の場所にあります。

`C:\Users*\AppData\Roaming\IPSwitch\WS_FTP C:\Documents and Settings*\Application Data\Ipswitch\WS_FTP`

WS_FTP設定をインポートするには

1. FTP クライアントの **[ファイル]** メニューから、**[設定のインポート]** を選択します。
2. **[ファイルの種類]** ドロップダウンリストから、**[インポート WS_FTP (wsftp_options.ini)]** を選択します。
3. `wsftp_options.ini` ファイルを参照して指定し、**[開く]** をクリックして、**[OK]** をクリックします。
4. 設定が正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
5. **[ファイル]** > **[保存]** をクリックして、インポートした設定を保存します。

詳細

[FTP クライアント設定の保存](#)

4.6 [終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス

現在のセッションで設定に変更を加えた場合は、Reflection FTP クライアントで [終了時に変更内容を保存] ダイアログボックスが表示されます。オプションは次のとおりです。

[保存]	すべての設定ファイルに加えた変更を保存します。
[破棄]	現在のセッション中に行われた変更内容を保存せずに終了します。
[キャンセル]	[終了] コマンドをキャンセルして、変更を保存しないで Reflection セッションに戻ります。

4.7 [FTP設定のエクスポート] ダイアログボックス

表示方法

FTP クライアントで、[ファイル] - [設定のエクスポート] コマンドを選択します。

オプションは次のとおりです。

[サイト]	サイト固有の設定は、[サイト]>[プロパティ]ダイアログボックスまたは[ディレクトリ定義ウィザード]を使用して構成されます。サイトごとに、ユーザ名とパスワードを除くすべての設定がエクスポートされます。ユーザ名とパスワードも一緒に保存するには、[ユーザ設定] チェックボックスをオンにします。 どのサイトの構成を設定ファイルにエクスポートするかを選択します。エクスポート対象から除外するサイトがある場合は、そのサイトを選択し、[削除] をクリックしてください。
[アプリケーション設定]	アプリケーション設定は、サイトやユーザとは独立した、FTP クライアントの動作に関連する設定です。次の情報が含まれています。 [オプション] ダイアログボックスの [全般] タブの [既定のローカルホームフォルダ] [オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブの全設定項目 [オプション] ダイアログボックスの [ユーザ設定] タブの全設定項目

ユーザ設定	次の情報が含まれています。 [サイトプロパティ] ダイアログボックスの [ユーザ名] と [パスワード] [オプション] ダイアログボックスの [全般] タブの [anonymousパスワード] ディレクトリ定義ウィザードで作成した独自の設定
ファイル名	エクスポートされた設定ファイルのパスおよびファイル名を入力します。既定のファイル名を変更する場合は、拡張子付きでファイル名を指定してください。

詳細

- [FTP クライアントの全体設定の変更](#)
- [FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更](#)
- [ディレクトリ定義ウィザードの実行](#)

5. サイトおよびグローバルプロパティの構成

5.1 サイトおよびグローバルプロパティの構成

- [FTP クライアントの全体設定の変更](#)
- [FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更](#)

5.2 FTP クライアントの全体設定の変更

5.2.1 FTP クライアントの全体設定の変更

グローバル設定では、すべてのサーバへの接続に使用する既定値を設定できます。

グローバル設定を構成するには

[ツール] - [オプション] コマンドを選択します。

詳細

- [\[全般\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)
- [\[ファイルの種類\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)
- [\[ユーザ設定\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)
- [\[ファイル属性\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)
- [\[ディレクトリ属性\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)
- [FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更](#)

5.2.2 [全般]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

① 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

オプションは次のとおりです。

[anonymous パスワード]	FTP サイトへの anonymous 接続で使用する、既定のパスワードを入力します。 SFTP 接続では、この機能は使用できません。
[既定のローカルホームフォルダ]	クライアントの起動時に自動的に表示され、サーバから転送されたファイルを受信するフォルダを指定します。Windows ユーザフォルダが既定のフォルダです。 [既定のローカルホームフォルダ] はグローバルな既定設定です。[サイト]>[プロパティ]ダイアログボックスの[ディレクトリ]タブにある[ホームフォルダ]にサイト固有の値を指定した場合、この既定設定は無視されます。 ローカルのホームフォルダを指定するには、次のようなUNCパスを使用できます。 <code>\\<computername>\<sharename>\<pathname></code>

詳細

[\[ディレクトリ\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

5.2.3 [ファイルの種類]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

① 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

このタブを使用し、スマートファイル転送を構成します。スマートファイル転送を使用可能にすると、定義された拡張子を持つファイルはすべてその拡張子に割り当てられている転送方式で転送されます。スマートファイル転送を有効にするには、[ツール] - [転送方式] - [スマート] コマンドを選択します。

オプションは次のとおりです。

[スマートファイル転送方式]	転送方式に割り当てられているすべてのファイルの種類を一覧表示します。
[新規]	[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックスを開きます。
[削除]	現在選択されているファイルの種類 (拡張子) を一覧から削除します。
[変更]	現在選択されているファイルの種類 (拡張子) を編集します。
[未定義拡張子の転送方式]	転送方式に関連付けられていない拡張子の既定の転送方式を指定します。 [ユーザに尋ねる] を指定した場合は、その拡張子を持つファイルの転送時に、転送方式を指定するよう求めるメッセージが表示されます。その時点で、特定の転送方式を選択するか、または [必ずユーザに尋ねる] を選択できます。

詳細

- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [\[スマートファイル拡張子の追加\] ダイアログボックス](#)

5.2.4 [ユーザ設定]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

① 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

オプションは次のとおりです。

[FTP クライアントの終了時に]	クライアントが設定の変更を処理する方法を選択します。[構成を自動的に保存する] を選択すると、変更は現在の設定ファイルに保存されます。
[ファイル削除の確認ダイアログボックスを表示する]	ファイルまたはフォルダを削除する前に、削除してよいかを確認するかどうかを選択します。
[進行状況ウィンドウを表示しない]	接続進行状況、転送進行状況、エラー通知の各ダイアログボックスを表示しないように設定します。

[アニメーションを使用しない]	既定では、一部の操作の実行中にアニメーションが表示されます。例えば、ディレクトリ一覧の取得中には、懐中電灯が振られているアニメーションが表示されます。アニメーションの表示をオフにすると、Reflection が応答しなくなるなどの問題を解決できる場合があります。
[サイト間の転送を、強制的にローカルマシンを経由して行う]	すべてのサイト間転送を、強制的に、ファイルを最初にローカルコンピュータへコピーしてから次に転送先サーバにコピーして行います。サイト間での直接転送に対応していない FTP サーバの場合に使用します。 注意: いずれかのサーバへの接続でセキュリティ機能を使用しているか、転送方式が[バイナリ]でない場合、クライアントは、この設定の値に関係なくファイルを常にこの方法で転送します。

詳細

- [FTP クライアント設定ファイル](#)
- [FTP クライアント設定ファイルの操作](#)
- [2 つのリモートサイト間でのファイルの転送](#)

5.2.5 [ファイル属性]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

ⓘ 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

このタブを使用して、ファイル転送のための既定の属性を構成します。

[アップロード時に既定のファイル属性を設定]	サーバにコピーされたファイルの既定のアクセス権を設定します。[アップロード時に既定のファイル属性を設定] をオンにすると、[許可モード] ボックスを使用するか、[所有者]、[グループ]、および [公開] を使用して、アクセス権を指定できます。 注意: ファイル転送中に既定以外のアクセス許可を指定するには、[サイトのプロパティ] - [転送] - [転送前にアップロードオプションを表示する] を構成します。 この設定を有効にすると、ファイルをサーバに転送する前に、[ファイルアップロードオプション] ダイアログボックスが表示されます。 [アップロード時に既定のファイル属性を設定] を選択すると、クライアントは chmod コマンドをサーバに送信して、ユーザが指定したアクセス許可を設定します。サーバがこのコマンドに対応していない場合は、chmod コマンドが認識されないことを示すサーバエラーメッセージが送信されます。
[ダウンロード時に既定のファイル属性を設定]	クライアントにコピーされたファイルの既定の属性を設定します。[ダウンロード時に既定のファイル属性を設定] を選択すると、[読み取り専用] チェックボックスまたは [隠しファイル] チェックボックスを使用して属性を指定できます。 注: ファイル転送時に既定以外のアクセス許可を指定するために、[サイトのプロパティ]>[転送]>[転送前にダウンロードオプションを表示する] を構成できます。この設定を有効にすると、ファイルをクライアントに転送する前に、[ファイルダウンロードオプション] ダイアログボックスが表示されます。

詳細

- [ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定](#)
- [ダウンロード時のファイル名の変更](#)
- [アップロード時のファイル名の変更](#)
- [ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定](#)

5.2.6 [ディレクトリ属性] タブ([オプション] ダイアログボックス)

① 表示方法

FTPクライアントの [ツール] メニューから [オプション] を選択します。

このタブでは、新しく作成したディレクトリに対するデフォルトの許可を設定します。

オプション	説明
[作成時にデフォルトのディレクトリ属性を設定]	このオプションを有効にすると、サーバ上に新しいディレクトリが作成された時にディレクトリの許可を設定できます。
[許可モード]	ホストに対して有効な値である3桁の数値を入力します。注: 有効な数字の値は0から7です。
[所有者]、[グループ]、および [パブリック]	ユーザの各種類について付与する、読み取り、書き込み、または実行の許可を選択します。

詳細

[ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定](#)

5.3 FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更

5.3.1 FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更

[サイトプロパティ] ダイアログボックスを使って、特定のリモートサイトに接続する時にクライアントが行う処理を設定します。

特定のサイトの設定を変更するには

① 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

💡 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

詳細

- [全般] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- [接続] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- [ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- [変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- [変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- [情報] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- FTP クライアントの全体設定の変更

5.3.2 [全般]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

① 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。
[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)
2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

💡 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

指定されたサイトへの接続情報を提供するには、このタブを使用します。

オプションは次のとおりです。

[FTP アドレス]	ログオンする FTP または SFTP サーバを入力します。ドメイン名、URL、または IP アドレスを入力できます。
[サーバの種類]	この値が [自動検出] に設定されていると、ほとんどの場合、サーバが FTP クライアントによって正しく識別されます。FTP クライアントが、接続先のサーバの種類を正常に識別していない場合は、この一覧から選択します。 SFTP セッションでは、[自動検出] は使用できません。SFTP セッションでの既定値は [UNIX] です。

[ログオンの種類]

[匿名]	FTP サーバにゲストとしてログオンする場合は、ユーザ名に [匿名] を使用します。(SFTP 接続では、anonymous ログオンは使用できません)。 このサーバに anonymous としてログオンする場合は、[パスワード] ボックスには、[オプション] ダイアログボックスの [全般] タブで指定された anonymous パスワードが自動的に入力されます。既定以外のパスワードを使用するには、そのサイト固有のパスワードをここに入力してください。
------	---

[ユーザ]	登録されたユーザ名を使用し、指定されたサーバにログオンします。
[ユーザ名]	FTP サーバの登録ユーザ名を入力します。
難読化テストとしてパスワードを保存	難読化されたテキストとしてパスワードを設定ファイルに保存し、このサーバにログオンする際に使用します。
[パスワード]	FTP サーバで登録されているユーザ名に FTP サーバで関連付けられているパスワードを、入力します。
[Windows の資格情報を使用する]	データ転送を実行するとき、FTP サーバのユーザ名およびパスワードではなく、Windows の資格情報を使用します。このオプションを使用できるのは、IBM System i (AS/400)およびIBM AS/400 (フォーマット0)サーバ種類の場合のみです。
[セキュリティ]	指定されたサーバへの、セキュアな接続を構成します。

5.3.3 [接続]タブ ([サイトのプロパティ]ダイアログボックス)

① 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

🔗 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューから[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブを使用すると、接続を維持するための設定や、待ち時間の間隔を指定するための設定を構成できます。

💡 メモ

SFTP接続の場合、このタブで利用できる設定は[IPv6を使用する]のみです。

接続オプション

[パッシブモードを使用する]	オンにすると、サーバとパッシブ (PASV) モードで通信するためにクライアントから PASV コマンドを送信します。パッシブモードで通信すると、ディレクトリ一覧とファイル転送用に別々のデータ接続が確立されます。 ファイアウォールとの接続の問題を最小限にするために、パッシブモードを使用します。 passive モードをオフにしている、ディレクトリ一覧が表示されなかったり、「425 Can't open data connection」(データ接続を開くことができません) というエラーが返される場合は、このチェックボックスをオンにしてください。 IPv6 接続では EPSV が使用されます。
[キープアライブの送信間隔]	ほとんどのサーバでは、「idle time」に、活動が検出されない場合にユーザの FTP セッションを継続する時間を指定することができます。この時間を超過すると、サーバとの接続が切断されます。この設定を使うと、指定された間隔で NOOP コマンドをサーバに送信するようにクライアントに指示し、サーバが不活動状態を理由に接続を切断してしまうのを防ぐことができます。このチェックボックスを選択した場合は、NOOP コマンドの送信間隔を秒数で指定してください。
[TCP ポート]	[TCP ポート] ボックスを使用して、FTP の標準以外の TCP サービスポート番号 (ソケット) を指定します。既定値 (21) は、FTP の標準サービスポートです。

[アカウント]	サーバに、ファイルアクセス用のアカウント名が必要であれば、ここに入力します。大文字と小文字を区別するサーバの場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。 接続した時に[アカウント]ボックスがすでに記入されている場合は、ログオンの最後のlistitemとして自動的にアカウント名がサーバに送信されます。
----------------	---

待ち時間 (秒数)

[接続]	FTP サーバへの接続が確立されるまでの最大待ち時間を秒数で選択します。このボックスに 0 を入力すると、FTP クライアントが接続を試みる際の待ち時間の制限がなくなります。
[セッション]	データパケットをホストとの間で転送する時の最大待ち時間を秒数で選択します。ここで指定された時間内に何も受信しない場合は、時間経過エラーが表示され、転送は中止されます。この場合は、転送を再試行してください。時間経過エラーが繰り返される場合は、接続待ち時間の値を増やしてください。このボックスに 0 を入力すると、FTP クライアントが応答を待機する際の待ち時間の制限がなくなります。

その他の設定

[IPv6 を使用する]	ホストへの接続で IPv6 (Internet Protocol バージョン 6) と古い IPv4 プロトコルのどちらを使用するかを指定します。既定では、クライアントは IPv6 を使用して接続を試み、IPv6 を使用できない場合は IPv4 を使用します。IPv6 が有効なクライアントコンピュータから IPv4 ネットワーク上のホストへの接続で問題が発生している場合は、この値を「無効」に変更する必要があります。
---------------------	---

**Initial
umask**

この設定を使用すると、接続時にサーバに送信する umask の初期値を指定できます。umask を使用すると、新たに作成されたファイルに設定された、既定の許可属性を変更できます。umask を指定すると、ログイン時に、クライアントから FTP サーバに次のものが送信されます。ここで、nnnn は、指定された unmask 値です。

```
SITE umask nnnn
```

umaskがFTPサーバでサポートされているSITEコマンドであるか調べるには、FTP コマンドラインに次のコマンドを入力します：

```
QUOTE help site
```

注意:

FTP クライアントによって設定される umask は、サーバで設定されるユーザ許可より制限の少ないものにすることはできません。

[ツール] - [オプション] - [属性] - [アップロード時に既定属性を設定] を使用してグローバルアップロード属性を構成した場合、このオプションは使用できません。

SFTP 接続では、このオプションは使用できません。

5.3.4 [ディレクトリ]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

① 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

💡 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューから[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブを使用すると、ディレクトリ一覧の表示方法を指定できます。オプションは次のとおりです。

サーバ

[ホームディレクトリ]	接続時に FTP クライアントが表示するサーバディレクトリを選択します。
[接続時にディレクトリを表示する]	このサイトに接続するたびに、サーバの作業ディレクトリに含まれるファイルとフォルダを右画面に一覧表示するかどうかを指定します。サーバのディレクトリを表示せずに別のサーバディレクトリに移動するには、[ツール]-[]-[移動]] コマンドを使うか、FTP コマンドラインで CD コマンドを使う必要があります。
[ディレクトリを自動的に更新する]	CD コマンドの実行時またはサーバ上のファイルやディレクトリを追加または削除する操作の実行時に、右画面に表示されるサーバのディレクトリ一覧を更新するかどうかを指定します。
日付をローカルシステムの形式に変換	Windows のコントロールパネルの地域の設定で指定された形式で日付を表示するかどうかを指定します。サーバ上で使用される形式で日付を表示するには、このチェックボックスをオフにします。
[リンクを処理する]	シンボリックリンクに対応したサーバに接続する場合のディレクトリ一覧の作成方法を指定します。このチェックボックスが選択されている場合、サーバ画面はフォルダを正しく使って、ディレクトリを識別するシンボリックリンクを表示します。この機能を必要とせず、ファイル一覧の新規作成や更新の際の応答時間を短縮したい場合は、このチェックボックスをオフにしてください。
[ディレクトリ一覧にキャッシュメモリを使用する]	ローカル PC 上でディレクトリ一覧にキャッシュメモリを使用するかどうかを指定します。ディレクトリ一覧にキャッシュメモリを使うと、サーバのディレクトリ間を移動する際のサーバ画面の表示が速くなりますが、サーバファイルに加えた変更は反映されません。このチェックボックスがオフになっていると、表示を変更するたびにファイル一覧がサーバから更新されます。 注意: [更新] コマンド ([F5]キー) を使うと、ファイル一覧にキャッシュメモリを使用している場合でも、サーバに加えたすべての変更が常に表示されます。

[ファイル名だけ を表示する]	ディレクトリ一覧に、ファイル名だけが含まれるかどうかを指定します。クライアントがホストのディレクトリ一覧を表示できない場合、この設定を使って問題を解決できます。ファイル一覧の作成には、このチェックボックスがオフになっている場合は FTP の LIST コマンドが使われ、チェックボックスがオンになっている場合は NLST が使われます。 この設定は SFTP 接続には適用されません。
[PWD コマンド を送信しない]	このオプションがオンになっていると、FTP クライアント は、サーバに接続しても PWD コマンドを送信しません。この設定をオンにすると、一部のホストで発生する接続上の問題を回避できることがあります。この設定がオンの場合は、接続中のサーバのディレクトリパスが、サーバ画面のタイトルバーに表示されなくなり、ツールバー左側の [別のフォルダへ移動] リストボックスに、ホストのディレクトリ情報が表示されなくなります。この場合、このリストボックスには、サーバ画面を選択している時もローカル PC ワークステーションのディレクトリが表示されます。 注意: サーバに接続する前に、[F7]キーを押してコマンドウィンドウを表示してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返される場合は、この設定をオンにしてみてください。 この設定は SFTP 接続には適用されません。
[ファイルの表示 フィルタ]	サーバによって認識されるワイルドカード文字を使用し、サーバの既定の表示フィルタを入力します。詳細については、「サーバファイルの一覧のフィルタリング」の項目を参照してください。SFTP 接続では、この機能は使用できません。
[LIST コマンド のパラメータ]	FTP クライアント が FTP の LIST コマンドをサーバに送信する際に使うコマンドパラメータを指定します。どのパラメータを指定すべきかは、接続先のサーバの種類によって異なります。この値を変更することによって解決できる問題もあります。MDEL コマンドを使用する場合、LIST コマンドパラメータの変更は慎重に行ってください。 一部のシステムでは、サブフォルダのファイルが再帰的に一覧表示される場合があります。 SFTP 接続では、この機能は使用できません。

[ディレクトリの作成前に属性を表示する]	サーバに新しいディレクトリを作成する際に、ディレクトリのアクセス許可を設定するダイアログボックスが必ず表示されるようにするには、このオプションをオンにします。
----------------------	---

ローカル

[ホームフォルダ]	FTP クライアントのホーム (既定の) フォルダへのパスを入力します。サイトへの接続が確立すると、ローカル作業フォルダは指定されたホームパスに自動的に設定され、[ダウンロード] コマンドを使って転送されるすべてのサーバファイルはこの場所に受信されます。 このサイトについては、グローバルの[既定のローカルホーム] フォルダ設定は無視されます。
-----------	--

詳細

サーバファイルの一覧のフィルタリング

5.3.5 [変換]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

① 表示方法 1. FTP クライアントを起動します。 [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。) 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。	
💡 メモ • サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[サイトプロパティ]を選択します。 • 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。	

サーバから、またはサーバに送信されるテキストデータの文字フォーマットを制御するには、このタブを使用します。

 **重要**

SFTP接続では、[変換]タブの設定は使用できません。

サーバに

[タブを空白に置換する]	空白は、アップロードされたファイルのタブ文字を置換します。
[タブの幅]	空白をタブにまたはタブを空白に置き換えた時に使用するタブストップのサイズを指定します。
[CTRL-Z を文末とみなす]	オンにすると、ファイル転送では Ctrl-Z (^Z) がファイルの終止符とみなされ、送信時のファイルから削除されます。オフにすると、ファイルのディレクトリ内の文字カウントが、ファイルの長さとして使用されます。(「Ctrl-Z」がテキストファイルの最後の文字である場合、FTP クライアントは「Ctrl-Z」を送信しません)。

サーバから

[空白をタブに置換する]	ダウンロードされたファイル内の、連続した空白をタブ文字に置換するには、これを選択します。[タブの幅] ([サーバに] の下) に、1 つのタブに相当する空白数を指定します。
[文末に CTRL-Z を付加する]	ローカルコンピュータ上では、通常、テキストファイルは Ctrl-Z (^Z) 文字で終わります。サーバから受信したファイルに ^Z 文字を加えたい場合は、このオプションを選択します。Windows アプリケーションによっては、このマークを必要とするものがあります。
[行末の空白を削除する]	オンにすると、ローカルディスクの容量を節約できます。ホストテキストファイルの一部では、固定長レコードを使用して行を区切ります。その場合、各行の末尾には空白が埋め込まれます。しかし、PC 用のほとんどのワープロソフトは復帰/改行 (CR/LF) シーケンスを使って行および段落を区切るため、区切り文字の前に空白を入れる必要がありません。

[サーバ上の日付表示形式]	6桁の日付をサーバ上でどのように表示するかを指定します。ここで、MMは月、DDは日、YYは年を表しています。
---------------	--

追加のオプション

[文字セット] ボタン	[文字セット] ダイアログボックスを開き、サーバの文字セットと、Windows または DOS のいずれかの文字セットの変換を構成します。
-------------	---

詳細

[\[文字セット\] ダイアログボックス](#)

5.3.6 [変換]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

サーバと PC 間のファイル転送中の、ファイル名と日付の処理方法を指定するには、このタブを使用します。オプションは次のとおりです。

サーバからのダウンロードオプション

[サーバファイルの日付を保持する]	ダウンロードされたファイルに関連付けられた、元の日付スタンプを保持します。サーバから転送したファイルに転送日時を示す日付スタンプを関連付けたい場合は、このチェックボックスをオフにします。 注意: [ディレクトリ]タブの[ファイル名だけを表示する]チェックボックスがオンになっている場合は、サーバファイルの日付は保持されません。 ファイルを Windows デスクトップまたは Windows エクスプローラフォルダにドラッグする時、サーバファイルの日付は保持されません。ファイルの日付を保持するには、FTP クライアントのローカル画面にファイルをドラッグします。 スクリプトで実行される転送の間に元のサーバの日付を保持するには、スクリプトの起動時にサイト設定を読み込むか、スクリプトの先頭に以下の行を追加します。 <code>PRESERVE-FILE-DATE yes</code>
[Windows ファイル名を 8.3 形式で作成する]	オンにすると、ホストファイルがDOS 8.3ファイル名形式で受信されます。 たとえば、<code>Longfilename.Document</code> という名前のファイルは、PCに転送された時に <code>Longfile.doc</code> に自動的に変換されます。 注意: このチェックボックスを選択してワイルドカードによる転送を行う際、2つの長いファイル名が同一のDOS 8.3形式名に変換される場合に[既存のファイルがある場合]コマンドを[上書き]に設定すると、2番目に転送されるファイルが最初のファイルを上書きしてしまいます。こうした事態が起こらないようにするには、[既存のファイルがある場合]の設定を[別名を付ける]に変更します。
[途中終了したバイナリファイルのダウンロードを再開する]	これを選択すると、FTP クライアントは、ファイルの転送が中断されてから、未転送となっている部分のダウンロードを再開します。 詳細については、「未完了のサーバファイル転送の再開」の項目を参照してください。 SFTP 接続では、この機能は使用できません。
転送前にダウンロードオプションを表示する	サーバから新規ファイルをダウンロードする前に、転送方式 (テキスト、バイナリなど) およびファイルのプロパティ (読み取り専用、または非表示) を問い合わせるには、このオプションを選択します。

[転送前に SITE コマンドを送信する]	ファイルがダウンロードされる前に実行される SITE コマンドを入力します。FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの SITE コマンドが現在の FTP サーバでサポートされるかを調べます。QUOTE help site この機能はSFTP接続では使用できません。
-----------------------	--

サーバへのアップロードオプション

[ファイル名の拡張子を削除]	ホストに転送されるファイルの名前から拡張子を削除します。アップロードされたファイルの名前に 1 つ以上のドットが含まれる場合は、最後のドットと、それ以降の文字はファイル名から削除されます。
[ファイル名の前に文字を追加する]	ホストへコピーされるファイルの名前の前に指定した文字を追加します。例えば、この機能を使って、IBM ホストに転送する際のメンバ名を指定できます。HP POSIX ホストに接続している場合、この値はピリオドの後にスラッシュが付いたもの (./) に自動的に設定されます。
[サーバファイル名の文字数を制限]	ホストに転送されるファイルの名前の文字数を制限します。この文字数よりも長いファイル名は短縮されます。
長いファイル名の大文字/小文字の区別設定	転送されたファイル名がDOS 8.3形式のファイル命名規則に適合していない場合にファイル名の大文字と小文字がどのように扱われるかを選択します。
8.3形式ファイル名の大文字/小文字の設定	転送されたファイル名が DOS 8.3 形式のファイル命名規則に適合している場合にファイル名の大文字と小文字がどのように扱われるかを選択します。
[MVS 上の領域を計算する]	既定で、FTP クライアントは、ローカルのファイルサイズに基づき、MVS システム上のトラックの数を計算して事前に割り当てます。この機能を無効にする場合は、このオプションをオフにします。この設定は、MVS ホストのみに適用されます。
[転送前に SITE コマンドを送信する]	ファイルがアップロードされる前に実行される SITE コマンドを入力します。FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの SITE コマンドが現在の FTP サーバでサポートされるかを調べます。 QUOTE help site この機能はSFTP接続では使用できません。

[転送前にアップロードオプションを表示する]	サーバに新規ファイルをアップロードする前に、転送方式 (テキスト、バイナリなど) およびファイル権限の属性を問い合わせるには、このオプションを選択します。
------------------------	---

詳細

- 既存のファイルの処理方法(転送モード)
- 未完了のサーバファイル転送の再開
- [ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定

5.3.7 [情報]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

 メモ

- サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[サイトプロパティ]を選択します。
- 接続時に、[サイト][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブには、現在のFTP クライアントの接続に関する情報が表示されます。このタブは、サイトに接続している場合のみ使用できます。

[リセット] をクリックすると、転送時間と転送効率に関するデータがゼロにリセットされます。

6. ファイルの転送

6.1 ファイルの転送

- FTP クライアントでのファイルの転送
- ファイル転送方式の設定(転送方式)
- スマートファイル転送するファイルの種類の追加
- スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加
- 既存のファイルの処理方法(転送モード)
- ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定
- 2つのリモートサイト間でのファイルの転送
- ダウンロード時のファイル名の変更
- アップロード時のファイル名の変更
- 未完了のサーバファイル転送の再開
- [文字セット] ダイアログボックス
- [スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス
- [スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス
- [ファイル置換の確認]ダイアログボックス

6.2 FTP クライアントでのファイルの転送

ドラッグしてドロップするだけで、ファイルをFTP クライアントに転送できます。個々のファイル、複数のファイル、およびフォルダ全体をドラッグできます。

FTP クライアントでファイルを転送するには

1. FTP サイトに接続します。
2. 転送方式を指定します ([ツール] -> [転送方式] コマンド)。
3. 既存のファイルの処理方法についてユーザ設定を行います。[ツール] - [既存のファイルがある場合] コマンド)。

💡 メモ

[**サイトプロパティ**] ダイアログボックスを使うと、ファイル転送をさらに詳細に設定することができます。ファイル転送の設定には、以下のサイト特有のプロパティを使用できます。

4. 転送するファイルまたはフォルダおよび転送先を検索して見つけます。
5. 転送するファイルまたはフォルダを選択して、転送元の場所から目的の転送先へドラッグします。

💡 メモ

FTP (またはSFTP) ファイル転送コマンドを使ってファイルを転送したい場合は、FTPコマンドラインから直接、転送を開始することができます。

詳細

- [サイトへの接続](#)
- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [既存のファイルの処理方法\(転送モード\)](#)
- [ローカルPCファイルの表示](#)
- [サーバファイルの表示](#)
- [FTPコマンドラインの使用](#)

6.3 ファイル転送方式の設定(転送方式)

[**転送方式**] には、転送に使用するファイルの種類を指定します。選択されている転送方式は、ステータスバー、ツールバー、[**転送方式**] メニューに示されます。

[**ツール**] - [**転送方式**] をポイントし、使用したい転送方式をクリックします。

オプションは次のとおりです。

- [**ASCII**] テキストファイルには、[**テキストファイル**] を選択します。テキストデータは、[**文字セット**] ダイアログボックスの設定に基づいて転送されます。
- [**バイナリ**] **.exe** ファイルや **.doc** ファイルなどのバイナリファイルを転送するには、**バイナリファイル** 転送方式を使用します。バイナリファイルは、転送時に変換が行われません。

- **Tenex (ローカル8)** DECsystem-20など、1バイトが8ビットでないバイトを使用しているサーバとの間でファイルを移動する場合は、**Tenex**を使用します (この転送方式は「ローカル8」としても知られています)。
- **スマート FTPクライアント**で、ソースファイルの拡張子に応じて使用する転送方式 ([**ASCII**]、[**バイナリ**]、[**Tenex**]、または[**ユーザに尋ねる**]) を決定する場合は、[**スマート**]を選択します。これを設定するには、[**ツール**] > [**オプション**] > [**ファイルの種類**]を選択します。

詳細

- [\[文字セット\] ダイアログボックス](#)
- [スマートファイル転送するファイルの種類の追加](#)
- [スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加](#)
- [\[スマートファイル拡張子の追加\] ダイアログボックス](#)

6.4 スマートファイル転送するファイルの種類の追加

FTP クライアントで、ソースファイルの拡張子によって、使用する転送方式 ([**テキストファイル**]、[**バイナリファイル**]、[**Tenex**]、または [**ユーザに尋ねる**]) を決定する場合は、スマート転送方式を使用します。スマートファイル転送方式を使用する時には、クライアントはスマートファイル拡張子の一覧を参照してそのファイルに使用する転送方式を調べます。既定のスマートファイル拡張子の一覧に拡張子を追加したり、既存の拡張子に関連付けられている転送方式を変更することができます。例えば、拡張子 `.doc` を持つファイルに**バイナリ**転送方式を使用するように指定することなどができます。

スマートファイル転送するファイルの種類を新規に追加するには

1. [**ツール**] - [**オプション**] コマンドを選択します。
2. [**ファイルの種類**] タブをクリックします。
3. [**新規**] をクリックします。
4. [**スマートファイル拡張子の追加**] ダイアログボックスの設定を使って、次のように新しい拡張子とその拡張子を持つファイルの転送方法を定義します。

設定項目	操作
[ファイルの種類]	このファイルの種類を識別するファイル名の拡張子を入力するか、一覧からファイルの種類を選択します。

設定項目	操作
[転送方式]	この拡張子を持つファイルの転送方式を選択します。この設定により、この拡張子を持つファイルの保存方法と転送時のデータの取り扱い方法が決定されます。

💡 メモ

- 拡張子を持たないファイルの転送方法を定義するには、を [ファイルの種類] ボックスで選択してから、転送方法を選択します。
- 拡張子が複数の種類のファイルを表している場合は、その拡張子の転送方法として [ユーザに尋ねる] を指定できます。

詳細

- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加](#)
- [\[スマートファイル拡張子の追加\] ダイアログボックス](#)

6.5 スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加

スマートファイル転送する既定のファイルの種類は、未定義の拡張子を持つファイルに適用されます。

スマートファイル転送する既定のファイルの種類を指定するには

1. [ツール] - [オプション] コマンドを選択します。
2. [ファイルの種類] タブをクリックします。
3. [未定義拡張子の転送方式] で転送方式を選択します。

💡 メモ

ファイルの拡張子が同じでも、転送方法が異なる場合は、既定の種類を設定しないでください。[未定義拡張子の転送方式] を [ユーザに尋ねる] に設定してください。または、ファイルを転送する前に、使用したいファイルの転送方式を設定します。

詳細

- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [スマートファイル転送するファイルの種類の追加](#)

6.6 既存のファイルの処理方法(転送モード)

転送モードを設定して、同じ名前を持つファイルが転送先に既に存在する場合に FTP クライアントがどのように転送を処理するかを指定できます。現在の転送モードは、ステータスバーの転送方式の隣に示されます。

[ツール] - [既存ファイルの処理] をポイントし、使用したい転送方式をクリックします。

[追加]	ダウンロードされたファイルを宛先ファイルに追加します。このオプションはホストからの転送にのみ使用できます。
[ユーザに尋ねる]	[ファイル置換の確認] ダイアログボックスを開き、ユーザが処理方法を決定できます。
[キャンセル]	指定された名前のファイルが既に存在する場合に、ファイル転送をキャンセルします。そのファイルがワイルドカードセット (ワイルドカードまたは複数のファイル名を指定して転送するファイル群) の 1 つである場合、重複したファイルが見つかったと残りのファイルは転送しません。
[上書き]	転送先のファイルが上書きされます。
[省略]	このファイルは転送されません。この転送操作の対象として複数のファイルが指定されている場合は、それ以外のファイルに対して処理が続行されます。
[更新]	転送するファイルが転送先のファイルより新しい場合にのみ、転送先のファイルが上書きされます。

[別名を付ける]	宛先ファイルに対し、一意の名前を自動的に作成します。転送中に変更されたファイル名は、FTP コマンドウィンドウに表示されます。
----------	---

💡 メモ

この設定は、無視される場合があります。[ファイル既存の場合に] コマンドを使用して指定した値は、FTP クライアント内での転送にのみ適用されます。クライアントの表示ウィンドウからデスクトップまたは開いている Windows エクスプローラウィンドウにドラッグ & ドロップでファイルを転送する場合、ファイルがすでに存在する時は、FTP クライアントの構成に関係なく、[ファイル置換の確認] ダイアログボックスが表示されます。オプションの現在の設定を利用するには、ドラッグ ドロップによる転送を行う際は必ず Reflection ウィンドウを使用するようにします。

詳細

- [\[ファイル置換の確認\] ダイアログボックス](#)
- [FTP クライアントでのファイルの転送](#)
- [エラー処理に使用するコマンド](#)

6.7 ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定

1. [\[サイトプロパティ\]](#) ダイアログボックスを開いて、[\[転送\]](#) タブをクリックします。
2. サーバから転送したすべてのファイルの元の時刻と日付を保持したい場合は、[\[サーバファイルの日付を保持する\]](#) を選択します。サーバから転送したファイルに転送日時を示すスタンプを関連付けたい場合は、このチェックボックスをオフにします。

詳細

- [FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更](#)
- [\[変換\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

6.8 2つのリモートサイト間でのファイルの転送

FTP クライアントを使うと、2つのリモートサイト間でファイルをドラッグできます。

2つのリモートサイト間でファイルを転送するには

1. 1つ目のサーバに接続します。
2. [接続] - [サイト 2 に接続] コマンドをクリックします。
サーバウィンドウに、両方のサイトのファイルとフォルダが表示されます。
3. ドラッグドロップを使用して、一方のサーバから他方のサーバへ直接ファイルを転送できます。

メモ

- 転送方式が[バイナリ]になっており、どちらの接続でもセキュリティ機能 (プロキシサーバ、Secure Shell、ポート転送、sftpなど) を使用していない場合、データ転送は、2つのサイト間のデータチャンネル上で直接行われます。
- いずれかのサーバへの接続でセキュリティ機能を使用しているか、転送方式が[バイナリ]でない場合、クライアントは、ファイルをPCワークステーション上の一時フォルダにいったんダウンロードしてから、転送先のサイトにアップロードします。この時作成される一時ファイルは、転送終了時に削除されます。

詳細

- [FTP クライアントでのファイルの転送](#)
- [サイトへの接続](#)
- [\[ユーザ設定\] タブ \(\[オプション\] ダイアログボックス\)](#)

6.9 ダウンロード時のファイル名の変更

[名前を付けてダウンロード] コマンドは、サーバウィンドウ内のファイルを右クリックすると表示されます。サーバ上のファイルを PC ワークステーションに異なる名前でダウンロードしたい場合、ドラッグ ドロップではなくこのコマンドを使用すると便利です。

異なる名前でファイルをダウンロードするには

1. ダウンロードするファイルを右クリックし、[名前を付けてダウンロード] を選択します。
2. [名前を付けてダウンロード] ダイアログボックスの [ダウンロード先でのファイル名] ボックスに、PC 上でファイルに対して使用したい名前を入力します。
3. [OK] を選択して転送を完了します。

ワイルドカード文字も使用できます。複数のファイルを同時にダウンロードし、すべてのファイル名を変更できます。例えば、ディレクトリ内のすべての `.htm` ファイルを、PC にダウンロードした時に `.html` に変更できます。

異なる名前で複数のファイルをダウンロードするには

1. ダウンロードするファイルの 1 つを右クリックし、[名前を付けてダウンロード] を選択します。
2. [ダウンロード先でのファイル名] ダイアログボックスの [ダウンロードするファイル名] ボックスに、ファイル名の一部をワイルドカードに置き換えて入力します。ファイルを特定できる長さは残しておきます。
例えば、`*.htm` や `*_info_??.text` などです。
3. [名前を付けてダウンロード] ダイアログボックスの [ダウンロード先でのファイル名] ボックスでも、同様にワイルドカード置換を行い、PC で変更するファイル名の一部を変えます。
例えば、`*.html` や `*_info_??.txt` などです。
4. [OK] を選択して転送を完了します。

詳細

- [サーバファイルの表示](#)
- [FTP クライアントでのファイルの転送](#)

6.10 アップロード時のファイル名の変更

[サーバへのアップロード] コマンドは、FTP クライアントの左画面にあるファイルを右マウスボタンでクリックすると表示されます。ローカルファイルをサーバに転送し、サーバ上で異なるファイル名を使用したい場合、このコマンドはドラッグ ドロップによるファイル転送よりも便利です。

異なる名前でファイルをアップロードするには

1. アップロードするファイルを右クリックし、[アップロード]を選択します。
2. [アップロード] ダイアログボックスの [アップロード先でのファイル名] ボックスに、サーバ上でファイルに対して使用したい名前を入力します。
3. 2つのリモートサイトに接続している場合、[アップロード] ダイアログボックスには両方のサイト名が表示されます。ここで、ファイルを転送するサイトを選択してください。
4. [OK]を選択して転送を完了します。

ワイルドカード文字も使用できます。複数のファイルを同時にアップロードし、すべてのファイル名を変更できます。例えば、ディレクトリ内のすべての `.htm` ファイルを、サーバにアップロードした時に `.html` に変更できます。

異なる名前で複数のファイルをアップロードするには

1. アップロードするファイルの1つを右クリックし、[アップロード]を選択します。
2. [アップロード先でのファイル名] ダイアログボックスの [アップロードするファイル名] ボックスに、ファイル名の一部をワイルドカードに置き換えて入力します。ファイルを特定できる長さは残しておきます。
例えば、`*.htm` や `*_info_?.text` などです。
3. [アップロード] ダイアログボックスの [アップロード先でのファイル名] ボックスでも、同様にワイルドカード置換を行い、サーバで変更するファイル名の一部を変えます。
例えば、`*.html` や `*_info_?.txt` などです。
4. [OK]を選択して転送を完了します。

詳細

- [ローカルPCファイルの表示](#)
- [FTP クライアントでのファイルの転送](#)

6.11 未完了のサーバファイル転送の再開

サーバファイルを PC にダウンロードする時に、雑音や遅延によるネットワーク接続の喪失などが原因で、転送が完了しない場合があります。

メモ

SFTP接続では、この機能は使用できません。

ファイルの転送が完了されなかった場合は、自動再開機能を使って中断された時点から転送を再開することができます。自動再開機能を使用できるのは、次の各条件が満たされている場合だけです。

- FTP サーバが REST コマンドに対応

ファイル転送を自動再開するために FTP クライアントは REST (Restart) コマンドをサーバに送ります。FTP サーバが REST コマンドに対応していない場合は、ファイル転送はファイルの最初から開始されます。各サイトについて、1 回目の自動再開が試行された後、FTP クライアントは結果を記憶します。REST コマンドに対応していないサーバに対してはファイル転送の自動再開を試みません。

特定のサーバがこの機能に対応しているかどうかを判定するには、コマンドラインで次のように入力します。

```
quote help rest
```

`rest` が再起動コマンドとして識別される場合は、サーバはこの機能に対応しています。

- ファイル転送方式 (または種類) は、バイナリでなくてはなりません。

自動再開機能では、ソースファイルのサイズを未完了の転送先ファイルのサイズと比較して、ソースファイルのどこから転送を再開するかを決定します。テキストファイル転送方式で PC 上に作成されるファイルのサイズは、ソースファイルのサイズと異なる可能性があります。

- ファイル転送モードが「追加」以外

追加モードでファイルを転送する時は、FTP クライアントは既存の転送先ファイルサイズを使ってソースファイル内の再開位置を決定することができません。

未完了の転送を再開するには

1. 必要ならば、ソースファイルがあるサーバに再接続します。
2. 上記の 3 つの状況を確認してください。
3. [サイトのプロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブで、[途中終了したバイナリファイルのダウンロードを再開する] を選択します。

4. サーバファイルのダウンロードを再開します。例えば、転送できなかったサーバファイルを選択してから PC 上の転送先にドラッグします。
5. クライアントは、そのファイルに対して過去に不完全なファイル転送操作が行われたことを検出し、ファイル全体に対して新たなファイル転送を開始する代わりに、中断された地点から不完全な転送を再開するオプションを提供します。
6. **[再開]** をクリックします。

詳細

- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [既存のファイルの処理方法\(転送モード\)](#)
- [\[変換\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

6.12 [文字セット] ダイアログボックス

1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスで、サイトのひとつを選択して、**[プロパティ]** ボタンをクリックします
-または-
サイトにすでに接続されている場合は、**[接続]** - **[サイトプロパティ]** コマンドをクリックします。
2. **[変換]** タブをクリックして、**[文字セット]** ボタンをクリックします。

文字変換の必要性は、変換元と変換先で使用されている文字セット間での相違の有無によって生じます。たいていの場合、変換は不要です。

- クライアントとサーバの両方で DOS 文字セットを使用している場合、文字変換は不要です。
- クライアントで Windows 文字セットを使用し、サーバが ISO-Latin-1 (ISO ラテン-1) 文字セットを使用している場合、文字変換は不要です。

FTP クライアントは、サーバの文字セットと Windows または DOS の文字セット間の変換を行うことができます。これらの設定は、テキストファイルの転送時と、サーバから送信された文字を画面に書き込む時に適用されます。

💡 メモ

SFTP接続では、この機能は使用できません。

オプションは次のとおりです。

[ファイルの変換]	テキストファイルの変換を有効にします。PC ファイルがサーバに送信される際や、サーバから送信された文字がクライアントファイルに書き込まれる際に文字変換が行われます。
[サーバメッセージの変換]	サーバから送信された文字を画面に表示する際に変換を有効にします。
[サーバの日本語文字セットの自動認識]	文字変換を、ファイルまたはメッセージ内に含まれている日本語文字セットの種類に基づいて行うかどうかを指定します。このオプションは、サーバが「EUC」、「DEC 1983 漢字」、または「JIS X0208-1983」に設定されている時で、「ファイルを変換する」または「サーバメッセージを変換する」のいずれかが選択されている時だけ使用可能です。[サーバ] に指定した日本語文字セットを常時使用する場合はこのチェックボックスをオフにします。
クライアント	[ファイルを変換する] の選択時にクライアント PC 上で使用する文字セットを指定します。既定では、現在の Windows 文字セットが設定されています。
[サーバ]	テキストファイルの転送時 ([ファイルを変換する] が選択されている場合) とサーバメッセージの変換時 ([サーバメッセージを変換する] が選択されている場合) に使用する文字セットを指定します。
[ISO-7/NRC]	変換に使用する国別文字セット (NRC) を指定します。変換によって、ASCII セットの文字のいくつかが特定の言語で使用されているアクセント付き文字とシンボルに置き換えられます。このオプションは、サーバ文字セットが「 DEC補助文字 」、「 ISOラテン-1 」、「 HP Roman 8 」のいずれかであり、[Roman-8をISO-7に置換する]と[ISO-7をRoman-8に置換する]が選択されている、または[MCSをNRCに置換する]と[NRCをMCSに置換する]が選択されている場合にのみ使用できます。

サーバに

これらのオプションは、[ファイルを変換する] または [サーバメッセージを変換する] のいずれかが選択されている場合にのみ使用可能です。

[NRC を 8 ビット文字に置換する]	[ISO-7/NRC] を [アメリカ] 以外の値に設定した場合、このオプションを選択すると、変換が可能なかぎり、8 ビット文字が相当する ISO-7 文字に変換されます。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。 このオプションは、サーバの文字セットが[HP Roman 8]に設定されている場合にのみ使用可能です。
----------------------	---

[DEC 国際文字を NRC に置換する]	文字が DEC 国際文字セット (MCS) から現在選択されている国別文字セット (NRC) に変換されるかどうかを指定します。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。 このオプションは、サーバの文字セットが「DEC補助文字」または「ISOラテン-1」に設定されている場合にのみ使用可能です。
[半角カタカナを全 角に置換する]	文字が現在の半角カタカナの文字セットから全角カタカナの文字セットに変換されるかどうかを指定します。 変換時に使用する日本語文字セットは、[サーバ] の値で指定します。 このオプションは、[サーバ] の文字セットが JIS タイプ (Shift-JIS 以外) のいずれか、2 つの DEC Kanji タイプ、および EUC (Unicode) に設定されている場合にのみ使用可能です。

サーバから

これらのオプションは、[ファイルを変換する] または [サーバメッセージを変換する] のいずれかが選択されている場合にのみ使用可能です。

[NRC を 8 ビット 文字に置換する]	[ISO-7/NRC] を [アメリカ] 以外の値に設定した場合、このオプションを選択すると、ISO-7 文字が相当する 8 ビット文字に変換されます。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。このオプションは、[サーバ] の文字セットが [HP 8 ビット文字] に設定されている場合にのみ使用可能です。
[NRC を DEC 国 際文字に置換す る]	文字が現在選択されている国別文字セット (NRC) から DEC 国際文字セット (MCS) に変換されるかどうかを指定します。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。 このオプションは、[サーバ] の文字セットが [DEC 補助文字] または [ISO ラテン-1] に設定されている場合にのみ使用可能です。

[全角カタカナを半角に置換する]	文字が現在の全角カタカナの文字セットから半角カタカナの文字セットに変換されるかどうかを指定します。 変換時に使用する日本語文字セットは、[サーバ] の値で指定します。 このオプションは、[サーバ] の文字セットが JIS タイプ (Shift-JIS 以外) のいずれか、2 つの DEC Kanji タイプ、および EUC (Unicode) に設定されている場合にのみ使用可能です。
------------------	---

詳細

[\[変換\]タブ \(\[サイトプロパティ\]ダイアログボックス\)\)](#)

6.13 [スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

表示方法

1. [ツール] - [オプション] コマンドを選択します。
2. [ファイルの種類] タブで [新規作成] をクリックします。

スマートファイル転送方式を選択すると、指定の拡張子を持つファイルはすべてここで指定した転送方式で転送されます。

[ファイルの種類]	特定の転送方式に関連付けるファイルの拡張子を入力するか、一覧からファイルの拡張子を選択します。
[転送方式]	この拡張子を持つソースファイルに使用する転送方式を選択します。

詳細

- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)
- [スマートファイル転送するファイルの種類の追加](#)
- [スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加](#)

6.14 [スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

[スマート] 転送方式が選択されていて、未定義拡張子のファイルを転送する場合に、このダイアログボックスが表示されます。この拡張子を持つソースファイルに使用する転送方式を指定します。

 **メモ**

設定ファイルを保存すると、その関連付けが[スマート]ファイル転送一覧に永続的に追加されます。

オプションは次のとおりです。

[ASCII]	<code>.txt</code> 、 <code>.html</code> などのテキストファイルを転送する場合に ASCII 転送を使用します。
[バイナリ]	<code>.exe</code> 、 <code>.doc</code> などのバイナリファイルを転送場合にバイナリ転送を使用します。バイナリファイルは、転送時に変換が行われません。
[Tenex]	DECsystem-20 など、1 バイトが 8 ビットでないバイトを使用しているサーバとの間でファイルを移動する場合は、Tenex を使用します (この転送方式は「ローカル 8」としても知られています)。
[必ずユーザに尋ねる]	その拡張子のファイルの処理方法を必ず尋ねられるようにする場合、このオプションを選択します。例えば、異なるファイルの種類で同じファイル拡張子ที่ใช้用される場合、このオプションを選択します。[必ずユーザに尋ねる] がそのファイルの種類にすでに指定されている場合、このオプションは使用できません。

詳細

- [スマートファイル転送するファイルの種類の追加](#)
- [ファイル転送方式の設定\(転送方式\)](#)

6.15 [ファイル置換の確認] ダイアログボックス

[ファイル既存の場合に] コマンドを [ユーザに尋ねる] に設定した場合は、転送しようとするクライアントファイルまたはサーバファイルが転送先にすでに存在していると、このダイアログボックスが表示されます。オプションは次のとおりです。

[サーバファイルをローカルファイルに追加する]	ダウンロードされたファイルを宛先ファイルに追加します。このオプションはホストからの転送にのみ使用できます。
[ローカル/サーバファイルを上書きする]	転送先のファイルが上書きされます。
[このファイルを省略する]	このファイルは転送されません。この転送操作の対象として複数のファイルが指定されている場合は、それ以外のファイルに対して処理が続行されます。
[別名を付ける]	転送先フォルダで使用する新しいファイル名を入力して [OK] をクリックします。
[自動的に別名を付ける]	宛先ファイルに対し、一意の名前を自動的に作成します。転送中に変更されたファイル名は、FTP コマンドウィンドウに表示されます。
[古いローカル/サーバファイルを更新する]	転送するファイルが転送先のファイルより新しい場合にのみ、転送先のファイルが上書きされます。

詳細

[既存のファイルの処理方法\(転送モード\)](#)

7. ファイルとフォルダの管理

7.1 ファイルとフォルダの管理

- ファイルの操作
- ローカルフォルダの操作
- ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成
- サーバディレクトリの操作方法
- 既定ホームディレクトリの設定
- ファイル名の文字について
- サーバファイルの一覧のフィルタリング
- ディレクトリ定義ウィザードの実行
- ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定
- [サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス
- [サーバ ファイルのプロパティ] ダイアログボックス
- [フォルダへ移動] ダイアログボックス

7.2 ファイルの操作

[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。これらのコマンドを使用すると、ディレクトリの名前の変更、削除、および FTP クライアント内でその他のディレクトリ管理タスクを実行できます。

また、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューのコマンドにアクセスできます。例えば、ファイルに関する情報を取得するには、ファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

ファイルをダブルクリックして開くか、実行します。

メモ

サーバファイルの内容を表示したり、サーバ上のプログラムを実行したりするために、ファイルはサーバからWindowsユーザフォルダにコピーされます。

詳細

- [ローカルフォルダの操作](#)
- [サーバディレクトリの操作方法](#)
- [ファイル名の文字について](#)
- [サーバファイルの一覧のフィルタリング](#)

7.3 ローカルフォルダの操作

ローカル PC 上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアント の左画面を使用します。コンピュータやローカルネットワーク上のディスクドライブを参照したり、新規フォルダを作成したり、FTP クライアント内でその他のディレクトリ管理タスクを実行したりできます。[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

新しいフォルダは、[ファイル] メニューから、コンテキストメニュー (右クリック) から、またはツールバーから追加できます。フォルダへのショートカットを作成するには、コンテキストメニューを使用します。

ローカルディレクトリ構造を表示するには、メインウィンドウの左上隅にある [別のフォルダへ移動] リストボックスを使用します。コンピュータの階層における現在のフォルダの位置を見るには、リストボックス右端の下向き矢印をクリックします。[ツール] メニューとツールバーでは、[1 つ上のフォルダへ] コマンドを使用できます。または、[ジャンプ] コマンドで、フォルダに直接移動することもできます。

ローカルフォルダへ直接移動するには

1. [ツール] - [ジャンプ] コマンドを選択します。
2. 開きたいディレクトリ名を入力します。
例えば、`J:\Payroll\July` です。
3. [ローカルコンピュータ] を選択して、このフォルダが PC 上にあることを示します。

メモ

ディレクトリパスにはUNC (Universal Naming Convention) 名を使用することができます。UNC 名には 47 文字の制限がありますが、各名前には以下の文字を除き、いずれの文字 (大文字と小文字の両方) でも含むことができます: `? " / | < > * :`

を除く大文字と小文字を含む半角英数字 47 文字以内で、次の構文で指定します。

`\\<コンピュータ名>\<共有名>\<パス名>`

詳細

- [ローカルPCファイルの表示](#)
- [既定ホームディレクトリの設定](#)
- [ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成](#)

7.4 ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成

FTP クライアントを使ってローカルファイルのショートカットを作成するには

1. 左画面で、ショートカットを作成したいフォルダとファイルを選択します。
2. 右マウスボタンをクリックして、コンテキストメニューを開きます。
3. コンテキストメニューの [**ショートカットの作成**] をクリックして、選択したフォルダとファイルそれぞれのショートカットを作成します。

ショートカットは PC 上の現在のフォルダに作成されます。

詳細

- [ローカルフォルダの操作](#)
- [ファイルの操作](#)

- ローカルPCファイルの表示

7.5 サーバディレクトリの操作方法

サーバ上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアントの右画面を使用します。リモートディレクトリを参照したり、新規フォルダを作成したり、ファイル一覧をフィルタリングしたりできます。[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

新しいフォルダは、[ファイル] メニューから、コンテキストメニュー (右クリック) から、またはツールバーから追加できます。

リモートディレクトリ構造を表示するには、メインウィンドウの左上隅にある [別のフォルダへ移動] リストボックスを使用します。サーバサイトの階層における現在のディレクトリの位置を見るには、リストボックス右端の下向き矢印をクリックします。[ツール] メニューとツールバーでは、[1 つ上のフォルダへ] コマンドを使用できます。または、[ジャンプ] コマンドで、リモートディレクトリに直接移動することもできます。

リモートディレクトリへ直接移動するには

1. [ツール] - [ジャンプ] コマンドを選択します。
2. 開きたいディレクトリ名を入力します。

サーバの構文に従って、ディレクトリ名を指定してください。

3. [サイト名] をクリックして、このディレクトリがサーバにあることを指定します。

詳細

- サーバファイルの表示
- 既定ホームディレクトリの設定
- サーバファイルの一覧のフィルタリング
- ディレクトリ定義ウィザードの実行

7.6 既定ホームディレクトリの設定

既定ホームディレクトリは、FTP クライアントで既定で表示されるファイルを指定するために使用します。既定サーバディレクトリは、サイトへの初回接続時にサーバ画面に表示されるファイルを指定します。既定のローカルホームフォルダには2種類あります。1つはFTP クライアントのグローバル設定で、もう1つは接続する各サイトに特有のものです。サイト特有のローカルホームフォルダを構成したら、FTP クライアントのローカルウィンドウにはそのフォルダが表示され、サーバウィンドウには既定のサーバホームディレクトリが表示されます。

既定サーバディレクトリを設定するには

1. 右画面を使って、既定に設定したいサーバディレクトリを探します。
2. **[接続]** - **[サイトのプロパティ]** を選択し、**[ディレクトリ]** タブをクリックします。
3. **[サーバ]** の下の **[現在の設定]** ボタンをクリックします。
これにより、現在のサーバの場所が **[ホームディレクトリ]** テキストボックスに入力されます。
4. **[OK]** をクリックします。

💡 メモ

既定のサーバホームディレクトリを変更するには、使用するフォルダを右クリックし、**[ホームディレクトリの設定]** を選択して実行することもできます。

特有の再度の既定のローカルフォルダを設定するには

1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスで、サイトのひとつを選択して、**[プロパティ]** ボタンをクリックします
-または-
サイトにすでに接続されている場合は、**[接続]** - **[サイトプロパティ]** コマンドをクリックします。
2. **[ディレクトリ]** タブをクリックします。
3. **[ローカル]** の下の **[参照]** をクリックして、既定に設定したい PC ディレクトリを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

FTP クライアントの既定のローカルフォルダを設定するには

1. **[ツール]** - **[オプション]** コマンドを選択します。

2. **[ディレクトリ]** タブをクリックします。
3. **[既定のローカルホームフォルダ]** の下の **[参照]** をクリックして、既定に設定したい PC ディレクトリを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

詳細

- [\[ディレクトリ\]タブ \(\[サイトのプロパティ\]ダイアログボックス\)](#)
- [\[全般\]タブ \(\[オプション\]ダイアログボックス\)](#)
- [ローカルフォルダの操作](#)
- [サーバディレクトリの操作方法](#)

7.7 ファイル名の文字について

FTP クライアントは長いファイル名に対応しています。Windows の長いファイル名には空白を含むことはできますが、以下の文字を使用することはできません。

```
\ / : * ? " < > |
```

以下の長さの制限があります。

- 最大パス (ファイル名を除く): 246 文字 (ドライブ名、`:` 文字および `\` 文字を含む)。半角 246 文字の制限は、終端ヌル文字を使用する標準 8.3 形式でのファイル名の追加を可能にします。
- 最大ファイル名: 256 文字 (終端 null 文字を含む)
- 有効な最長の名前 (パス + ファイル名): この値は、Windows の各オペレーティングシステムでは少し異なります。すべての Windows システムで有効になるように、パスは 259 文字以内に収めてください。

空白を含むファイル名

FTP コマンドまたは SFTP コマンドを使用する場合は、空白を含むファイル名はどれも二重引用符で囲む必要があります。引用符の使用規則については、「[FTP または SFTP コマンド内の引用符](#)」の項目を参照してください。

禁止された文字を使用している、またはサーバファイル名が長すぎる場合

PC へのファイル転送で、FTP クライアントは、次の規則に基づいて PC 側で指定されたファイル名が Windows で有効かどうかを自動的に確認します。

- すべての不正な文字を取り除きます。例えば、`fast*lane` は、`fastlane` になります。
- 無効な文字は次のとおりです: `\ / : * ? " < > |`
- 必要であればファイル名を切り詰めます。Windows では、長さに関する制約は適用されません。
- Windows のパスは、常時変更されません。サーバファイル名と受信側の Windows パスが文字数制限を超える場合、サーバファイル名が切り詰められます。
- ファイル名がピリオドで始まる場合、ファイル名の最後から必要な数だけ文字を削除します。ファイル名にピリオドが入る場合、クライアントは、名前の最後のピリオドの位置を判断し、そのピリオドの左側から必要な数だけ文字を削除します。

[**サイトプロパティ**] ダイアログボックスの [**転送**] タブで [**Windows ファイル名を 8.3 形式で作成する**] オプションを選択しておくと、サーバサイトから転送したファイルのサーバファイル名が長すぎるか無効な文字を含んでいる場合に、有効な DOS 名を自動的に付けることができます。

詳細

- [FTP または SFTP コマンド内の引用符](#)
- [ファイルの操作](#)
- [\[変換\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

7.8 サーバファイルの一覧のフィルタリング

ファイルフィルタを使用すると、サーバ上の指定したファイルだけを表示できます。既定のファイルフィルタまたは一時ファイルフィルタを指定することができます。サーバディレクトリにファイルが多数ある場合は、既定のフィルタを使って、ディレクトリ一覧の取得と表示にかかる時間を短縮できます。

💡 メモ

SFTP接続では、この機能は使用できません。

サーバに既定のファイルフィルタを指定するには

1. [**接続**] - [**サイトのプロパティ**] を選択し、[**ディレクトリ**] タブをクリックします。
2. [**ファイルの表示フィルタ**] ボックスに、そのサイトのすべてのサーバディレクトリ一覧に対して既定の表示フィルタを入力します。

例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が `.txt` で終わるものをすべて一覧表示するには「`*.txt`」と入力します。そのサイトで実行しているサーバが認識できるワイルドカード文字を使用する必要があります。

3. [OK] を選択します。

FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。

一時ファイルフィルタを適用するには

1. [表示] - [フィルタ] コマンドをクリックします。

2. [サーバの表示フィルタ] ダイアログボックスで表示フィルタを指定します。

例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が `.txt` で終わるものをすべて一覧表示するには「`*.txt`」と入力します。そのサイトで実行しているサーバが認識できるワイルドカード文字を使用する必要があります。

3. [OK] を選択します。

FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。

💡 メモ

- 同じセッションで2つのサーバに接続している場合、[表示]メニューの[フィルタ]コマンドで指定したフィルタは両方のサーバに適用されます。一方のサーバにのみフィルタを適用したい場合は、そのサーバの表示ウィンドウを右クリックし、ショートカットメニューから[フィルタ]を選択します。
- 表示フィルタを有効にすると、サーバウィンドウのタイトルバーにそのフィルタが表示されます。
- 現在のフォルダにあるすべてのファイルを一覧表示するように要求するには、「*」(アスタリスク)を入力して表示フィルタを指定します。

詳細

- [サーバディレクトリの操作方法](#)
- [\[サーバの表示フィルタ\] ダイアログボックス](#)
- [\[ディレクトリ\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)

7.9 ディレクトリ定義ウィザードの実行

[ディレクトリ定義ウィザード] では、認識されない種類の FTP サーバのディレクトリ形式を定義することができます。このウィザードを使って、FTP クライアントウィンドウの右画面に正しくサーバディレクトリの一覧が表示されて解釈されるように、現在の FTP サイトでディレクトリ出力情報のファイル名およびその他のフィールドを指定することができます。

💡 メモ

FTP サイト上のファイルが正しく表示されている場合は、このウィザードを使用しないでください。

ディレクトリ定義ウィザードを使用するには

💡 メモ

ディレクトリ定義ウィザードを使用するには、[サーバの種類] を [サイトプロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブで [自動検出] (既定値) に設定しておく必要があります。

1. サイトに接続します。
2. [ツール] - [ディレクトリ定義ウィザード] コマンドを選択します。
3. ウィザードの指示に従って、listitems を完了します。

💡 メモ

ファイル名だけが必須フィールドです。他のフィールドは未定義のままでもかまいません。

4. フィールドの場所の指定を完了したとき、[完了] をクリックします。
FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。
5. このディレクトリの一覧も正しくない場合は、満足できる結果が得られるまで、場所を変えて [ディレクトリ定義ウィザード] の実行を繰り返します。

詳細

[FTP クライアントの問題解決](#)

7.10 ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定

サーバ上のファイルのアクセス許可を、サーバウィンドウまたは FTP コマンドラインを使用して変更できます。また、新しいファイルおよびディレクトリのグローバルな既定を構成することもできます。個々のサイトでは、ユーザがファイルを転送したり、新しいディレクトリを作成したりするたびに、このユーザのアクセス許可値をクエリするようにクライアントを構成できます。

サーバウィンドウを使用してファイルおよびディレクトリのアクセス許可を変更するには

1. UNIX ホストまたは Linux ホストに接続します。
2. サーバウィンドウで、1 つまたは複数のファイルまたはディレクトリを選択します。
3. 選択したファイルまたはディレクトリを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. 次のいずれかの方法で、選択したファイルまたはディレクトリの属性を変更します。
 - [許可モード] ボックスに、UNIX の **chmod** コマンドとして有効な 3 桁の数値を入力します。有効な値の桁数は 0 ～ 7 です。
 - [所有者]、[グループ]、および [公開] で、各ユーザタイプの読み取り、書き込み、または実行を許可するオプションを選択します。
5. [OK] をクリックします。

転送されたファイルまたは新たに作成されたディレクトリのグローバルな既定を構成するには

1. [ツール] - [オプション] に進みます。
2. アップロードおよびダウンロードされたファイルの既定のアクセス許可を設定するには、[属性] タブを使用します。
3. 新たに作成されたディレクトリの既定のアクセス許可を設定するには、[ディレクトリ属性] タブを使用します。
4. [OK] をクリックします。

ファイルを転送またはディレクトリを作成するたびにアクセス許可を設定するには

1. [サイトのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
 - サーバ上でディレクトリを作成するたびにアクセス許可を設定するには、[ディレクトリ] タブをクリックして [ディレクトリ作成前に属性を表示] をオンにします。

- ファイルを転送するたびにアクセス許可を設定するには、[転送] タブをクリックして、以下のオプションのいずれか、または両方を選択します: [転送前にダウンロードオプションを表示する]、[転送前にアップロードオプションを表示する]。

2. [OK] をクリックします。

FTPコマンドラインを使用してファイルおよびディレクトリのアクセス許可を変更するには、以下の手順に従います

1. UNIX ホストまたは Linux ホストに接続します。
2. コマンドライン が表示されていない場合は、[F7] キーを押して表示します。
3. UNIX **chmod** コマンドと許可マスクの数値を入力します。

例えば、次のコマンドは指定したファイルの属性を `-rw-r--r--` に設定します。

```
chmod 644 myfile.htm
```

💡 メモ

ディレクトリに対する許可の変更は再帰的ではないので、ディレクトリ内のファイルには影響しません。

詳細

- [FTPコマンドラインの使用](#)
- [\[サーバ ファイルのプロパティ\] ダイアログボックス](#)
- [ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定](#)
- [ダウンロード時のファイル名の変更](#)
- [アップロード時のファイル名の変更](#)

7.11 [サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス

① 表示方法

FTPクライアントで、[表示]メニューから[フィルタ]コマンドを選択します。

[サーバの表示フィルタ] ダイアログボックスを使うと、リモートサイトのディレクトリ一覧に特定の種類のサーバファイルだけを表示するよう要求できます。

ワイルドカードを入力します。例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が `.txt` で終わるものをすべて一覧表示するには「`*.txt`」と入力します。そのサイトで実行しているサーバが認識できるワイルドカード文字を使用する必要があります。[OK] をクリックすると、右画面にあるサーバディレクトリ一覧が更新されて、指定に合ったファイルだけが表示されます。

💡 メモ

- SFTP接続では、この機能は使用できません。
- 表示フィルタを有効にすると、サーバウィンドウのタイトルバーにそのフィルタが表示されます。
- 現在のフォルダにあるすべてのファイルを一覧表示するように要求するには、「*」(アスタリスク)を入力して表示フィルタを指定します。

7.12 [サーバ ファイルのプロパティ] ダイアログボックス

① 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

[FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中でこのダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックします。)

2. サイトに接続し、サーバウィンドウでファイルまたはフォルダを選択します。
3. [ファイル]メニューの[プロパティ]コマンドを選択します。

このダイアログボックスには、現在選択しているサーバのファイルまたはディレクトリに関する情報が表示されます。また、UNIX または Linux サーバの許可を設定するために使用することもできます。

ディレクトリに対する許可の変更は再帰的ではないので、ディレクトリ内のファイルには影響しません。

[属性]	現在の属性を表示します。
[許可モード]	UNIX chmod コマンドとして有効な 3 桁の数値を入力します。有効な値の桁数は 0 ～ 7 です。
[所有者]、[グループ]、および [公開]	ユーザの各種類について、現在選択されている項目に対する読み取り、書き込み、または実行の許可を選択します。

詳細

- [ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定](#)
- [サーバディレクトリの操作方法](#)

7.13 [フォルダへ移動] ダイアログボックス

 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから、[移動]コマンドを選択します。

開きたいフォルダの名前とパスを入力します。

- [ローカルコンピュータ] をクリックして、ローカルコンピュータのパスを指定します。
- サーバに接続している場合、サーバ名が表示されます。このオプションをクリックして、サーバのパスを指定します。

詳細

- [ローカルフォルダの操作](#)
- [サーバディレクトリの操作方法](#)

8. FTP クライアントの起動のカスタマイズ

8.1 FTP クライアントの起動のカスタマイズ

ショートカット、起動スイッチ、およびスクリプトファイルを使用して FTP クライアントの起動方法をカスタマイズすることができます。Windows ショートカットを使用して、Reflection FTP クライアント とサーバにすばやく簡単にアクセスすることができます。次の操作を実行するショートカットを作成できます。

- 設定ファイルを開き、利用可能なサイトの一覧を表示する
- 特定のホストサイトに接続する

詳細

- [設定ファイルを読み込むショートカットの作成](#)
- [サイトに接続するショートカットの作成](#)
- [FTP クライアント起動スイッチ](#)
- [起動コマンドの例](#)
- [起動時にスクリプトファイルを実行する](#)
- [スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例](#)

8.2 設定ファイルを読み込むショートカットの作成

FTP クライアント設定ファイルを読み込んで、**[FTP サイトに接続]** ダイアログボックス (利用可能サイト一覧が表示されます) を自動的に開くショートカットを作成できます。

Reflection FTPクライアントを起動し、設定ファイルを読み込むショートカットを作成するには

1. **[ファイル]** メニューから **[名前を付けて保存]** を選択します。
2. (オプション) 保存するファイルの新しい名前を入力します。
3. **[設定の保存]** ダイアログボックスの左下隅にある **[ショートカットをデスクトップに保存する]** オプションを選択します。
4. **[保存]** をクリックします。

詳細

- [FTP クライアント設定ファイル](#)
- [\[FTP サイトに接続\] ダイアログボックス](#)

8.3 サイトに接続するショートカットの作成

FTP クライアントを起動し、自動的にサイトに接続するショートカットを作成できます。

Reflection FTPクライアントを起動し、サイトに接続するショートカットを作成するには

1. [\[FTP サイトに接続\]](#) ダイアログボックスは、FTP クライアントの起動時に開きます。また、[\[接続\]](#) - [\[接続\]](#) を選択して開くこともできます。
2. 一覧で任意のサイトを右クリックし、[\[ショートカットの作成\]](#) を選択します。
ショートカットがデスクトップに作成されたことを示すメッセージが表示されます。
3. [\[OK\]](#) をクリックします。

詳細

[\[FTP サイトに接続\] ダイアログボックス](#)

8.4 FTP クライアント起動スイッチ

FTP クライアントを起動してコマンドラインパラメータを指定し、自動的に指定したサイトに接続する、指定した FTP スクリプトファイルを実行する、設定ファイルを使って接続する、または、URL で指定されたサーバに接続することができます。

- 起動コマンドでショートカットを設定し、後でそのショートカットをダブルクリックして自動的に起動コマンドが実行されるようにすることができます。ショートカットに指定するプロパティによって、クライアントをウィンドウ内で実行する、最小化の状態で実行する、または、デスクトップで実行するのかを決定します。
- [\[スタート\]](#) - [\[ファイル名を指定して実行\]](#) コマンドを使用する時、[\[名前\]](#) ボックスに起動コマンドを入力できます。

起動コマンドの構文

<実行ファイル>.exe [<サイト>] /<スイッチ> <パラメータ>

<実行ファイル>.exe	FTP 実行ファイルのパスと名前を指定します。次に例を示します。 「FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe」
<site>	設定ファイルに定義されているサイトを指定します。クライアントの起動時にそのサイトのプロパティが使用されます。サイト名に空白が含まれている場合は、" ADA Home " のように引用符で囲んでください。 <サイト> 引数を指定する場合は、常に最初の引数として指定します。/W スイッチといっしょに指定すると、<サイト> 引数は無視されます。 Settings という名前の既定の設定ファイルに定義済みサイトが含まれていない場合は、/RFW スイッチを使用して、サイト定義が含まれている設定ファイルを指定します。
/<スイッチ> <パラメータ>	下にリストされているスイッチを 1 つまたは複数使用して、クライアントの起動時に実行する処理を指定します。

起動スイッチ

/D <診断ファイル>	クライアントとサーバとの間のすべての通信、および問題解決に使用できるその他の診断情報を指定されたファイルに記録します。指定された診断ファイルは「My Documents」フォルダにあります。このファイルは、クライアントを起動するたびに更新されます。
/E	イベントをアプリケーションイベントログに記録します。注意: /D スイッチを使って作成した診断ファイルには、このイベントログよりも詳細な情報が含まれています。
/FMIGRATE	Reflection F-Secure 移行ウィザードを起動します。このウィザードを使用して、F-Secure プロファイルを Reflection 設定ファイルに移行できます。

/L <ログファイル>	クライアントと接続先サーバとの間のすべての通信を指定されたログファイルに記録します。このログファイルはデータを累積的に保存するため、新しい情報は既存の情報の後に追加されます。
/N	Reflection の起動画面を表示しないように設定します。
/RFS <スクリプトファイル>	指定されたスクリプトを実行します。スクリプトを QUIT コマンドで終了する場合は、スクリプトが完了するとクライアントが終了します。
/RFW <設定ファイル>	指定した設定ファイルを使用して接続できるようにします。
/X <エクスポートファイル>	クライアントのメインウィンドウを起動せずに、[設定のエクスポート] ダイアログボックスを直接起動します。
/W <URL>	<URL> パラメータで指定されたサーバに接続します。構文は次のとおりです。 <pre>rftpc[.exe] /W ftp:// [username[:password]@]hostname[:port][/ directory]</pre>
/?	使用可能な起動コマンドを一覧表示します。

詳細

起動コマンドの例

8.5 起動コマンドの例

次のコマンドは、FTP クライアント (Rftpc.exe) を起動して、既定の設定ファイルに定義されている West Coast という名前のサイトに接続します。

```
"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" "West Coast"
```

上の例では、パスの中に空白を含むフォルダ名がありますから、実行ファイルを引用符で囲む必要があります。同様に、サイト名に空白が含まれていますから、引用符で囲まれています。

次のコマンドは、`/W` スイッチを使って FTP サイトの URL を指定し、`/L` スイッチを使ってクライアント/サーバ間のすべての通信を `Ftpinfo.log` という名前のログファイルに記録するように FTP クライアント (`rftpc.exe`) に指示します。

```
"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" /W ftp://ftp.myco.com /L Ftpinfo.log
```

次のコマンドは、設定ファイルを使用して接続し、スクリプトファイルを実行するよう FTP クライアントに指示します。`/RFW` スイッチは設定ファイル `Myfile.rfw` を使って接続するように FTP クライアントに指示します。`/RFS` スイッチはその設定ファイルで指定されているサーバに接続した後スクリプトファイル `Transfer.rfs` を実行するように FTP クライアントに指示します。

```
"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" /RFW  
"C:\Mypath\Myfile.rfw" /RFS "C:\Mypath\Transfer.rfs"
```

詳細

FTP クライアント起動スイッチ

8.6 起動時にスクリプトファイルを実行する

クライアントを起動し、スクリプトファイル内にあるすべてのコマンドを自動的に実行するコマンドラインパラメータを指定できます。この方法を使用すると、一連のコマンドが自動的に実行されます。この機能を使用すると、スクリプトの完了と同時にクライアントアプリケーションが終了します。

- 起動コマンドでショートカットを設定しておけば、後でそれをダブルクリックしたときに自動的に起動コマンドが実行します。ショートカットに指定するプロパティによって、クライアントをウィンドウ内で実行する、最小化の状態で実行する、または、デスクトップで実行するのかを決定します。
- **[スタート]-[ファイル名を指定して実行]** コマンドを使用する時、**[開く]** ボックスに起動コマンドを入力できます。

スクリプトファイル実行用の起動コマンドの構文

```
<実行ファイル>.exe [<サイト>] /RFS <スクリプトファイル>
```

コマンドライン内では、引数はそれぞれ空白で区切ります。

```
<実行ファイル>.exe
```

FTP クライアント実行ファイルのパスと名前を指定します。

例:

```
"C:\Program Files\Micro Focus\Reflection\Rftpc.exe" <site>
```

定義済みのサイトを指定します。クライアントの起動時にそのサイトのプロパティが使用されます。FTP サイト名に空白が含まれている場合は、"ADA Home" のように引用符で囲んでください。

<サイト> 引数を指定する場合は、常に最初の引数として指定します。/W スイッチといっしょに指定すると、<サイト> 引数は無視されます。

```
/RFS <スクリプトファイル>
```

FTP スクリプトファイルのパスと名前を指定します。スクリプトファイル名またはパスに空白が含まれている場合は、"C:\My Script Files\Get lab reports.rfs" のように引用符で囲みます。

詳細

- [FTP クライアント起動スイッチ](#)
- [スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例](#)

8.7 スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例

次のコマンドは、FTP クライアントを起動して、「Central」という FTP サイトに接続し、Upload.rfs という名前の FTP スクリプトファイルを実行します。

```
Rftpc.exe Central /RFS Upload.rfs
```

このコマンドは、FTP クライアントを起動して、「Central」という FTP サイトに自動的に接続します。このスクリプトの実行時、「Central」FTP サイトに対して定義されているプロパティが使用されます。

💡 メモ

サイト名またはスクリプトファイル名に空白が含まれている場合は、次の例のようにその名前を引用符で囲む必要があります。例:

```
Rftpc.exe "My Site" /RFS "Central files download.rfs"
```

詳細

- 起動時にスクリプトファイルを実行する
- FTP スクリプト

9. FTP クライアントの問題解決

9.1 FTP クライアントの問題解決

- [問題の原因を突き止める方法](#)
- [FTP クライアント接続の問題解決](#)
- [ファイル転送の問題解決](#)
- [FTP ディレクトリー一覧の問題解決](#)
- [Secure Shell のログファイル](#)
- [FTP サイト間のファイル転送の問題解決](#)
- [FTP クライアントエラーメッセージ](#)
- [Windows Sockets のエラーメッセージ](#)
- [エラーメッセージ](#)

9.2 問題の原因を突き止める方法

Reflection FTP クライアントで問題が発生した場合は、他のクライアントと動作を比較すると、問題の解決に役立つ場合があります。Microsoft FTP クライアントを使用して問題が発生した FTP サーバに接続し、このクライアントを使用して、問題の起こった操作をもう一度繰り返してみます。

別の FTP クライアントを使用しても同じ問題が繰り返し発生する場合は、以下のいずれかの原因が考えられます。

- 接続先のサーバが、ユーザが実行しようとしている FTP 操作に対応していない。
- 接続先のサーバが正しく構成されていない。
- コマンドで間違った情報を指定している (例えば、ファイルを転送する際に、存在しないパスやファイル名を指定するなど)。

Reflection FTP クライアントを使用する場合に限って問題が発生する (別の FTP クライアントを使用してサーバに接続した時には問題が発生しない) 場合は、問題解決法を参照してください。

詳細

- [FTP クライアント接続の問題解決](#)

- [ファイル転送の問題解決](#)
- [FTP ディレクトリ一覧の問題解決](#)
- [FTP サイト間のファイル転送の問題解決](#)

9.3 FTP クライアント接続の問題解決

FTP クライアントを使用して接続する時の問題を解決するには、この項目を使用します。

接続の設定

- サーバ名、ユーザ名、およびパスワードが正しく入力されていますか? 大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。
- 承認されたユーザだけがサーバにアクセスできるように中継サーバまたは SOCKS プロキシサーバを使用していますか? 使用している場合は、クライアントをファイアウォールまたは SOCKS プロキシサーバ経由で接続するように設定してください。
- 接続を開く時、入力したサーバ名は HOSTS ファイルまたはドメインネームサーバ内で検索されます。ローカルネットワーク上にドメインネームサーバが存在しないで、HOSTS ファイルを使用していない場合は、次の例のように、サーバホストの完全な IP アドレスを指定する必要があります。例えば:
124.24.36.85
- FTP サーバがリモートシステム上で動作していない場合は、接続できません。
- サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとしたとき「接続待ち時間」というメッセージが表示された場合、[サイトのプロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブの [待ち時間 (秒)] の設定値を大きくします。
- FTP クライアントがサーバの種類を判断することができない場合、サーバディレクトリの一覧が正しく表示されないことがあります。その後、[ディレクトリ定義ウィザード] を使って、ディレクトリ形式を変更できます。
- Secure Shell 接続の確立で問題が発生した場合は、Secure Shell のログの情報を確認して問題を解決してください。

接続時の問題解決

エラーメッセージ: ホストアドレスを取得できませんでした。

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- サーバに対して入力したホスト名または IP アドレスが無効です。ホスト名を入力し直してください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。

- ホスト名は、HOSTS ファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、ホストサーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- IPv6 アドレスを入力しましたが、IPv6 対応機能が PC 上で有効になっていません。詳しくは、Microsoft にお問い合わせください。
- ローカルネットワークの外部にあるサーバに接続するためには、適切に構成された IP ルータ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、動作しているかどうかを確認してください。

エラーメッセージ: 接続時間が切れました。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとした時にこのメッセージが表示される場合は、[接続待ち時間] の設定値を増やして、ログイン時のサーバの応答時間を長くしてください。

接続時に Reflection FTP が停止します。

一部のシステムでは、表示上の問題により接続時に Reflection FTP が停止することがありますが、この問題は、アニメーションの表示 (ディレクトリ一覧取得中に表示される、懐中電灯が振られているアニメーションなど) をオフにすることで解決できます。アニメーションの表示をオフにするには、[ツール] - [オプション] コマンドを選択し、[ユーザ設定] タブで [アニメーションを使用しない] をオンにします。

PWD コマンドにホストが応答しません。

既定では、サーバへの接続時に Reflection によって PWD コマンドが送信されますが、一部のサーバはこのコマンドに対応していません。サーバに接続する前に、[F7] キーを押してコマンドウィンドウを表示してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返される場合は、この設定をオンにしてみてください。接続時に PWD コマンドが送信されないようにするには、[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ] タブで、[PWD コマンドを送信しない] をオンにしてください。

エラーメッセージ: PASV がサーバによって実行されませんでした

既定では、クライアントは PASV コマンドを使用して接続します。このため、クライアントはディレクトリ一覧とファイル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確立します。これは、一部のファイアウォールを介して接続する場合に必要です。サーバが PASV コマンドに対応していない場合は、[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [passive モードを使用する] チェックボックスをオフにすることができます。

詳細

- [安全な FTP クライアント接続](#)
- [\[接続\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)
- [ディレクトリ定義ウィザードの実行](#)

- [Secure Shell のログファイル](#)

9.4 ファイル転送の問題解決

FTP または SFTP クライアントを使ってファイルを転送するとき問題が発生した場合は、次の対処方法を参考にしてください。

- ファイルを転送する前にサーバに接続する必要があります。
- 転送したファイルを使用できない場合 (圧縮ファイルを解凍できない、実行可能ファイルを実行できない、テキストファイルを読み取れない等)、ファイル転送を行う前に正しいファイル転送方式を選択したかどうかを確認してください。
- サーバ上の転送先ディレクトリに対する書き込み権を持っていない場合は、サーバへの転送が異常終了することがあります。
- サーバ上のファイルを PC に転送しようとして「アクセスが拒否されました」という内容のメッセージが表示される場合は、受信を試みているファイルと同じ名前の読み取り専用ファイルが PC の転送先ディレクトリにあるか、PC ディレクトリに対する書き込み権がありません。
- 2 つのリモートホスト間でファイルを転送しようとした時にエラーメッセージが表示された場合は、送信側または受信側のサーバがこの機能に対応するように構成されていない可能性があります。
- 転送したテキストファイルに誤った文字が含まれている場合は、文字変換を行い、転送元ファイルの文字が転送先で正しく読み取れるようにする必要があります。FTP クライアントでは、必要に応じて、サーバの文字セットと Windows または DOS の文字セットとの間で文字変換を行えます。文字変換を行うと、転送元ファイルの文字が転送先で読み取れる文字に変換されます。例えば、Windows のアプリケーションで DOS の文字セットを使用するサーバからファイルを転送する場合、または言語特有のアクセントが付いた文字や記号を含むテキストファイルを転送したい場合、文字変換オプションを設定して、ファイルの転送中に変換を行う必要があります。詳細については、「[\[文字セット\]ダイアログボックス](#)」の項目を参照してください。
- ファイル名に空白、引用符、またはワイルドカード文字が含まれており、ファイルの転送に支障がある場合は、「[FTP または SFTP コマンド内の引用符](#)」の項目を参照してください。
- ファイル転送を中止しているとき問題が発生した場合は、サーバを再接続する必要があります。サーバによっては、サーバファイルを受信中に転送を中止すると接続が切断されることがあります。
- **[既存のファイルがある場合]** の設定は、Reflection FTP クライアント内での転送にのみ適用されます。Reflection クライアントの表示ウィンドウからデスクトップまたは開いている Windows エクスプローラウィンドウにドラッグ ドロップでファイルを転送する場合、同じ名前のファイルが選択した転送先にすでに存在する時は、FTP クライアントの設定に関係なく、**[ファイル置換の確認]** ダイアログボックスが表示されます。FTP クライアントオプションの現在の設定を利用するには、ドラッグ & ドロップによる転送を行う際は必ず FTP クライアントウィンドウを使用するようにします。

9.5 FTP ディレクトリー一覧の問題解決

FTP または SFTP サイトのディレクトリー一覧を取得できない場合は、次の項目を参照してください。

ディレクトリー一覧を取得するときの問題、またはサーバがエラー「425 Can't open data connection」(データ接続を開くことができません)を返す場合

サーバウィンドウまたはコマンドウィンドウにディレクトリー一覧が表示されない場合は、サーバが PASV コマンドに対応していない可能性があります。[サイトのプロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [パッシブモードを使用する] 設定をオフにしてみてください。

サーバディレクトリ内のすべてのファイルを表示できない場合

このサイトのサーバディレクトリー一覧に既定のワイルドカードフィルタが指定されていることが考えられます。ワイルドカードフィルタを使うと、ワイルドカードで指定した種類のファイルだけがディレクトリー一覧に表示されます。例えば、フィルタとして *.txt を指定すると、txt で終るファイルだけがディレクトリー一覧に表示されます。

- サーバディレクトリー一覧用の既定ワイルドカードフィルタは、[サイトのプロパティ] ダイアログボックスにある [ディレクトリ] タブで設定します。
- ワイルドカードフィルタを使用している時は、FTP サイト画面 (右画面) のタイトルバーにフィルタが表示されます。
- サーバディレクトリー一覧の既定ワイルドカードフィルタを一時的に上書きするには、[表示] - [フィルタ] を使用します。ディレクトリ内のすべてのファイルおよびフォルダを表示するには * (アスタリスク) を入力します。

SFTP を使用して UNIX サーバに接続する時に間違ったサーバファイルまたは空のサーバファイルが表示される場合

SFTP を使用して接続しておりサーバウィンドウに何も表示されないか、または正しく表示されない場合は、[所定の形式によるリモートディレクトリー一覧を使用] 設定 ([<サイト プロパティ] - [セキュリティ] - [Secure Shell]) を変更してみてください。この設定では、サーバから送信されたデータ一覧スタイルのうち、どれを使用して FTP クライアントの右ウィンドウに表示するディレクトリを作成するかを指定します。この設定が (既定の) オフの場合、FTP クライアントは標準的な UNIX 形式のデータ表示を使用します。このオプションがオンの場合、FTP クライアントは構造化されたデータ一覧を使用します。

サーバに接続する時に「The system cannot find the path specified」(指定されたパスが見つかりません)というエラーメッセージが表示される場合

このエラーは、FTP クライアントが存在しないローカルファイルパスを検索しようとしていることを示している可能性があります。コンピュータ上にフォルダパスが存在することを、ローカルの [ホーム] フォルダ設定で確認してください。この設定を確認または編集するには、[サイトのプロパティ] ダイアログボックスを開いて、[ディレクトリ] をクリックし、[ローカル] の [ホームフォルダ] を見つけます。

詳細

[ディレクトリ定義ウィザードの実行](#)

9.6 Secure Shell のログファイル

Reflection では、最後に行った Secure Shell 接続に関する情報がログファイルに記録されます。次のどちらかの方法を使って、FTP クライアントのこのログを表示します。

- ログ記録を開始して ([ツール] - [記録の開始])、ログ情報をファイルに送信します。
- FTP コマンドウィンドウを開いて ([表示] - [コマンドウィンドウ])、画面にログを表示します。

💡 メモ

[記録内容] オプションを使用して、Secure Shell のログファイルにどの程度の情報を記録するかを指定できます。この設定は、[Secure Shell の設定] ダイアログボックスの [全般] タブで行います。

9.7 FTP サイト間のファイル転送の問題解決

2 つのリモートホスト間でファイルを転送しようとした時に以下のいずれかのエラーメッセージが表示された場合は、送信側または受信側のサーバがこの機能に対応するように設定されていない可能性があります。

- 500 Illegal PORT command (不正な PORT コマンドです)
- 501 IP address for data destination does not match client's (データの宛先の IP アドレスがクライアントのアドレスに一致しません)
- 425 Can't open data connection (データ接続を開くことができません)
- 502 PASV command not implemented by this server (PASV コマンドがこのサーバによって実装されていません)

FTP クライアントでこの問題が発生すると、エラーが受領されてから、まずローカル PC に、続いてターゲットサイトに転送を試行します。転送が正常に完了した場合でも、転送の完了前にエラーメッセージが表示されます。

サイト間の直接転送に対応していないサーバ間で頻繁に転送を行う必要がある場合は、すべてのサイト間転送で最初にファイルをローカルマシンにコピーしてから転送先サーバにコピーするように FTP クライアントを設定できます。このように設定しておけば、上記のエラーメッセージが表示されずにサイト間の転送を行うことができます。

すべてのサイト間転送で、最初にファイルをローカルコンピュータにコピーするには

1. [ツール] - [オプション] コマンドを選択します。
2. [ユーザ設定] タブで、[サイト間の転送を、強制的にローカルマシンを経由して行う] を選択して [OK] をクリックします。

サイト間の直接転送に対応するようにサーバを設定する詳細については、以下を参照してください。

送信サーバの設定

サイト間の転送機能では、バイナリファイルを送信する FTP サーバは、クライアントの IP とは異なる IP アドレスへの PORT コマンドを Reflection FTP クライアントから受け付ける必要があります(サーバによっては、セキュリティ上の理由からこの対応機能を無効にしている場合があります)。PORT コマンドは、データの送信先の TCP PORT を指定します。この PORT コマンドの使用を送信サーバが受け付けない場合、2つのサーバエラーメッセージが表示されます。通常、送信サーバから「500 Illegal PORT command」または「501 IP address for data destination does not match client's」が表示され、続いて受信サーバから「425 Can't open data connection」が表示されます。また、データの受信の前にファイルの索引が作成されるので、受信サーバ上に 0 バイトのファイルが作成されます。サイト間の転送を実行できるようにするには、送信サーバの管理者に問い合わせて、別の IP アドレスへの PORT コマンドをサーバ上で有効にできるかどうかを確認します。

受信サーバの設定

サイト間の転送では、バイナリファイルを受信する FTP サーバは、Reflection FTP クライアントから PASV コマンドを受け付けて、送信サーバに渡す PORT 情報を返す必要があります。受信サーバが PASV コマンドを受け付けない場合、次のエラーメッセージが表示されてサイト間の転送は失敗します。「502 PASV command not implemented by this server」。サイト間の転送を実行できるようにするには、受信サーバの管理者に問い合わせて、PASV をサーバ上で有効にできるかどうかを確認します。

詳細

2つのリモートサイト間でのファイルの転送

9.8 FTP クライアントエラーメッセージ

以下に、表示される FTP クライアントのエラーメッセージの一覧を示し、その問題の対応策について説明します。

接続できていません。

コマンドラインエラーです。サーバにコマンド (PWD、CD、DIR、LS、QUOTE <command> など) を発行しましたが、現在そのサーバにログインされていません。サーバに接続してください。

アクセスが拒否されました。

保護されたファイルやフォルダにはアクセスできません。実行を試みた操作に対する適切な権利を持っていることを確認してください。

すでにサイトに接続されています。

コマンドラインエラーです。OPEN または PASSTHRU コマンドを実行しましたが、サーバにすでにログインしています。CLOSE コマンドを使用して現在の接続を切断してから、新しい接続を行ってください。

接続がタイムアウトしました。

サーバへ接続した後、FTPクライアントは、サーバからの応答を最高 <n> 秒間待ちます。指定の時間内に何も受信されなければ、このメッセージが表示されます。その場合は、もう一度接続し直してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、接続待ち時間の値を増やし、ログイン時にサーバが応答する時間を延ばしてください。これを行うには、[接続] タブを開いて [待ち時間 (秒)] の [接続] テキストボックスを編集するか、コマンドラインで SET TIMEOUT-CONNECT と入力します。

ホストアドレスを取得できませんでした。

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- サーバに対して入力したホスト名またはIPアドレスが無効です。ホスト名を入力し直してください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。
- ホスト名は、HOSTSファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、サーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- ローカルネットワークの外部にあるFTPサーバまたはSFTPサーバに接続するためには、適切に構成されたIPルータ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、動作しているかどうかを確認してください。

コマンド **<コマンド>** には、これ以上の引数が必要です。

コマンドラインエラーです。入力したコマンドには、1 つ以上の引数が必要です。使用可能な FTP コマンドの一覧を表示するには、FTP コマンドラインに `help` と入力します。特定のコマンドの構文を表示するには、`help <コマンド>` と入力します。詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

ファイルがすでに存在しています。

クライアントへのファイル転送が失敗しました。これは、**[ファイル既存の場合に]**のファイル転送モードが**[キャンセル]**に設定されている場合に、PC上にすでに存在する同名のサーバファイルを指定したためです。

メモリが不足しています。

ローカルコンピュータのメモリが不足しています。メッセージが示すように、現在実行している他の不要な Windows アプリケーションを終了してから、もう一度試してみてください。

接続時間が切れました。

サーバに接続後、クライアントはデータパケットの送受信を \<n>秒待ちます。指定の時間内に何も受信されなければ、このメッセージが表示されます。その場合は、もう一度接続し直してください。これを行うには、**[接続]** タブを開いて **[待ち時間 (秒)]** の **[セッション]** テキストボックスを編集するか、コマンドラインで `SET TIMEOUT-SESSION` を使用します(接続待ち時間は別の **[接続]** テキストボックスで管理されます)。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。ログイン時のサーバ応答時間を長く設定するには、この値を大きくします。

<コマンド> は、不明なコマンドです。「`help`」と入力してコマンドの一覧を表示してください。

コマンドラインエラーです。入力したコマンドは認識されません。使用可能な FTP コマンドの一覧を表示するには、FTP コマンドラインに `help` と入力します。特定のコマンドの構文を表示するには、`help <コマンド名>` と入力します。またはコマンドの解説の項目を参照してください。

502 PASV command not implemented by this server (PASV コマンドがこのサーバによって実装されていません)

サーバがPASVに対応していないというエラーメッセージが表示される場合は、**[パッシブモードを使用する]**チェックボックスをオフにしてください。既定ではこの設定はオンになっています。この設定は、一部のファイアウォールを介した接続に対応しています。

詳細

- [サイトへの接続](#)
- [\[接続\] タブ \(\[サイト プロパティ\] ダイアログボックス\)](#)
- [コマンドの解説](#)

9.9 Windows Sockets のエラーメッセージ

以下に、Reflection FTP クライアントセッションの実行時に表示される可能性のある Windows Sockets のエラーメッセージの一覧を示し、エラー状況の解決方法を説明します。Windows と使用している TCP/IP スタック間にあるネットワークインタフェース層でエラーが発生すると、Windows Sockets ライブラリによって次のエラーメッセージ (すべて「WINSOCK エラー:」で始まる) が返されます。Windows Sockets ライブラリ (wssock32.dll というモジュールに入っています) は、Windows オペレーティングシステムに含まれています。

ネットワーク製品の Windows Sockets の実装状態によっては、サーバに接続した際に、次に挙げるいくつかの理由によってこのメッセージが表示されます。

- ファイル転送を開始しようとした場合、あるいはディレクトリ操作 (ディレクトリの変更または現在のディレクトリの更新など) を実行しようとした場合。ファイルを転送、またはディレクトリ一覧を表示しようとした時にこのエラーメッセージが表示される場合は、使用しているネットワーク製品に FTP クライアントが対応していないということです。
- FTP クライアントをもう 1 つ起動し、同じサーバに接続しようとした場合。接続しようとした時にこのエラーメッセージが表示される場合は、使用しているネットワーク製品では、特定のサーバとの接続を一度に 1 セッションしか持てないことを示しています。この場合は、複数の FTP クライアントを起動し、別々に同じサーバに接続することはできません。

接続が拒否されました。

ホスト側の問題によって接続できませんでした。ホストが停止しているか、またはサーバが稼動していないことが考えられます。しばらく待ってから、もう一度接続してみてください。

接続はピアによってリセットされました。

ファイルの転送中に、リモートホストがサーバ接続をリセットしました。サーバとの接続を切断し、接続し直してから、もう一度転送してみてください。

接続時間が切れました。

ネットワークソフトウェアが接続を確立する前に、サーバへの接続待ち時間が切れてしまいました。サーバが稼動していない可能性があります。しばらく待ってから、もう一度接続してみてください。

ネットワークがダウンしています。

Windows Sockets がネットワークサブシステムの障害を検出しました。ネットワークを再起動してください。

ネットワークに接続できません。

現時点では、このホストからネットワークに接続できません。このエラーは、IP ルータ (ゲートウェイ) を使用して、ローカルネットワークの外部にあるサーバに接続しようとしている場合に発生します。このメッセージは、ゲートウェイから転送先のネットワークへの経路上に存

在する IP ルータのいずれか 1 つが停止していることを示しています。ゲートウェイと転送先ネットワークとの間をチェックできるシステム管理者に連絡してください。

バッファ空き領域がありません。

接続数が多すぎます。このエラーは、サーバへの接続、ファイル転送、またはサーバディレクトリの情報を要求している場合に発生します。サーバへの他の不要な接続を終了するか、Windows Sockets を使用しているアプリケーションを閉じて、もう一度操作を行ってみてください。ネットワークで構成されているバッファ容量を増やす方法については、ネットワーク製品に付属のマニュアルを参照してください。

この操作はソケットに対してサポートされません。

クライアントは、ファイル転送またはディレクトリ一覧表示を実行する前に、データセッションを開かなければなりません。データセッションは、ネットワークの Windows Sockets の実装で開くことはできません。

ソフトウェアによって接続が中断されました。

サーバとの間でファイル転送を実行している間に、サーバ接続に使用されている仮想回線が、時間切れまたはその他の理由 (ホストが停止したか、FTPサーバまたはSFTPサーバが稼動していないなど) で強制終了されました。サーバとの接続を切断し、接続し直してから、もう一度転送してみてください。

開かれているファイルの数が多すぎます。

この問題を解決するためには、Windowsを終了し、`Config.sys` ファイルの `Files=` の設定値を増やし、PCを再起動してください。それでもまだこのメッセージが表示される場合は、開いている他の不要なクライアントセッションを終了して、もう一度接続してみてください。それでもこのメッセージが表示される場合は、`Wsock32.dll` の提供元にお問い合わせください。

詳細

FTPクライアントエラーメッセージ

9.10 エラーメッセージ

ホストアドレスを取得できない

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- サーバに対して入力したホスト名またはIPアドレスが無効です。ホスト名を入力し直してください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。
- ホスト名は、HOSTSファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、ホストサーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- IPv6アドレスを入力しましたが、IPv6対応機能がPC上で有効になっていません。詳しくは、Microsoft にお問い合わせください。

- ローカルネットワークの外部にあるサーバに接続するためには、適切に構成されたIPルータ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、動作しているかどうかを確認してください。

接続時間が切れました。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとした時にこのメッセージが表示される場合は、[接続待ち時間] の設定値を増やして、ログイン時のサーバの応答時間を長くしてください。

接続時に Reflection FTP が停止します。

一部のシステムでは、表示上の問題により接続時にReflection FTPが停止することがありますが、この問題は、アニメーションの表示 (ディレクトリー一覧取得中に表示される、懐中電灯が振られているアニメーションなど) をオフにすることで解決できます。アニメーションの表示をオフにするには、[ツール] - [オプション] コマンドを選択し、[ユーザ設定] タブで [アニメーションを使用しない] をオンにします。

PWD コマンドにホストが応答しません。

既定では、サーバへの接続時にReflectionによってPWDコマンドが送信されますが、一部のサーバはこのコマンドに対応していません。サーバに接続する前に、[F7] キーを押してコマンドウィンドウを表示してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返される場合は、この設定をオンにしてみてください。接続時に PWD コマンドが送信されないようにするには、[サイトプロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ] タブで、[PWD コマンドを送信しない] をオンにしてください。

PASV がサーバによって実行されません。

既定では、クライアントはPASVコマンドを使用して接続します。このため、クライアントはディレクトリー一覧とファイル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確立します。これは、一部のファイアウォールを介して接続する場合に必要です。サーバが PASV コマンドに対応していない場合は、[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [passive モードを使用する] チェックボックスをオフにすることができます。

サーバがエラー「425 can't establish data connection」(データ接続を確立できません) を返す場合

サーバウィンドウまたはコマンドウィンドウにディレクトリー一覧が表示されない場合は、サーバがPASV コマンドに対応していない可能性があります。[サイトのプロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [パッシブモードを使用する] 設定をオフにしてみてください。

システムがパスを検出できません。

このエラーは、FTPクライアントが存在しないローカルファイルパスを検索しようとしていることを示している可能性があります。コンピュータ上にフォルダパスが存在することを、ローカルの [ホーム] フォルダ 設定で確認してください。この設定を確認または編集するには、[サイトのプロパティ] ダイアログボックスを開いて、[ディレクトリ] をクリックし、[ローカル] の [ホームフォルダ] を見つけます。

10. FTP コマンドラインの使用

10.1 FTP コマンドラインの使用

- FTP コマンドウィンドウ
- コマンドウィンドウのクリア
- FTPコマンドラインの使用
- FTP および SFTP コマンド構文
- FTP または SFTP コマンド内の引用符

10.2 FTP コマンドウィンドウ

FTP クライアントコマンドウィンドウは、サーバとの間で送受信するデータを表示し、また FTP コマンドラインを含みます。これによって FTP または SFTP コマンドを入力できます。[表示]>[コマンドウィンドウ]を使って、コマンドウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

ウィンドウに表示されるクライアントとサーバ間の通信が区別できるように色分けされています。例えば、Windows の既定色を使用している場合は、以下のようになります。

表示色	意味
black	サーバから受信したコマンド状況メッセージ (コマンド状況メッセージは、クライアントが送信した FTP コマンドまたは SFTP コマンドに対するサーバの応答です)
薄い紺	FTP コマンドラインに入力された Reflection FTP または Reflection SFTP のコマンド
濃い青	サーバから受信したデータチャネル応答で、通常はファイル一覧。接続が確立された後、この色は推定されるサーバの種類を表示するためにも使われます。
緑	FTP クライアント がサーバに送信しているクライアント FTP または SFTP コマンド

表示色	意味
赤	エラーメッセージ

💡 メモ

- Windowsのコントロールパネルの画面の背景色が青、緑、黒、または赤に設定されている場合、クライアントは通信データ表示ウィンドウのテキストで使用する色を、ウィンドウの背景に対してよく見える色に変更します。サーバが受信したメッセージの表示色の既定値は、現在の Windows のテキストの色になります。
- 同じFTPクライアントウィンドウで2つのサイトに接続する場合、クライアントとサーバ間の通信状態をコマンドラインで確認することはできますが、コマンドを入力することはできません。2つ目のサーバとの間で送受信されるコマンドには、[サーバ2]という文字列が先頭に付けられます。出力が複数行にわたる場合 (ディレクトリ一覧や複数行のバナー表示など)、この文字列は最初の行にだけ付けられます。

説明

- [FTPコマンドラインの使用](#)
- [コマンドウィンドウのクリア](#)
- [FTP および SFTP コマンド構文](#)
- [コマンドの解説](#)

10.3 コマンドウィンドウのクリア

FTP クライアントコマンドウィンドウをクリアするには

コマンドウィンドウで右マウスボタンをクリックし、[すべてクリア] を選択します。

詳細

[FTP コマンドウィンドウ](#)

10.4 FTPコマンドラインの使用

FTP クライアントコマンドラインは、サーバと通信する手段の 1 つです。FTP コマンドラインに FTP または SFTP コマンドを入力して、FTP サーバと PC 間でファイルを移動することができます。

- [表示] - [コマンドウィンドウ] をクリックしてコマンドウィンドウを開きます。

FTP コマンドラインがコマンドウィンドウの下部に表示されます。

コマンドを入力するには

1. コマンドラインをクリックするか、[Shift] + [F7] を押してカーソルをコマンドラインに移動します。
2. 接続の種類に従って、FTP または SFTP コマンドを入力します。
3. キーを押してコマンドを実行します。

FTP クライアントは、現在のセッションから最大 50 個のコマンドを保持します。コマンドラインの右側のドロップダウン矢印を使用して、この一覧からコマンドを呼び出すことができます。

💡 メモ

同じFTPクライアントウィンドウで2つのサイトに接続する場合、クライアントとサーバ間の通信状態をコマンドラインで確認することはできますが、コマンドを入力することはできません。2つ目のサーバとの間で送受信されるコマンドには、[[サーバ 2]]という文字列が先頭に付けられます。出力が複数行にわたる場合 (ディレクトリ一覧や複数行のバナー表示など)、この文字列は最初の行にだけ付けられます。

説明

- [FTP および SFTP コマンド構文](#)
- [FTP スクリプト](#)
- [コマンドの解説](#)

10.5 FTP および SFTP コマンド構文

- [FTP コマンドの索引](#)
- [SFTP コマンドの索引](#)

FTP コマンドラインに入力するコマンドとキーワードでは、大文字と小文字を区別する必要はありません。しかし、FTP サーバコンピュータによっては、パスワード、ディレクトリ名、ファイル名、および、その他のサーバ特有の情報で、大文字と小文字を区別する場合があります。

FTP クライアントは省略した形のコマンドを受け入れるため、他のコマンドと区別するために最小限必要な部分を入力するだけで済みます。例えば、`GET` コマンドは `G`; と省略できます。したがって、サーバファイル `jokes.old` の内容を表示したい場合は、FTP コマンドラインに `g jokes.old` と入力します。

本ガイドのコマンドリファレンスでは、以下の規則が適用します。

- パラメータが山括弧 (`()`) で囲まれている場合、それらのパラメータは、コマンドに必ず追加しなければならない文字列であることを表わしています。例えば、`<クライアントファイル>` は、特定のファイルを参照する完全なパスをユーザが入力しなければならないことを意味します。パラメータを入力する時には、山括弧を入力しないようにしてください。
- オプションを一度に 1 つだけ指定できる場合、それらのオプションは縦線で区切ります。例えば、`<サーバ名> | <IP アドレス>` は、どちらか一方のオプションを使用できますが、両方を同時に使用することはできないことを意味しています。
- 大括弧 (`[]`) で囲まれているパラメータは、オプションとして加えることのできるコマンドの構成要素を示します。つまり、このような一対の大括弧で囲まれている情報は、いずれも必要に応じてコマンドに入れることができますが、必須というわけではありません。以下は、PC ディレクトリを指定してもしなくてもかまわない LCD コマンドの例です。

```
lcd [<pc ディレクトリ>]
```

詳細

- [FTP または SFTP コマンド内の引用符](#)
- [FTP コマンドラインの使用](#)
- [FTP スクリプト](#)
- [FTP コマンドラインの使用](#)

10.6 FTP または SFTP コマンド内の引用符

コマンドで引数が1つしか使用されない場合は、引用符は必要ありません。次に例を示します。

```
CD Travel Agents
```

複数の引数を使用するコマンドでは、空白を含む引数は二重引用符で囲む必要があります。例えば、`Account History` というサーバファイルを PC に転送し、`Accthist.txt` という名前にする場合、以下のコマンドを入力します。

```
GET "Account History" TO Accthist.txt
```

引数が二重引用符で始まる場合、引数のすべての二重引用符を二重にする必要があります。例えば、「Remembering You」というサーバファイルを表示するには、以下のいずれかのコマンドを入力します。

```
GET ""Remembering You""
```

11. FTP スクリプト

11.1 FTP スクリプト

FTP クライアント転送の自動化オプション

詳細

- FTP クライアントスクリプト
- スクリプトの記録
- スクリプトの実行
- スクリプトの編集
- FTP クライアントのスクリプトファイル形式
- スクリプトの収録機能で捕捉される操作
- スクリプト内のパスワードの機密保持
- エラー処理に使用するコマンド
- バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行
- スクリプトのログファイルを作成する場合

11.2 FTP クライアントスクリプト

FTP クライアントスクリプトによって自動的に接続およびファイル転送操作を実行できます。たとえば、サーバとの間でファイルを自動的に転送できます。FTP クライアントと直接に対話する必要なしに自動転送を行うことができます。

スクリプトファイルは、一連の FTP (または SFTP) コマンドを納めた ASCII テキストファイルです。コマンドは、1 行に 1 つずつ書きます。スクリプトは、スクリプト収録機能を使って作成できます。また、テキストエディタ (メモ帳など) を使っても、新しいスクリプトを作成したり、既存のスクリプトを変更できます。

FTP クライアントスクリプトの収録機能を使うと、操作がそのままコマンドとして収録され、プログラムを書くことなくスクリプトを作成し、後で再生することができます。スクリプトを使って、ファイル転送オプションの設定、FTP サイトへの接続、ファイルの転送など、多くの作業を自動化できます。

スクリプトを実行すると、スクリプトの中のコマンドは FTP コマンドラインから入力した時と同じように実行されます。

詳細

- [スクリプトの記録](#)
- [スクリプトの実行](#)
- [スクリプトの編集](#)
- [FTP クライアントのスクリプトファイル形式](#)

11.3 スクリプトの記録

FTPクライアントスクリプトの収録機能を使うと、操作がそのままコマンドとして収録され、プログラムを書くことなくスクリプトを作成し、後で再生することができます。スクリプトを使って、ファイル転送オプションの設定、FTP サイトへの接続、ファイルの転送など、多くの作業を自動化できます。

スクリプトを記録するには

1. **[スクリプト] - [収録の開始]** コマンドを選択します。
スクリプトの収録機能を使用中は、ステータスバーにビデオカメラのアイコンが表示されます。
2. 記録する操作を実行します。
3. **[スクリプト] - [収録の終了]** コマンドを選択します。
4. **[スクリプトの保存]** ダイアログボックスの **[ファイル名]** ボックスに、スクリプトの名前を入力します。
スクリプトファイルの既定の拡張子は `.rfs` です。
5. **[保存]** をクリックします。

💡 メモ

同じセッション内で2つのサイトに接続している場合、スクリプトは収録できません。

詳細

- [スクリプトの実行](#)
- [スクリプトの編集](#)
- [スクリプトの収録機能で捕捉される操作](#)
- [FTP スクリプト](#)

11.4 スクリプトの実行

1. [スクリプト] - [スクリプトの実行] コマンドを選択します。
2. [スクリプトの実行] ダイアログボックスから、実行するスクリプトを選択します。
3. [開く] をクリックして、選択したスクリプトを再生します。

詳細

- バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行
- スクリプトのログファイルを作成する場合
- FTP クライアントスクリプト

11.5 スクリプトの編集

1. [スクリプト] - [スクリプトの編集] コマンドを選択します。
2. [スクリプトの編集] ダイアログボックスから、編集するスクリプトを選択します。
3. [開く] をクリックして、ファイルをメモ帳で開きます。

詳細

- FTP クライアントのスクリプトファイル形式
- スクリプト内のパスワードの機密保持
- エラー処理に使用するコマンド
- FTP クライアントスクリプト

11.6 FTP クライアントのスクリプトファイル形式

スクリプトファイルは、一連の FTP (または SFTP) コマンドを納めた ASCII テキストファイルです。

- コマンドは、1 行に 1 つずつ書きます。
- コマンドの前に空白やタブを挿入してもかまいません。
- コメントにはセミコロン文字 (;) を使用します。FTP クライアントはコメントのテキストを無視します。

また、コメントを使用してコード行の内容を説明できます。次に例を示します。

```
;Las líneas siguientes conectan con el servidor y cambian  
;los directorios de trabajo a PREIMPRESA (cliente) y  
;a IMPRESA (servidor). open forum thomasp  
XOYRCNEL973L9L9603760NM0770L35L7NM087PM79  
lcd c:\prepress  
cd /press
```

コメントは、コマンドの後に追加することもできます。次に例を示します。

```
set transfer-disposition unique ;do not overwrite files  
mput script is s*.doc ;copy the .DOC files
```

💡 メモ

セミコロンは、**-B**オプションを使って**sftp**コマンドに提供されたスクリプト内のコメントには使用できません。これらのバッチファイル内のコメントに印を付けるには、番号記号(#)を使用します。

詳細

- スクリプトの編集
- スクリプト内のパスワードの機密保持
- エラー処理に使用するコマンド
- FTP クライアントスクリプト

11.7 スクリプトの収録機能で捕捉される操作

スクリプトの収録機能がオンになっている間に実行される接続およびファイル転送処理はほとんど収録されますが、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) を使った構成オプションの変更など、収録されないものもあります。ファイル転送と文字変換の構成をスクリプトに収録するには、コマンドラインに **SET** パラメータを入力するか、スクリプトを編集して **SET** パラメータを追加します。

💡 メモ

同じセッション内で2つのサイトに接続している場合、スクリプトは収録できません。

次の各操作によって FTP スクリプトコマンドが収録されます。

- コマンドウィンドウ内に入力されたすべてのコマンドが収録されます。
- グラフィカルユーザインターフェイス (GUI) を使って実行するファイル操作。どの FTP コマンドが収録されたか確認するには、次の表を参照してください。

FTP コマン ド	GUI 操作
OPEN	FTP サイトを開く ([開く] ツールバーボタンまたはメニューを使用)
閉じる	FTP サイトを閉じる
CD	サイト画面のフォルダをクリック (または [フォルダへ移動] ダイアログボックスを使用)
LCD	ローカル画面のフォルダをクリック
DELETE*	サイト画面のファイルを削除
LDEL*	ローカル画面のファイルを削除
RDALL*	サイト画面のフォルダを削除
LRDALL*	ローカル画面のフォルダを削除
メリーラン ド	サイト画面にフォルダを作成
LMD	ローカル画面にフォルダを作成
GET*	サイト画面からローカル画面へファイルをドラッグ
< [なし] >	サイト画面から [Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコン ピュータ] フォルダにファイルをドラッグ
CPDIR*	サイト画面からローカル画面へフォルダをドラッグ
< [なし] >	サイト画面から [Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコン ピュータ] フォルダにフォルダをドラッグ
PUT*	ローカル画面からサイト画面へファイルをドラッグ
PUT*	[Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュータ] フォ ルダからサイト画面へファイルをドラッグ
LCPDIR*	ローカル画面からサイト画面へフォルダをドラッグ

FTP コマンド	GUI 操作
LCPDIR*	[Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュータ] フォルダからサイト画面へフォルダをドラッグ

* 複数回選択するとこのFTPコマンドが複数回実行されます。

💡 メモ

- open <servername> <username> <password> コマンドを入力した場合、<password> が、難読化されたテキストとしてスクリプトファイルに保存されます。例:

```
open ftp.myco.com joe WPD61190003929K14806KN70652L0739LL00875N440274
```

- コマンドの入力時にサーバがエラーメッセージを返す場合、そのエラーメッセージはスクリプトのコメント行として記録されます。例:

```
cd /users/bobc
; 550 /users/bobc: このようなファイルまたはディレクトリはありません。
```

詳細

- [コマンドの解説](#)
- [SET](#)
- [スクリプトの記録](#)
- [FTP クライアントスクリプト](#)

11.8 スクリプト内のパスワードの機密保持

スクリプトに、FTP 接続を確立するためのパスワードを含めることができます (SFTP 接続の場合はできません)。テキストエディタを使ってスクリプトを作成する際に、スクリプトに **OPEN** コマンドを完全な形式 (`open <servername> <username> <password>`) で組み込むか、あるいは **PASSTHRU** コマンドを組み込む場合、手動で追加するパスワードは、エディタ内では普通のテキスト文字として表示されます。パスワードの機密性を強化するために、次に挙げるいずれかの方法を使用してください。

- スクリプト収録機能を用いて、サーバへの接続を収録します。パスワードは、難読化されたテキストとしてスクリプトファイルに保存されます。スクリプトが実行され、接続が行われると、クライアントはパスワードを解読し、それをサーバに送信します。
- スクリプトを編集して、**OPEN** コマンドの最後のパラメータである `<パスワード>` パラメータを削除します。**OPEN** コマンドの構文は、`open <servername> <username>` でなければなりません。その後、スクリプトが実行され、接続が行われると、クライアントはパスワードの入力を求めるメッセージを表示します。また、`<ユーザ名>` パラメータを省略することもできます。省略すると、クライアントはユーザ名とパスワードの両方の入力を求めるメッセージを表示します。

詳細

- [スクリプトの記録](#)
- [スクリプトの編集](#)
- [FTP クライアントのスクリプトファイル形式](#)
- [FTP クライアントスクリプト](#)

11.9 エラー処理に使用するコマンド

スクリプトファイル内に **CONTINUE** コマンドを組み込むと、ワイルドカードを使用してファイルの転送やローカルファイルの削除を行う時にエラーが発生した場合、どのように処理すればよいかを FTP クライアントに指示できます。**CONTINUE** を `ON` に設定すると、エラーが発生しても、ワイルドカードの指定を満たすファイルがすべて転送されるか削除されるまで、ファイルの転送やローカルファイルの削除が引き続き行われます。一方、**CONTINUE** を `OFF` に設定すると、転送や削除などの操作はエラーが発生した時点で打ち切られます。また、**ABORT-ON-ERROR** を `NO` に設定していないかぎり、エラーが発生するとスクリプトファイルの実行も停止されます。

ABORT-ON-ERROR パラメータは、コマンドの実行でエラーが発生した場合に、スクリプトの実行を停止するかどうかを指定します。**ABORT-ON-ERROR** が `YES` に設定されている場合は、コマンド実行の結果として FTP クライアントまたはサーバからエラーが返されると、いつもスクリプトの実行が中止されます。

ABORT-ON-ERROR を **NO** に設定する場合は、特に注意が必要です。エラーの後で続けてコマンドを実行すると、予期せぬ結果を招くことがあります。

詳細

- [コマンドの解説](#)
- [CONTINUE](#)
- [スクリプトのログファイルを作成する場合](#)
- [既存のファイルの処理方法\(転送モード\)](#)

11.10 バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行

次の手順で、FTP クライアントがユーザとのやりとりなしでバックグラウンドで実行されるように、スクリプトを作成して、FTP クライアントを構成することができます。手順は次のとおりです。

- ショートカットを作成して起動コマンドが自動的にスクリプトを実行するようにします。[実行] ボックスで [最小化] を選択して、FTP クライアントがデスクトップ上で最小化された状態で実行されることを指定します。
- 特定のサイトに接続するために必要なユーザ名、パスワード、中継設定が保存されているサイトに接続するスクリプトを使用します。これによって、クライアントが接続情報を要求する必要がなくなります。
- **QUIT** コマンドを組み込むと、スクリプトが完了した時にクライアントを終了させることができます。
- 次の **SET** パラメータを使って、クライアントのメッセージとプロンプトが表示されないようにします。

設定	使用法
QUIET-STATUS	YES に設定して接続と転送の進行状況ダイアログボックスとディレクトリ定義ウィザードが表示されないようにします。
SMART-TYPE-DEFAULT	ASKUSER に設定しないでください。ASKUSER に設定すると、未定義の拡張子を持つファイルの転送時にその転送方式をユーザに尋ねることになります。
TRANSFER-DISPOSITION	PROMPT に設定しないでください。PROMPT に設定すると、転送先に存在するファイルの処理方法をユーザに尋ねることになります。
CONFIRM-DELETE	NO に設定し、フォルダまたはファイルを削除する前にユーザに確認しないようにします。

設定	使用法
RESUME-PARTIAL-TRANSFERS	ASKUSER に設定しないでください。ASKUSER に設定すると、クライアントは未完了のサーバファイルのダウンロードを検出した場合に、その転送を再開するかどうかをユーザに尋ねます。

詳細

- [スクリプトの実行](#)
- [FTP クライアント設定の保存](#)
- [サイトに接続するショートカットの作成](#)
- [FTP クライアント起動スイッチ](#)
- [起動時にスクリプトファイルを実行する](#)
- [SET](#)

11.11 スクリプトのログファイルを作成する場合

スクリプトファイルを実行する起動コマンドを使ってクライアントを起動する場合には、実行されたコマンドの結果の記録を保存するログファイルを作成するようにクライアントに指示するコマンドラインスイッチを含むことができます。

クライアントアプリケーション内からスクリプトファイルを実行してログファイルを作成するには、[ツール] - [記録の開始] コマンドを選択してから、[スクリプト] - [スクリプトの実行] コマンドをクリックします。

FTP オートメーション API を使用して FTP クライアントアプリケーションを制御する場合、**StartLog** メソッドと **StopLog** メソッドを使用して記録を制御できます

詳細

- [FTP クライアント起動スイッチ](#)
- [起動時にスクリプトファイルを実行する](#)
- [FTP クライアント転送の自動化オプション](#)

12. コマンドの解説

12.1 コマンドの解説

コマンドライン上およびスクリプト内で使用可能なコマンドは、行った接続の種類によって異なります。

ヒント

コマンドトピックを開いたとき、トピックの上部でどの一覧がリンクされているかを調べることで、コマンドがFTPまたはSFTPもしくはその両方で利用可能かどうかわかります。

このセクションの内容

- [FTP コマンド](#)
- [SFTP コマンド](#)

12.2 FTP コマンド

12.2.1 FTP コマンド

この一覧のコマンドは、FTP クライアントのコマンドラインまたはスクリプトで使用できます(Secure Shell SFTP 接続の場合は、この一覧のコマンドではなく、[SFTP コマンド](#)を使用します)。次のリンクを使用して、コマンドの詳しい説明を表示することができます。

使用可能なコマンド:

- [ACCOUNT](#)
- [APPEND](#)
- [\[ASCII\]](#)
- [BINARY](#)
- [CD](#)
- [CHMOD](#)
- [CLOSE](#)
- [CONNECT](#)

- CONTINUE
- CPDIR
- DELETE
- DIR
- 接続解除
- DISPLAY
- 終了
- GET
- HELP
- LCD
- LCPDIR
- LDEL
- LDIR
- LMD
- LRD
- LRDALL
- LRENAME
- LS
- LTYPE
- メリーランド
- MDEL
- MGET
- MPUT
- OPEN
- PASSTHRU
- PUT
- PWD
- QUIT
- QUOTE
- RD
- RDALL

- REGET
- RENAME
- SET

SET パラメータの解説

SETパラメータとそれに対応するインタフェース設定

サイト固有のファイル転送用 SET パラメータ

ASCII-SERVER-TYPE SET パラメータの値

NATIONAL-REPLACEMENT-SET パラメータの値

ABORT-ON-ERROR Script Sample

- SITE
- SMART
- システム
- TENEX
- TYPE
- VERIFY

12.2.2 ACCOUNT

構文: account <アカウント名>

FTP コマンドの索引

サーバによっては (例えば、一部の IBM FTP サーバなど)、ユーザが利用しようとしているアカウントの名前を要求するものがあります。このようなサーバでは、アカウント名を入力しないかぎり、ファイルを操作することはできません。Reflection FTPの **OPEN** コマンドに<アカウント>パラメータを付けてサーバに接続する場合は、ログインの際にサーバがアカウントの入力を求めるメッセージを表示しないかぎり、アカウント名は実際にはサーバに送信されません。サーバがアカウント名を必要としていても、ログインの際にその名前を要求しない場合は、**ACCOUNT** コマンドを使用して、利用したいアカウントをサーバに明確に通知してください。

<accountname>

ログインしたユーザが利用できるアカウントを指定します。大文字と小文字を区別するサーバでは、アカウントを指定する際に大文字と小文字を正しく入力してください。

12.2.3 APPEND

構文: append <クライアントファイル> [to] [<サーバファイル>]

FTP コマンドの索引

APPEND コマンドは、ファイルを FTP サーバに送信し、それを現在のサーバファイルに追加します。既存のサーバファイルがない場合は、このコマンドを実行すると、**PUT** コマンドと同じように機能し、サーバに新規のファイルを作成します。

<クライアント
ファイル>

FTP サーバに送信する PC ファイルを指定します。

to <サーバ
ファイル>

PC ファイルを追加するサーバファイルを指定します。このオプションを省略すると、PC ファイルの内容は、PC ファイルと同じ名前を持つサーバファイルに追加されます。指定されたサーバファイルがない場合は、新たに作成されます。キーワード TO は省略してもかまいません。

例

以下のコマンドは、PC ファイルを同じ名前のサーバファイルに追加します。

```
APPEND WHATSNEW.DOC
```

このコマンドは、PC ファイルを指定したサーバファイルに追加します。

```
APPEND WHATSNEW.DOC TO DOCUMENT.TXT
```

12.2.4 CLOSE

構文: `close`

FTP コマンドの索引

CLOSE コマンドは、FTP サーバへの接続を切断します。

CLOSE の代わりに、**EXIT** または **QUIT** を使用することもできます。

12.2.5 CONNECT

構文: `connect` [`<サーバ名>`]

FTP コマンドの索引

CONNECT コマンドは、FTP サーバへの接続を確立します。サイトを指定しなかった場合は、サイト指定用のダイアログボックスが表示されます。**OPEN** と異なり、このコマンドでは、ユーザ名とパスワードの入力は求められません。ユーザ名とパスワードは、手動で入力する必要があります。例えば、以下の一連のコマンドは、中継サーバ (ファイアウォール) を介さずに FTP サーバに接続します。

```
CONNECT <サーバ>  
USER <ユーザ名>  
PASS <パスワード>
```

パスワードはコマンドウィンドウに直接入力するため、画面上にそのまま表示されることに注意してください。**OPEN** コマンドではパスワード入力用のダイアログボックスが表示され、画面上にパスワードがそのまま表示されることはないため、通常は **OPEN** コマンドを使用することをお勧めします。**CONNECT** コマンドは、ファイアウォールを介した接続で問題を調査する場合に使用してください。

12.2.6 CONTINUE

構文: `continue [on | off]`

FTP コマンドの索引

CONTINUE コマンドは、FTP コマンドラインで実行されたワイルドカードによるファイル転送の最中に発生したエラーを無視するように、Reflection FTP に指示します。この場合は、エラーが発生しなかったかのように、ワイルドカードに一致するすべてのファイルが転送されるまで、ファイル転送が続行されます。

引数を持たない **CONTINUE** は、次に続く **MGET** または **MPUT** コマンドに対するエラーだけを無視するように指定します。

CONTINUE コマンドは、**MGET** ブロックまたは **MPUT** ブロックを構成するコマンド (**LIST**、**GET**、**PUT**、**CD** など) にのみ適用されます。これらのコマンドのいずれかでエラーが発生した場合、スクリプトは、**MGET** ブロックまたは **MPUT** ブロックを構成するコマンドの全体を完了してから停止します。スクリプトから後続のコマンドを処理できるようにするには、**SET ABORT_ON_ERROR**を**NO**に変更します。

CONTINUE コマンドは、ドラッグ & ドロップのファイル操作には適用されません。

の間で、日付が	あたかも次に行われるすべての MGET および MPUT コマンドの前に CONTINUE コマンドを実行したかのように、ファイル転送中に発生したすべてのエラーを無視するよう Reflection FTP に指示します。
off	on オプションの指定を取り消します。

例

以下のコマンドは、次の **MPUT** コマンドで発生するすべてのエラーを無視するように Reflection FTP に指示します。[**CONTINUE**]がない場合、転送時にエラーが発生すると、**MPUT**コマンドの実行は中断されます。

```
CONTINUE MPUT ACCT*.TXT
```

その他の例については、[ABORT_ON_ERROR Script Sample](#)を参照してください。

12.2.7 CPDIR

構文: `cpdir <サーバディレクトリ> [<PC のパス>] [askuser | cancel | overwrite | skip]`

FTP コマンドの索引

CPDIR コマンドは、指定したサーバディレクトリを PC にコピーします。PC ディレクトリが指定されていない場合、サーバディレクトリは現在の PC パスにコピーされます。

サーバディレクトリ	サーバディレクトリの名前を指定します。
PC のパス	PC ドライブおよびホルダを指定します。
askuser cancel overwrite skip	ターゲットフォルダがすでに存在する場合にどうするかを指定します。ASKUSER は既定値です。

12.2.8 DELETE

構文: `delete <サーバファイル>`

FTP コマンドの索引

DELETE コマンドは、FTP サーバ上にある特定のファイル指定と一致するファイルを削除します。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバファイル>	削除するサーバファイルの名前を指定します。ファイルへの完全なディレクトリパスを指定することもできます。UNIX FTP サーバのような一部のシステムでは、ディレクトリやファイル名を指定する際に大文字/小文字の区別が重要になります。
-----------	---

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリから MEMO.DOC を削除します。

```
DELETE MEMO.DOC
```

次のコマンドは、UNIX FTP サーバの /<ユーザ名>/jill jones ディレクトリから budget.new ファイルを削除します。

```
DELETE /<ユーザ名>/jill jones/budget.new
```

12.2.9 DIR

構文: `dir` [<サーバファイル指定>]

FTP コマンドの索引

DIR コマンドは、特定のファイル指定と一致するサーバファイルの詳細な一覧を表示します(**LS** コマンドはサーバファイルの簡易情報を表示します)。

<サーバファイル指定>	FTP サーバ上のディレクトリ、ファイル、またはファイルグループを指定します。このオプションを使用しない場合は、現在のサーバディレクトリの内容が表示されます。<サーバファイル指定> の構文は、FTPサーバによって異なります。
-------------	--

例

次のコマンドは、VAX/VMS 上の FTP サーバの現在のディレクトリにある実行可能ファイルの一覧を表示します。

```
DIR *.EXE
```

12.2.10 接続解除

構文: `disconnect`

[FTP コマンドの索引](#)

DISCONNECT コマンドは、FTP サーバへの接続を切断します。

DISCONNECT の代わりに、**CLOSE**、**EXIT**、または **QUIT** を使用することもできます。

12.2.11 DISPLAY

構文: `display <文字列>`

[FTP コマンドの索引](#)

DISPLAY コマンドは、FTP サーバから受信したかのように、データをコマンドウィンドウに表示します。

`<文字列>` `<文字列>` パラメータは、どのような文字列でもかまいません。

文字列は 1 行ごとに表示されます。指定された文字列が長くて、Reflection FTP ウィンドウ内に入りきらない場合、文字列は次の行に折り返されず、文字列の末尾にある文字は表示されません。例えば、ウィンドウの幅が 50 桁で `<文字列>` の長さが 60 文字の場合は、文字列の最後の 10 文字は表示されません。

例

DISPLAY コマンドを使用して、現在行われているプロセスに関するメッセージや覚え書きを表示することができます。例えば、以下のコマンドを実行すると、次にログインが実行されることを示すメッセージを表示します。

```
DISPLAY Next process is logon to bigben.timer.london
```

12.2.12 HELP

構文: `help` [`<コマンド>`]

FTP コマンドの索引

HELP コマンドは、Reflection FTP コマンドに関する簡単な説明を表示します。FTP コマンドラインに `HELP <コマンド>` と入力すると、特定の FTP コマンドに関する情報が表示されます。説明なしで FTP コマンドを一覧表示するには、コマンドラインに `HELP` と入力します。

多くの FTP サーバでは、コマンドラインに `QUOTE HELP` と入力して、サーバが認識するコマンドの一覧を表示することができます。`QUOTE HELP <コマンド>` と入力すると、そのコマンドの詳細情報を得ることができます。詳細については、[QUOTE](#) を参照してください。

💡 メモ

HELP コマンドは、SFTP 接続を行った場合でも FTP コマンドの一覧を表示します。SFTP セッション中に利用可能なコマンドの一覧については、[ここ](#) をクリックしてください。

12.2.13 LCPDIR

構文: `lcpdir` `<pc ドライブ/フォルダ>` [`<サーバフォルダ>`] [`askuser` | `cancel` | `overwrite` | `skip`]

FTP コマンドの索引

LCPDIR コマンドは、指定した PC のフォルダをサーバにコピーします。サーバのフォルダが指定されていない場合は、PC のフォルダは現在のサーバのパスにコピーされます。

<code>pc ドライブ\フォルダ</code>	ローカルフォルダを指定します。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例: <code>lcpdir "d:\Asian Travel\China"</code>
<code><サーバフォルダ></code>	ローカルフォルダを指定します。

askuser | cancel |
overwrite | skip

サーバ上にターゲットフォルダがすでに存在する場合にどうするかを指定します。ASKUSER は既定値です。

12.2.14 LDEL

構文: ldel <pc ファイル指定>

FTP コマンドの索引

LDEL コマンドは、PC 上にある指定したファイルを削除します。ワイルドカードはサポートされていません。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<pc ファイル指定>

削除する PC ファイルの名前を指定します。ファイル指定にファイルへの絶対パスを入れることができます。

例

次のコマンドは、PC 上の European Travel フォルダ内の France フォルダから Map.bmp ファイルを削除します。

```
LDEL \European Travel\France\map.bmp
```

12.2.15 LDIR

構文: ldir <pc ファイル指定>

FTP コマンドの索引

LDIR コマンドは、ファイル指定の条件に一致する PC ファイルの一覧を表示します。

<pc ファイル指定>	PC 上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。このオプションを使用しない場合は、現在の PC フォルダの内容が表示されます。
-------------	--

例

次のコマンドは、指定した PC のフォルダにある、OLD DATA という名前で何らかの拡張子を持つファイルをすべて一覧表示します。

```
LDIR D:\Results\Old Data.*
```

12.2.16 LMD

構文: `lmd <pc ディレクトリ>`

FTP コマンドの索引

LMD コマンドは、PC 上に新しいフォルダを作成します。

<pc フォルダ名>	フォルダを作成するドライブ (現在のドライブ以外に作成したい場合) とフォルダ名を指定します。
------------	---

例

次のコマンドは、現在の PC ドライブにフォルダ MUSIC を作成します。

```
LMD \Music
```

12.2.17 LRD

構文: `lrd <pc ディレクトリ>`

FTP コマンドの索引

LRD コマンドは、PC フォルダとそのフォルダ内のすべてのフォルダとファイルを削除します。

LRD の同義語として **LRDALL** を使用できます。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<pc フォルダ >	削除するディレクトリの場所と名前を指定します。 <フォルダ> の指定は、PCの規則に準じます。
---------------	---

例

次のコマンドは、Jドライブ上の CASES フォルダから TRIAL DATES フォルダを削除します。

```
LRD J:\Cases\Trial Dates
```

12.2.18 LRDALL

構文: `lrdall <pc フォルダ>`

FTP コマンドの索引

LRDALL コマンドは、PC フォルダとそのフォルダ内のすべてのフォルダとファイルを削除します。

LRDALL の同義語として LRD を使用できます。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<pc フォルダ>	削除するディレクトリの場所と名前を指定します。
-----------	-------------------------

例

次のコマンドは、Jドライブ上の CASES フォルダから TRIAL DATES フォルダを削除します。

```
LRD J:\Cases\Trial Dates
```

12.2.19 LRENAME

構文: `lrename <pc filename> <new filename>`

FTP コマンドの索引

LRENAME コマンドは、ローカルファイル名を指定された新しい名前に変更します。

<pc ファイル名>	変更したい PC ファイル名を指定します。この指定にはこのファイルが保存されている PC ドライブとフォルダ名を含むことができます。ファイルの場所やファイル名に空白が含まれている場合は、ファイル名を二重引用符で囲まなければなりません。例えば、 <code>"D:\To do\Work assignments"</code> です。
<新規ファイル名>	新しいファイル名を指定します。名前を変更するファイルが使用中のローカルドライブとフォルダにない場合は、その保存場所を <新規ファイル名> に含むことが必要です。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例: <code>"D:\To do\Work assignments"</code>

例

次のコマンドは、C ドライブ上の現在のフォルダから D ドライブ上の ARCHIVE フォルダ内のファイル名を Stories.txt から Fairy tales に変更します。

```
LRENAME D:\Archive\Stories.txt "D:\Archive\Fairy tales"
```

12.2.20 LTYPE

構文: `ltype <クライアントファイル>`

FTP コマンドの索引

LTYPE コマンドは、FTP コマンドウィンドウに PC ファイルの内容を表示します。

<クライアントファイル>	PC ファイルの場所と名前を指定します。ワイルドカードで指定することはできません。
--------------	---

例

次のコマンドは、PC の J ドライブの SUBJECTS フォルダにあるファイル COM.doc の内容を表示します。

```
LTYPE J:\Subjects\Com.doc
```

12.2.21 メリーランド

構文: md <サーバフォルダ>

FTP コマンドの索引

MD コマンドは、サーバ上に新しいフォルダを作成します。

<サーバフォルダ>	新しいフォルダの名前と場所を指定します。
-----------	----------------------

例

次のコマンドは、FTP UNIX サーバドライブの現在のフォルダに Films というフォルダを作成します。

```
MD Films
```

12.2.22 MDEL

構文: mdel <サーバファイル指定>

MDEL コマンドは、ファイル指定の条件に一致する 1 つまたは複数のファイルを FTP サーバから削除します。

MDEL は、サーバワイルドカード文字を使って複数のファイルをサーバから削除できる点で、**DELETE** とは異なります。FTP サーバが複数ファイルを削除するためのワイルドカードに対応している必要があります。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバファイル指定> 1つまたは複数 (サーバワイルドカードを使用する場合) のサーバファイルを指定します。ファイルへの完全なディレクトリパスを指定することもできます。UNIX FTP サーバのような一部のシステムでは、ディレクトリやファイル名を指定する際に大文字/小文字の区別が重要になります。

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリからすべてのファイルを削除します。

```
MDEL *
```

次のコマンドは、名前が「.htm」で終わるすべてのファイルを現在のサーバディレクトリから削除します。

```
MDEL *.htm
```

例については、[ABORT_ON_ERRORスクリプトサンプル](#)を参照してください。

12.2.23 OPEN

構文: open [<サーバ名> [<ユーザ名> [<パスワード> [<アカウント>]]]]

FTP コマンドの索引

OPEN コマンドは、FTP サーバに接続し、指定されたサーバ名、ユーザ名、およびパスワードを使用してログインを試みます。大文字と小文字を区別するサーバでは、パラメータの値に大文字と小文字を正しく入力してください。**OPEN** コマンドでパラメータが指定されていない場合、ログイン情報を入力するように要求されます。

1つのパラメータだけある場合、パラメータは、<サーバ名> でなければなりません。2番目のパラメータを追加する場合、そのパラメータは、<ユーザ名> でなければなりません。3つのパラメータを使用する場合、3番目のパラメータは、<パスワード> でなければなりません。

💡 メモ

中継サーバを使用してFTPサーバへログインする場合は、**PASSTHRU** コマンドを使用してサーバへ接続してください。

<サーバ名>	サーバを指定します。これは、IP アドレス、URL、またはホストファイルからの名前にできます。
<username>	現在の FTP サーバに登録されている有効なユーザ名を指定します。anonymous 接続時には、ユーザ名は通常「anonymous」となります。
<パスワード>	<ユーザ名> のユーザに割り当てられたパスワードを指定します。ほとんどの anonymous FTP サーバでは、パスワードに自分の電子メールアドレスを入力するようになっています。
<アカウント>	ユーザ <ユーザ名> が利用できるアカウントを指定します。通常 anonymous FTP サーバは、アカウントの入力を要求しないので、このパラメータは無視してもかまいません。 <アカウント> パラメータを含む OPEN コマンドを実行すると、ログインの際にサーバがアカウントの入力を求めるメッセージを表示しないかぎり、アカウント名はサーバに送信されません。サーバがアカウント名を必要としていても、ログインの際にその名前を要求しない場合は、ACCOUNT コマンドを使用して、利用したいアカウントをサーバに明確に通知してください。

例

次のコマンドは、FTP サーバに anonymous で接続し、パスワードとして電子メールアドレスを指定します。

```
OPEN ftp.acme.com anonymous jackie@mycompany.com
```

次のコマンドは、ユーザ Jackie を Headquarters FTP サーバに接続します。パスワードパラメータは指定されていないため、ログイン時にパスワードを入力するように求められます。

OPEN Headquarters Jackie

12.2.24 PASSTHRU

構文1: `passthru <中継サーバ名> <ユーザ名>@<サーバ名> <パスワード>`

構文2: `passthru <中継サーバ名> <中継ユーザ名> <中継パスワード> <ユーザ名>@<サーバ名> <パスワード>`

構文3: `passthru <中継サーバ名> <中継ユーザ名> <中継パスワード> <サーバ名> <ユーザ名> <パスワード>`

FTP コマンドの索引

PASSTHRU コマンドは、指定された中継サーバを使用して FTP サーバへ接続します。2 種類の中継サーバに対応しています。Reflection FTP は、指定された **PASSTHRU** コマンドの構文に基づいて、それぞれ別のコマンドを送信して中継サーバにログインし、FTP サーバに接続します。

どの形式の **PASSTHRU** コマンドを使用する場合でも、すべてのパラメータを指定する必要があります。パラメータに "" (ヌル値) を指定すると、その値を入力するように求めるダイアログボックスが表示されます。大文字と小文字を区別するサーバでは、パラメータの値に大文字と小文字を正しく入力してください。

メモ

PASSTHRU コマンドを使用して接続する FTP サーバにアカウント名が必要な場合は、**ACCOUNT** コマンドを使用して、使用したいアカウントを FTP サーバに通知してください。

構文1

中継サーバが中継パスワードを必要としない `ユーザ名@サーバ名` スタイルのサーバである (認証を行わない) 場合は、この形式の **PASSTHRU** コマンドを使用してください。

この形式の **PASSTHRU** コマンドは、`<中継サーバ名>` で指定された中継サーバに、現在の FTP サーバのユーザ名とサーバ名を `username@servername` の形式で送信します。中継サーバは、この情報を用いて指定された FTP サーバへ接続します。

`<中継サーバ名>`

中継サーバの接続名を指定します。FTP クライアントで中継サーバ名の指定を求めるには、このパラメータに "" (ヌル値) を指定します。

<ユーザ名>@<サーバ名>	引数の <ユーザ名> 部分に、FTP サーバに登録された有効なユーザ名を指定します。
	引数の <サーバ名> 部分に、FTP サーバの接続名を指定します。
<パスワード>	FTP サーバ上のユーザ <ユーザ名> に割り当てられたパスワードを指定します。FTP クライアントでユーザのパスワードの指定を求めるには、このパラメータに "" (ヌル値) を指定します。

構文2

この形式の **PASSTHRU** マンドは、`ユーザ名@サーバ名` 形式の中継サーバが、FTP サーバへ接続する前に中継サーバでユーザを認証するように設定されている場合に使用してください。

この形式の **PASSTHRU** コマンドを使用すると、FTP サーバへ接続する `<ユーザ名@サーバ名>` 形式の中継サーバにログインすることができます。このコマンドは、`<中継サーバ名>` で指定された中継サーバにログインします。ログインコマンドは、`<中継ユーザ名>` と `<中継パスワード>` に基づいて、中継サーバのユーザ名とパスワードを提供します。中継サーバ上で一度ユーザが認証されると、FTP `<ユーザ名>` および FTP `<サーバ名>` が中継サーバに送信されます。この情報は、`ユーザ名@サーバ名` の形式で指定されます。中継サーバはこの情報と FTP サーバの `<パスワード>` を使用して、FTP サーバへ接続します。

構文3

この形式の **PASSTHRU** コマンドを使用すると、FTP サーバに接続する SITE サーバ名形式の中継サーバにログインすることができます。

Reflection FTP は、`<中継サーバ名>` で指定された中継サーバにログインするコマンドを送信します。ログインコマンドは、`<中継ユーザ名>` と `<中継パスワード>` に基づいて、中継サーバのユーザ名とパスワードを提供します。一度接続されると、SITE コマンドが中継サーバに送信され、FTP サーバへの接続に必要な設定 (`<サーバ名>`、`<ユーザ名>`、および `<パスワード>`) を送ります。中継サーバは、この情報を用いて FTP サーバへ接続します。

12.2.25 QUOTE

構文: `quote <文字列>`

FTP コマンドの索引

QUOTE コマンドは、FTP サーバに文字列を送信します。Reflection FTP クライアントが対応していない FTP サーバにコマンドを発行するには、**QUOTE** コマンドを使用してください。

多くの FTP サーバでは、`QUOTE HELP` と入力すると、サーバが認識するコマンドの一覧を表示できます。`QUOTE HELP <コマンド>` と入力すると、そのコマンドに関する詳細な情報が表示されることがあります。

<文字列>	サーバに送信する文字列を指定します。QUOTE コマンドで利用できる文字列は、FTP サーバによって異なります。詳細については、サーバに付属するマニュアルを参照してください。
-------	---

例

例えば、VAX/VMS FTP サーバ上にサブディレクトリ FIFE を作成するには、次のコマンドを使用します。

```
QUOTE MKD MAYBERRY$USERS:[BARNEY.FIFE]
```

12.2.26 RD

構文: rd <サーバフォルダ>

FTP コマンドの索引

RD コマンドは、サーバ上の空のディレクトリを削除します。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバフォルダ>	削除するディレクトリの場所と名前を指定します。フォルダを削除する前に、そのフォルダ内のフォルダとファイルを削除する必要があります。
-----------	---

例

次のコマンドは、現在のサーバから Articles フォルダを削除します。

RD Articles

12.2.27 RDALL

RDALL

構文: `rdall <サーバフォルダ>`

FTP コマンドの索引

RDALL コマンドは、指定されたサーバフォルダとそのフォルダ内にあるすべてのフォルダとファイルを削除します。

💡 メモ

SETパラメータ `CONFIRM-DELETE` が `YES` に設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバディレク
トリ>

削除するディレクトリの場所と名前を指定します。UNIX FTP サーバなどのように、サーバによっては、ディレクトリを指定する場合に大文字と小文字を区別するものがあります。

例

次のコマンドは、現在のサーバの場所から `Maps` ディレクトリを削除します。

```
RDALL Maps
```

次のコマンドは、`Travel/Europe` フォルダから `Destinations` フォルダを削除します。

RDALL /Travel/Europe/Destinations

12.2.28 REGET

構文: reget <サーバファイル> [to] [<クライアントファイル>]

FTP コマンドの索引

REGET コマンドは、FTP サーバから PC へのファイル転送で未完了のものを自動的に再開します。クライアントは、ダウンロードが中断された位置からファイル転送を自動的に再開します。

PC 上に部分ファイルが見つからない場合は、クライアントは **GET** を実行して、指定されたサーバファイル全体を最初から転送します。ローカルフォルダに転送ファイルと同じ名前のファイルがすでに存在する場合は、そのローカルファイルは上書きされます。

🔖 メモ

REGET コマンドは、バイナリファイル転送でしか使用できません。**REGET** コマンドを使う前に、必要ならば **BINARY** コマンドを使って、[ツール] メニューで指定されている既定のファイル転送方式を上書きしてください。

<サーバファイ ル>	PC に転送するサーバファイル名を指定します。
---------------	-------------------------

to <クライアント
ファイル>

作成する PC ファイル名を指定します。

ほとんどの **REGET** 処理では、このオプションを省略できます。このオプションを省略すると、クライアントファイルは、サーバファイルと同じ名前になります。

中断されたファイル転送でダウンロードファイルに PC 上で新しい名前を付けるように指定している場合は、必ずその名前を <クライアントファイル> に指定してください。これによって、クライアントが確実に PC 上で部分ファイルを見つけて、転送を再開できるようになります。

キーワード TO は省略してもかまいません。

12.2.29 SET

SET パラメータの解説

以下のパラメータは、**SET** コマンドとともに使用します。設定は別途に記載がないかぎり、サイト固有です。

SET パラメータ	値	説明
ABORT-ON-ERROR	はい いいえ (既定値: はい)	コマンドの実行でエラーが発生した場合に、スクリプトの実行を停止するかどうかを指定します。例として ABORT_ON_ERRORスクリプトサンプル を参照してください。
ACCOUNT	<文字列> (既定値: なし)	FTP サーバでログインするアカウント名を指定します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
ANONYMOUS	YES NO (既定値: NO)	YES に設定すると、クライアントは、anonymous ログインをユーザ名「anonymous」を使って実行します。

SET パラメータ	値	説明
ASCII-CLIENT-TYPE	<値> (既定値: WINDOWS)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES に設定されていると、テキストファイル転送時にクライアント PC で使用する文字セットを指定します。次の値を使用できます: PC-ENGLISH (IBM PC 拡張文字)、PC-SLAVIC (DOS 852 コードページ)、WINDOWS、WINDOWS-ANSI、WINDOWS-LATIN-2、WINDOWS-CYRILLIC、WINDOWS-GREEK、YUASCII。この設定は SFTP 接続には適用されません。
ASCII-SERVER-TYPE	<値> (既定値: DEC補助)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES に設定されていると、テキストファイル転送時に使用する FTP サーバ文字セットを指定します。使用可能な値。この設定は SFTP 接続には適用されません。
AUTO-SERVER-UPDATE	はい いいえ (既定値: はい)	このグローバルパラメータでは、サーバ上のディレクトリまたはファイルを追加または削除する操作が行われた時に右画面に表示されているサーバディレクトリの一覧を更新するかどうかを指定します。
CLIENT-HOME-DIRECTORY	<文字列>	ローカル PC のホーム (既定値) ディレクトリのパスを指定します。この設定値が設定されていない場合、グローバルの [既定のローカルホームディレクトリ] 設定が使用されます。
CONFIRM-DELETE	はい いいえ (既定値: はい)	このグローバルパラメータでは、ファイルを削除する前にクライアントが確認をとるかどうかを指定します。
CREATE-SERVER-UPPER	YES NO (既定値: NO)	サーバに転送するすべてのファイルに大文字のファイル名を付けるかどうかを指定します。
CREATE-8.3-FILENAMES	YES NO (既定値: NO)	クライアントに転送するファイルが 8.3 ファイル命名規則を使用するかどうかを指定します。

SET パラメータ	値	説明
CTRL-Z-EOF	YES NO (既定値: NO)	サーバへのテキストファイル転送に適用します。このパラメータを YES に設定すると、ファイル転送時にファイル終了を示すマークとして「Ctrl-Z」が使用され、送信中のファイルからそのマークを削除します。NO に設定すると、ファイルのディレクトリエントリ内の文字カウントが、ファイルの長さとして使用されます。この設定は SFTP 接続には適用されません。
DELETE-TRAILING-SPACES	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送時に行末にある空白を削除するかどうかを指定します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
EMAIL-ADDRESS	<文字列> (既定値: なし)	このグローバルパラメータでは、インターネットの電子メールアドレスを指定します。接続が開始されると、多くの anonymous FTP サイトでは、電子メールアドレスを入力するように要求します。このアドレスは、外来者としてログインする際のパスワードとして使用されます。SFTP セッションでは、anonymous 接続は使用できません。
FULL-TO-HALF-FROM-SERVER	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送に適用します。DEC 漢字や JIS 漢字で記述されたメッセージやファイルをサーバから受信する際に、全角カタカナから半角カタカナに変換したい場合は、このパラメータの値を YES に設定します。変換時にどの漢字コードを使用するかは、ASCII-SERVER-TYPE パラメータで指定します。
HALF-TO-FULL-TO-SERVER	YES NO (既定値: NO)	サーバへのテキストファイル転送に適用します。サーバに送信する際に、DEC 漢字か JIS 漢字で記述されたファイルを半角カタカナから全角カタカナに変換したい場合は、このパラメータの値を YES に設定します。変換時にどの漢字コードを使用するかは、ASCII-SERVER-TYPE パラメータで指定します。

SET パラメータ	値	説明
ISO7-TO-ROMAN8	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES が YES のとき、サーバからのテキストファイル転送に適用します。PC で受信する際に ISO-7 文字のファイルを NRC で記述されたファイルを 8 ビット文字に変換したい場合は、このパラメータの値を YES に設定します。文字の変換は、NATIONAL-REPLACEMENT-SET パラメータで指定します。
KANJI-AUTO-DETECT	YES NO (既定値: NO)	サーバから受信したテキストファイルやメッセージで使用されている漢字コードの種類 (JIS、EUC、または DEC) をクライアントが自動的に認識し、その検出した漢字コードを文字変換に使用するかどうかを指定します。
MCS-TO-NRC	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES が YES であるとき、サーバにテキストファイル転送する際にどのようにコード変換を行うかを定義します。YES に設定すると、DEC 国際文字セットを現在の国別文字セットに変換します。文字の変換は、NATIONAL-REPLACEMENT-SET 値で指定します。
NATIONAL-REPLACEMENT-SET	<値> (既定値: USASCII)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES である場合に使用できます。必要に応じて、このパラメータをホストが使用している設定に適合するように指定します。PC ファイルをサーバに送信した時や、サーバから送信された文字がローカルファイルや画面に書き込まれる時に、クライアントとサーバとの間でコード変換が行われます。使用可能な値。この設定は SFTP 接続には適用されません。

SET パラメータ	値	説明
NRC-TO-MCS	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES であるとき、FTP サーバから PC へのテキストファイルの転送時に行われる文字セット変換を指定します。YES に設定すると、現在の NRC 設定から DEC 国際文字設定にコード変換されます。文字の変換は、NATIONAL-REPLACEMENT-SET 値で指定します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
PASSIVE	はい いいえ (既定値: はい)	サーバと passive (PASV) モードで通信するためにクライアントから PASV コマンドを送信するかどうかを指定します。PASSIVE を YES に設定すると、FTP クライアントはディレクトリ一覧とファイル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確立します。一部のファイアウォールでは passive モードにすることが必要ですこの設定は SFTP 接続には適用されません。
PASSTHROUGH-AUTHENTICATION	YES NO (既定値: NO)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。中継サーバにログインするためにユーザ名とパスワードが必要な場合は、PASSTHROUGH-AUTHENTICATION を YES に設定します。この設定は、USE-PASSTHROUGH-SERVER を NO に設定しているか、PASSTHROUGH-SERVER-STYLE を SITE-SERVERNAME に設定している場合は無視されます。
PASSTHROUGH-PASSWORD	<文字列> (既定値: なし)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。この設定は、ローカルネットワーク上の中継サーバのパスワードを指定します。大文字と小文字を区別するサーバでは、大文字と小文字を正しく入力してください。

SET パラメータ	値	説明
PASSTHROUGH-SERVER-STYLE	<値> (既定値: SITE-SERVERNAME)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。FTP クライアントは、指定したサーバの種類によってそれぞれ異なるコマンドを送信して中継サーバへログインし、FTP サーバに接続します。
PASSTHROUGH-SERVERNAME	<文字列> (既定値: なし)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。この設定は、FTP サーバにログインするために使用するローカルネットワーク上の中継サーバ名を指定します。
PASSTHROUGH-USERNAME	<文字列> (既定値: なし)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。この設定を使って、ローカルネットワークの中継サーバに登録されている有効なユーザ名を指定します。大文字と小文字を区別するサーバでは、PASSTHROUGH-USERNAME の値を入力する際に大文字と小文字を正しく入力してください。
PASSWORD	<文字列> (既定値: なし)	現在の FTP サーバ上でのパスワードを指定します。
PORT-NUMBER	0 ～ 65535 (既定値: 0)	非標準の TCP サービスポート番号または FTP ソケットを指定します。既定値の 0 を指定すると、FTP クライアントは基本設定の FTP サービスポート (番号 21) を使用します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
PRESERVE-FILE-DATE	YES NO (既定値: NO)	サーバからダウンロードしたファイルの元の日付を保持するかどうかを指定します。サーバから転送されたファイルの日付を転送日付にする場合は、このパラメータを NO に設定します。
PROXY-SERVER	<value>	この読み取り専用パラメータは、FTP クライアントが中継サーバと SOCKS プロキシサーバのいずれを使ってサイトに接続するかを示します。可能な値は、PROXY SERVER と SOCKS PROXY です。

SET パラメータ	値	説明
QUIET-STATUS	YES NO (既定値: NO)	このグローバルパラメータは、接続進行状況、転送進行状況、およびエラー通知を含むダイアログボックスの表示をしないようにします。
RESUME-PARTIAL-TRANSFERS	ALWAYS NEVER ASKUSER (既定値: ASKUSER)	このセッション固有パラメータは、BINARY 形式でサーバからファイルをダウンロードする場合に使用します。サーバファイルをダウンロードする時、FTP クライアントはそのファイルの前のダウンロードが未完了であったかどうかを調べます。クライアントが未完了のダウンロードを検出した時にユーザに尋ねるかどうかをこのパラメータで指定します。自動再開機能では、ソースファイルのサイズを未完了の転送先ファイルのサイズと比較して、ソースファイルのどこから転送を再開するかを決定します。ローカル PC 上に作成されたファイルのサイズがソースファイルのサイズに一致するように、バイナリファイル転送方式を使ってください。
ROMAN8-TO-ISO7	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES が YES のとき、サーバへのテキストファイル転送に適用します。サーバに転送する際に 8 ビット文字で記述されたファイルを NRC 設定のファイルに変換したい場合は、このパラメータの値を YES に設定します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
SAVE-PASSWORD	YES NO (既定値: NO)	サイトパスワードを保存するかどうか指定します。
SAVE-PASSTHROUGH-PASSWORD	YES NO (既定値: NO)	このグローバルな中継サーバプロパティを変更するには、サイトに接続されている必要があります。NO に設定すると、中継パスワードは保存されません。
SERVER-HOME-DIRECTORY	<文字列>	現在接続されている FTP または SFTP サイトのホーム (既定値) ディレクトリのパスを指定します。この FTP または SFTP サイトに接続されると、サーバの作業ディレクトリ指定されたホームパスに自動的に設定されます。値が指定されていない場合、ユーザのホームディレクトリが使用されます。

SET パラメータ	値	説明
SERVERNAME	<文字列> (既定値: なし)	ログインするサーバの名前を指定します。サーバ名は、Hosts ファイルまたはドメインネームサーバで検索されます。ローカルネットワーク上にドメインネームサーバが存在しないで、HOSTS ファイルを使用していない場合は、完全な IP アドレスを指定する必要があります。指定した値は、現在のセッションで次回に接続する時にも使用されます。
SMART-ASCII-TYPES	(既定値: txt,bat,htm,html,ini)	このグローバルパラメータは、TRANSFER-METHOD が SMART に設置されたときに ASCII 転送方式を使って転送するファイルを識別するために使用するファイル拡張子をすべて指定します。ファイル拡張子の一覧を指定するには、各拡張子をカンマで区切ります。次に例を示します。 SET SMART-ASCII-TYPES txt,bat,htm,html,ini
SMART-BINARY-TYPES	<文字列> (既定値: exe、gif、jpg、wav)	このグローバルパラメータは、TRANSFER-METHOD が SMART に設置されたときにバイナリ転送方式を使って転送するファイルを識別するために使用するファイル拡張子をすべて指定します。ファイル拡張子の一覧を指定するには、各拡張子をカンマで区切ります。次に例を示します。 SET SMART-BINARY-TYPES exe,gif,jpg,wav
SMART-TENEX-TYPES	<文字列> (既定値: なし)	このグローバルパラメータは、TRANSFER-METHOD が SMART に設置されたときに Tenex (ローカル 8) 転送方式を使って転送するファイルを識別するために使用するファイル拡張子をすべて指定します。ファイル拡張子の一覧を指定するには、各拡張子をカンマで区切ります。次に例を示します。 SET SMART-TENEX-TYPES edd,gol,mmd,lad

SET パラメータ	値	説明
SMART-TYPE-DEFAULT	ASCII BINARY TENEX ASK USER (既定値: ユーザに尋ねる)	このグローバルパラメータでは、TRANSFER-METHOD が SMART に設定された時にソースファイルの拡張子が SMART-ASCII-TYPE、SMART-BINARY-TYPE、SMART-TENEX-TYPE のいずれとしても定義されていない場合の既定の転送方式を指定します。スマートファイル転送時、どのファイル転送方式にも関連付けられていない拡張子を持つソースファイルは SMART-TYPE-DEFAULT で指定されている転送方式で転送されます。
SPACES-PER-TAB	1-20 (既定値: 8)	テキストファイル転送に適用します。1 つのタブ文字に変換される連続する空白の数 (SPACES-TO-TABS) または 1 つのタブ文字から変換する連続する空白の数 (TABS-TO-SPACES) を指定します。この設定は SFTP 接続には適用されません。
SPACES-TO-TABS	YES NO (既定値: NO)	ホストからのテキストファイル転送に適用します。このパラメータを YES に設定すると、テキストファイルの受信時に、連続する空白文字をタブで置き換えます。1 つのタブあたりの空白の数は、SPACES-PER-TAB パラメータで制御されます。この設定は SFTP 接続には適用されません。
TABS-TO-SPACES	はい いいえ (既定値: はい)	このパラメータを YES に設定すると、サーバへのテキストファイルの転送時にローカルファイル内にあるタブコードがサーバファイル内でいくつかの空白文字に変換されます。FTP クライアントは、各タブコードを適切な数の空白文字 (空白の数は SPACES-PER-TAB パラメータで指定) で置き換えて埋めます。この設定は SFTP 接続には適用されません。
TIME-LOGGED-IN	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、サーバにログインした時刻を示します。時間データがどのように表示されるかは、Windows のコントロールパネルにある [地域] - [時刻] タブで指定されている時間の形式によります。

SET パラメータ	値	説明
TIME-SINCE-LOGIN	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、サーバにログインしている時間を示します。時間データがどのように表示されるかは、Windows のコントロールパネルにある [地域] - [時刻] タブで指定されている時間の形式によります。
TIMEOUT-CONNECT	0 ～ 65535 (既定値: 120)	クライアントがサーバへ接続する際に、接続を断念するまでの待ち時間を秒単位で指定します。このパラメータを 0 に設定すると、FTP クライアントは接続が完了するまで永久に待ち続けます。この設定は SFTP 接続には適用されません。
TIMEOUT-SESSION	0 - 65535 (既定値: 120)	データパケットをホストとの間で転送する時の最大待ち時間を秒数で指定します。指定した時間内に何も受信しない場合、時間経過エラーが表示され、転送は中止されます。このパラメータを 0 に設定すると、FTP クライアントは接続が完了するまで永久に待ち続けます。この設定は SFTP 接続には適用されません。
TRANSFER-8.3-CASE	LOWER UPPER PRESERVE (既定値: LOWER)	アップロードするファイル名が DOS 8.3 形式ファイル名の命名規則に準拠する場合、ホストに送信するファイルの名前における大文字/小文字の設定をどのように処理するかを決定します。CREATE-SERVER-UPPER が YES に設定されている場合は、この設定は無視されます。
TRANSFER-DISPOSITION	<値> (既定値: OVERWRITE)	このグローバルパラメータでは、クライアントまたはサーバファイルが転送先にすでに存在する場合の処理方法を指定します。可能な値は、APPEND、PROMPT、CANCEL、OVERWRITE、SKIP、UPDATE、UNIQUE です。UPDATE は、転送するファイルが転送先のファイルより新しい場合にのみ、転送先のファイルを上書きするようクライアントに指示します。UNIQUE は、新規の固有の名前を付けるようクライアントに指示します。

SET パラメータ	値	説明
TRANSFER-ELAPSED-TIME	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、最後に行われたファイル転送が終了するまでにかかった時間を示します。時間データがどのように表示されるかは、Windows のコントロールパネルにある [地域] - [時刻] タブで指定されている時間の形式によります。
TRANSFER-METHOD	<値> (既定値: SMART)	このグローバルパラメータでは、クライアントのファイル転送方式を指定します。可能な値は、ASCII、BINARY、TENEX、SMART です。
TRANSFER-SPEED	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、最後に行われたファイル転送の速度を示します。値は、1 秒間に転送されるデータを KB 単位で表示します。
TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING	YES NO (既定値: NO)	サーバから送信された文字を画面に表示する際に文字の変換を行うかどうかを指定します。この設定を使って、FTP クライアントユーザインタフェース上のサーバディレクトリの一覧に表示されるファイル名を変換することができます。このパラメータを「はい」に設定すると、以下の SET パラメータも有効になります: SET ASCII-CLIENT-TYPE、SET ASCII-SERVER-TYPE、SET NATIONAL-REPLACEMENT、ISO7-TO-ROMAN8、および SET NRC-TO-MCS。この設定は SFTP 接続には適用されません。

SET パラメータ	値	説明
TRANSLATE-FILES	YES NO (既定値: NO)	テキストファイルの変換を有効にするかどうかを指定します。YES に設定すると、PC ファイルがサーバに送信される際や、サーバから送信された文字がクライアントファイルに書き込まれる際に、クライアントとサーバの間でコード変換が行われます。このパラメータを「はい」に設定すると、以下の SET パラメータも有効になります: SET ASCII-CLIENT-TYPE、SET ASCII-SERVER-TYPE、SET NATIONAL-REPLACEMENT、SET ISO7-TO-ROMAN8、SET ROMAN8-TO-ISO7、SET NRC-TO-MCS、および SET MCS-TO-NRC。この設定は SFTP 接続には適用されません。
USE-PASSTHROUGH-SERVER	YES NO (既定値: NO)	現在の FTP サイトに接続する時に中継サーバを使用するかどうかを指定します。YES に設定している場合、FTP クライアントは次のグローバル設定を使って中継サーバに接続します: PASSTHROUGH-SERVER-STYLE、PASSTHROUGH-SERVERNAME、PASSTHROUGH-USERNAME、PASSTHROUGH-PASSWORD、および PASSTHROUGH-AUTHENTICATION。
USE-SOCKS	YES NO (既定値: NO)	現在のサイトに接続する際に、SOCKS プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。YES と設定すると、FTP クライアントは SOCKS プロキシサーバを使用します。
USERNAME	<文字列> (既定値: なし)	現在のサーバに登録されている有効なユーザ名を指定します。大文字と小文字を区別しているサーバでは、大文字と小文字を正しく入力してください。

SET パラメータ	値	説明
WRITE-CTRLZ	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送に適用します。このパラメータを YES に設定すると、FTP クライアントは受信したテキストファイルの最後にファイル終端マーク (^Z) を自動的に付加します。

SET パラメータとそれに対応するインタフェース設定

SET パラメータは、[SET](#) コマンドとともに使用します。次の表は、FTP クライアントのユーザインタフェースで対応している設定を示しています。

SET パラメータ	対応するインタフェース
ABORT-ON-ERROR	これに対応するダイアログボックスはありません。
ACCOUNT	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [アカウント] ボックス
ANONYMOUS	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブにある [anonymous] オプション
ASCII-CLIENT-TYPE	[文字セット] ダイアログボックスの [クライアント] 文字セット
ASCII-SERVER-TYPE	[文字セット] ダイアログボックスの [サーバ] 文字セット
AUTO-SERVER-UPDATE	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ] タブにある [ディレクトリを自動的に更新する] チェックボックス
CLIENT-HOME-DIRECTORY	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ] タブにある [ローカル] の [ホームフォルダ] ボックス
CONFIRM-DELETE	[オプション] ダイアログボックスの [ユーザ設定] タブにある [ファイル削除の確認ダイアログボックスを表示する] チェックボックス
CREATE-SERVER-UPPER	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブにある [8.3 形式ファイル名の大文字/小文字の設定] リストボックス

SET パラメータ	対応するインタフェース
CREATE-8.3-FILENAMES	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブにある [Windows ファイル名を 8.3 形式で作成する] チェックボックス
CTRL-Z-EOF	[サイトプロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [サーバに] の [CTRL-Z を文末とみなす] チェックボックス
DELETE-TRAILING-SPACES	[サイトプロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [行末の空白を削除する] チェックボックス
EMAIL-ADDRESS	[オプション] ダイアログボックスの [全般] タブにある [anonymous パスワード] テキストボックス
FULL-TO-HALF-FROM-SERVER	[文字セット] ダイアログボックスの [全角カタカナを半角に置換する] チェックボックス
HALF-TO-FULL-TO-SERVER	[文字セット] ダイアログボックスの [半角カタカナを全角に置換する] チェックボックス
ISO7-TO-ROMAN8	[文字セット] ダイアログボックスの [NRC を 8 ビット文字に置換する] チェックボックス
KANJI-AUTO-DETECT	[文字セット] ダイアログボックスの [サーバの日本語文字セットを自動認識する] チェックボックス
MCS-TO-NRC	[文字セット] ダイアログボックスの [DEC 国際文字を NRC に置換する] チェックボックス
NATIONAL-REPLACEMENT-SET	[文字セット] ダイアログボックスの [ISO-7/NRC] セット
NRC-TO-MCS	[文字セット] ダイアログボックスの [NRC を DEC 国際文字に置換する] チェックボックス
PASSIVE	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [passive モードを使用する] チェックボックス
PASSTHROUGH-AUTHENTICATION	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] タブにある [ファイアウォールを使用する] チェックボックス

SET パラメータ	対応するインタフェース
PASSTHROUGH-SERVERNAME	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] タブにある [サーバ名] ボックス
PASSTHROUGH-USERNAME	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] タブにある [ユーザ名] ボックス
PASSWORD	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブにある [パスワード] ボックス
PORT-NUMBER	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [TCP ポート] ボックス
PRESERVE-FILE-DATE	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブにある [サーバファイルの日付を保持する] チェックボックス
PROXY-SERVER	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスのファイアウォール設定および SOCK 設定に基づく読み取り専用の値。
QUIET-STATUS	[オプション] ダイアログボックスの [ユーザ設定] タブにある [進行状況ウィンドウを表示しない] チェックボックス
ROMAN8-TO-ISO7	[文字セット] ダイアログボックスの [8 ビット文字を NRC に置換する] チェックボックス
SAVE-PASSWORD	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブにある [パスワードを保存] チェックボックス
SAVE-PASSTHROUGH-PASSWORD	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] タブにある [パスワードを保存] チェックボックス
SERVER-HOME-DIRECTORY_SERVER_HOME_DIRECTORY	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [ディレクトリ] タブにある [ホームディレクトリ] ボックス
SERVERNAME_SERVERNAME	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブにある [FTP アドレス] ボックス

SET パラメータ	対応するインタフェース
SMART-ASCII-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブのスマートファイル転送方式
SMART-BINARY-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブのスマートファイル転送方式
SMART-TENEX-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブのスマートファイル転送方式
SMART-TYPE-DEFAULT	[オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブの [未定義拡張子の転送方式] グループボックス
SPACES-PER-TAB	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [タブの幅] ボックス
SPACES-TO-TABS	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [空白をタブに置換する] チェックボックス
TABS-TO-SPACES	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [タブを空白に置換する] チェックボックス
TIME-LOGGED-IN	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [情報] タブにある [接続日と時刻]
TIME-SINCE-LOGIN	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [情報] タブにある [通信時間]
TIMEOUT-CONNECT	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [接続] ボックス
TIMEOUT-SESSION	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続] タブにある [セッション] ボックス
TRANSFER-8.3-CASE	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブにある [サーバへのアップロードオプション] の [8.3 形式ファイル名の大文字/小文字の設定] ボックス
TRANSFER-DISPOSITION	[ツール] メニューの [ファイル既存の場合に] コマンド

SET パラメータ	対応するインタフェース
TRANSFER-ELAPSED-TIME	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [情報] タブにある [前回の転送時間]
TRANSFER-METHOD	[ツール] メニューの [転送方式] コマンド
TRANSFER-SPEED	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [情報] タブにある [前回の転送効率]
TRANSLATE-FILES	[文字セット] ダイアログボックスの [ファイルを変換する] チェックボックス
USE-PASSTHROUGH-SERVER	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスのファイアウォール設定によって制御されます。
USE-SOCKS	[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの SOCKS 構成によって制御されます。
USERNAME	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブにある [ユーザ名] ボックス
WRITE-CTRLZ	[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [変換] タブにある [サーバから] の [文末に CTRL-Z を付加する] チェックボックス

Site_Specificファイル転送SETパラメータ

ファイル転送の詳細設定用 SET パラメータ

サーバにファイルを送信する時の転送オプション

- CREATE-SERVER-UPPER
- TRANSFER-8.3-CASE

サーバからファイルを受信する時の転送オプション

- PRESERVE-FILE-DATE
- CREATE-8.3-FILENAMES

テキストファイル転送時の文字変換用 SET パラメータ

コード変換に使用される文字セット

- ASCII-CLIENT-TYPE
- ASCII-SERVER-TYPE
- NATIONAL-REPLACEMENT-SET

サーバへのファイル転送時の変換オプション

- MCS-TO-NRC
- ROMAN8-TO-ISO7

サーバからのファイル受信時の変換オプション

- ISO7-TO-ROMAN8
- NRC-TO-MCS

ASCII SERVER TYPE SETパラメータ値

ASCII-SERVER-TYPE SET [パラメータ](#) <値> は、以下のいずれかに設定できます。

DEC-SUPPLEMENTAL	ISO-LATIN-2	BIG-5	DEC-Hebrew
ISO-LATIN-1	ISO-LATIN-5	CCDC	7-Bit-Hebrew
PC-ENGLISH	ISO-LATIN-6	GB-Chinese	DEC-Cyrillic
PC-MULTILINGUAL	ISO-LATIN-7	KS-5601-Korean	HP-Turkish
HP-ROMAN-8	ISO-LATIN-8	HP-Greek	DEC-Turkish
PC-SLAVIC	ISO-LATIN-9	DEC-Greek	PC-Spanish
PC-CYRILLIC-855	SHIFT-JIS	PC-Greek	PC-Turkish
PC-MODERN-TURKISH	JIS-X0208-1990	YUASCII	SBIG-5
PC-PORTUGUESE	JIS-X0208-1983	PC-Cyrillic	THAI-988-TISO
PC-ICELANDIC	JIS-C6226-1978	JIS-Katakana	THAI-TISO
PC-CANADIAN-FRENCH	DEC-1983-KANJI	NEC-N88	THAI-KU
PC-ARABIC	DEC-1978-KANJI	PC-Hebrew	THAI-PRIME
PC-NORDIC	EUC	HP-Hebrew	HP-Hebrew

PC-MODERN-GREEK	PC-MODERN-GREEK
-----------------	-----------------

NATIONAL-REPLACEMENT-SET パラメータの値

NATIONAL-REPLACEMENT-SET SET パラメータ <値> は、以下のいずれかに設定できます。

USASCII	GERMAN
DANISH	SWISS-GERMAN
DUTCH	ITALIAN
CANADIAN-ENGLISH	SPANISH-LATIN
FINNISH	NORWEGIAN
FLEMISH	PORTUGUESE
FRENCH	SPANISH-EUROPEAN
CANADIAN-FRENCH	SWEDISH
SWISS-FRENCH	BRITISH

ABORT-ON-ERROR Script Sample

次のサンプルコードでは、**ABORT-ON-ERROR** を NO に設定してから **MGET** を使用し、YES に戻してから **MDEL** または **PUT** を使用しています。

```
SET ABORT-ON-ERROR NO
CD /home/user1/reports
CONTINUE ON
MGET june*.rpt
CD /home/user2/reports
MGET june*.rpt
SET ABORT-ON-ERROR YES
MDEL june*.rpt
CD /home/user1/reports
MDEL june*.rpt
SET ABORT-ON-ERROR NO
CD /home/yearly
CONTINUE
MGET ye20*.rpt, ye20*.txt
SET ABORT-ON-ERROR YES
CD /tmp
PUT ye2000.txt
PUT ye2000.rpt ye2000.txt APPEND
```

12.2.30 SITE

構文: `site <引数>`

FTP コマンドの索引

SITE コマンドは、サーバが認識できる **SITE** コマンドをサーバに送信します。

FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの **SITE** コマンドが現在の FTP サーバで理解されるかを調べます。

```
QUOTE help site
```

サーバが **QUOTE** コマンドに対応していれば、そのサーバが理解する **SITE** コマンドの一覧が返されます。サーバの応答はコマンドウィンドウに表示されます。

<code><argument></code>	FTP サーバが理解する SITE コマンドを指定します。
-------------------------------	-------------------------------

例

次のコマンドは、サーバの無活動待ち時間の設定内容を返すように要求します。

```
SITE idle
```

サーバの応答は、次のようにコマンドウィンドウに表示されます。次に例を示します。

```
200 Current IDLE time limit is 900 seconds; max 7200
```

次のコマンドは、無活動待ち時間を 1800 秒に設定します。

```
SITE idle 1800
```

12.2.31 システム

構文: `system`

FTP コマンドの索引

SYSTEM コマンドは、使用している FTP サーバのオペレーティングシステム情報を表示します。この情報は、FTP コマンドウィンドウに表示されます。

例えば、FTP コマンドラインに **SYSTEM** と入力すると、以下のように表示されます。

```
215 UNIX Type: L8
```

12.2.32 TYPE

構文: `type <サーバファイル>`

FTP コマンドの索引

TYPE コマンドは、サーバファイルの内容を FTP コマンドウィンドウに表示します。

<サーバファイル>

サーバファイルの場所と名前を指定します。ワイルドカードで指定することはできません。

>

例

次のコマンドは、FTP サーバの /Users/boris フォルダにある hardware.txt ファイルをコマンドウィンドウに表示します。

```
TYPE /Users/boris/hardware.txt
```

12.2.33 VERIFY

構文: `verify` [コマンド] [<SETパラメータ>] [changed]

FTP コマンドの索引

VERIFY コマンドは、1 つまたは複数の **SET パラメータ** の値に関する情報を表示します。パラメータがない場合、**VERIFY** コマンドは、Reflection のすべての **SET** パラメータの現在の値を表示します。

<set パラメータ>	特定のSETパラメータの値を表示します。
-------------	----------------------

例

次のコマンドは、現在の NATIONAL-REPLACEMENT-SET の設定を表示します。

```
VERIFY NATIONAL-REPLACEMENT-SET
```

次のコマンドは、現在の SET パラメータ値の完全な一覧を作成します。

```
VERIFY
```

12.3 SFTP コマンド

12.3.1 SFTP コマンド

使用可能なコマンド:

- [ASCII]
- BINARY
- BYE
- CD
- CHMOD
- 終了
- GET
- LCD
- LLS
- LMKDIR
- LPWD
- LS
- MGET
- MKDIR
- MPUT
- PROGRESS
- PUT
- PWD
- QUIT
- RENAME
- RM
- RMDIR
- SET
- SMART
- TENEX

12.3.2 [ASCII]

構文: `ascii`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

ASCII コマンドは現在のファイル転送方式を ASCII 方式に変更します。テキストファイルをサーバと PC との間で移動する場合は、この転送方式を使用してください。

12.3.3 BINARY

構文: `binary`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

BINARY コマンドは、現在のファイル転送方式をバイナリ (イメージ) 方式に変更します。.EXE ファイルや圧縮ファイルなどのバイナリファイルを 2 台の PC 間で (サーバを経由して)、または 2 台のサーバ間で (PC を経由して) 転送するには、この転送方式を使用してください。

12.3.4 BYE

構文: `bye`

[SFTP コマンドの索引](#)

BYE コマンドはサーバへの接続を切断します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

12.3.5 CD

構文: `cd <サーバディレクトリ>`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

CD コマンドは、FTP サーバの作業ディレクトリを変更します。

<サーバディレクトリ> サーバのディレクトリを指定します。

例

次のコマンドは、UNIX システム上の「Asian Artists」ディレクトリに変更します。

```
CD Asian Artists
```

次のコマンドは、VAX/VMS システム上のディレクトリに変更します。

```
CD SYS$USERS:[ARNOLD.DOCS]
```

12.3.6 CHMOD

構文: `chmod <許可マスク数値> <サーバファイルまたはディレクトリ>`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

CHMOD コマンドは、ファイルまたはディレクトリに関連付けられているアクセス許可を変更します。

<許可マスク数値> >	UNIX chmod コマンドとして有効な 3 桁の数値を指定します。有効な値の桁数は 0～7 です。ヒント: アクセス許可の設定に使用するマスクを確認するには、サーバファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択します。プロパティダイアログボックスに、3 桁のマスクおよび関連付けられているアクセス許可が表示されます。アクセス許可を変更すると、マスク値は自動的に更新されます。
----------------	---

<サーバファイル またはディレク トリ>	FTP サーバ上のファイルまたはディレクトリを指定します。サーバの構文に従って、ファイル名またはディレクトリ名を指定してください。
----------------------------	---

例

このコマンドは、指定したファイルの属性を `-rwx-r--r--` に設定します。

```
chmod 644 myfile.htm
```

12.3.7 終了

構文: `exit`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

EXIT コマンドはサーバへの接続を切断します。

12.3.8 GET

構文: `get <サーバファイル> [to] [<クライアントファイル>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

Get コマンドは、サーバから PC にファイルを転送します。**GET** コマンドではワイルドカードはサポートされていません。ワイルドカードは普通の文字として扱われ、ファイル名の一部とみなされます。複数ファイルを転送する場合は、**MGET** コマンドを使用します。

GET コマンドを使用する前に、必要ならば、**ASCII**、**BINARY**、**TENEX2**、または**SMART** コマンドを使って [ツール] メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の **SET** パラメータによって影響されます。詳細については、[ここをクリック](#)してください。

<サーバファイル>	サーバディレクトリの名前を指定します。
to <クライアントファイル>	作成する PC ファイル名を指定します。このオプションを省略すると、クライアントファイルにはサーバファイルと同じ名前が付けられます。キーワード TO は省略してもかまいません。
append askuser cancel overwrite skip unique	転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定します。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

以下の例では、サーバファイル MEMO.DOC をサーバから PC に転送し、PC ファイルにも同じ名前を付けます。

```
GET MEMO.DOC
```

以下の例では、VAX/VMS 上の FTP のサーバファイル MORTGAGE.PAPERS を PC に転送し、PC ファイルに MORTGAGE.TXT という名前を付けます。

```
GET MORTGAGE.PAPERS MORTGAGE.TXT
```

12.3.9 LCD

構文: lcd [<pc ドライブ/フォルダ> | ...]

[FTP コマンドの索引](#) | [SFTP コマンドの索引](#)

LCD コマンドは、PC 上の別のフォルダを開きます。

<フォルダ> を指定しないと、**LCD** コマンドは現在の PC フォルダのパスを表示します。

フォルダを変更するには、FTP コマンドラインにフォルダ名を「LCD F:\Documents」のように入力してから、Return キーを押します。

<pc ドライブ\フォルダ> >	変更先のドライブ (現在のドライブと異なる場合) およびフォルダを指定します。
..	親ディレクトリに変更します。

例

次のコマンドは、現在のフォルダをドライブ D: の Asian Travel フォルダ内の China フォルダに変更します。

```
LCD d:\Asian Travel\China
```

12.3.10 LLS

構文: `lls <pc ファイル指定>`

[SFTP コマンドの索引](#)

LLS コマンドは、ファイル指定の条件に一致する PC ファイルの一覧を表示します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は **LDIR** コマンドを使用します。

<code><pc ファイル指定></code>	PC 上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。このオプションを使用しない場合は、現在の PC フォルダの内容が表示されます。
--------------------------------	--

例

次のコマンドは、現在の PC フォルダにある .DOC という拡張子を持つファイルの一覧を表示します。

```
LLS *.Doc
```

12.3.11 LMKDIR

構文: `lmdir <pc ディレクトリ>`

[SFTP コマンドの索引](#)

LMKDIR コマンドは、PC 上に新しいフォルダを作成します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は **LMD** コマンドを使用します。

<code><pc フォルダ></code>	フォルダを作成するドライブ (現在のドライブ以外に作成したい場合) とフォルダ名を指定します。
------------------------------	---

例

次のコマンドは、現在の PC ドライブにフォルダ MUSIC を作成します。

```
LMKDIR \Music
```

12.3.12 LPWD

構文: lpwd [<pc ドライブ/フォルダ> | ...]

SFTP コマンドの索引

LPWD コマンドは、PC 上の別のフォルダを開きます。

<フォルダ> を指定しないと、LPWD コマンドは現在の PC フォルダのパスを表示します。

フォルダを変更するには、FTP コマンドラインにフォルダ名を「LPWD F:\Documents」のように入力してから、Return キーを押します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は LCD コマンドを使用します。

<pc ドライブ\フォルダ>	変更先のドライブ (現在のドライブと異なる場合) およびフォルダを指定します。
..	親ディレクトリに変更します。

例

次のコマンドは、現在のフォルダをドライブ D: の Asian Travel フォルダ内の China フォルダに変更します。

```
LPWD d:\Asian Travel\China
```

12.3.13 LS

構文: ls [<サーバファイル指定>]

FTP コマンドの索引

LS コマンドは、ファイル指定の条件に一致するサーバファイルの簡易一覧を表示します(DIR コマンドはサーバファイルの詳細一覧を表示します)。

<サーバファイル指定>	サーバ上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。このオプションを使用しない場合は、現在のサーバフォルダの内容が表示されます。
-------------	---

例

次の例では、UNIX FTP サーバ上の現在のディレクトリにある全ファイルの名前が一覧表示されます。

```
LS *.*
```

12.3.14 MGET

構文: mget <サーバファイル指定> [to] [<pc ファイル指定>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

MGET コマンドは、ファイル指定の条件に一致する 1 つ以上のファイルを FTP サーバから PC に転送します。ワイルドカードを使用して複数のファイルを転送できます。ほとんどのサーバでは、<サーバファイル指定> にワイルドカードを使用することができます。ただし、サーバが **LS** コマンドでのワイルドカードの使用に対応していない場合は、**MGET** でワイルドカードを使用すると、現在のディレクトリにあるすべてのファイルが転送される場合があります。

💡 メモ

Reflectionクライアントは、SFTPセッション内の**MGET**をサポートしますが、SFTPサーバがワイルドカード指定を正しく解釈しない場合があるため、ワイルドカード文字を使用する転送をテストする必要があります。

MGETコマンドを使用する前に、必要ならば、**ASCII**、**BINARY**、**TENEX**、または**SMART**コマンドを使って [ツール]メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の **SET** パラメータによって影響されます。詳細については、[ここをクリック](#)してください。

<サーバファイル指定>	(サーバ側のワイルドカードを使用して) PC に転送する 1 つ以上のサーバファイルを指定します。他のオプションを付けずに <サーバファイル指定> を指定すると、PC ファイルにはサーバファイルと同じ名前が付けられます。
to <pc ファイル指定>	ファイルを受信する PC フォルダ、または作成する PC ファイルの名前を指定します。キーワード TO は省略してもかまいません。このオプションを省略すると、サーバファイルは現在のフォルダに転送されます。 <サーバファイル指定> で複数のファイルを指定する場合、通常 <pc ファイル指定> はディレクトリパスでなければなりません。複数のサーバファイルを 1 つの PC ファイルにまとめたい場合は、<pc ファイル指定> にファイル名を指定し、APPEND オプションを使用します。 ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例: MGET*. * "C:\My documents*. *"
append askuser cancel overwrite skip unique	転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定します。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

この例では、拡張子 .Doc を持つすべてのファイルを FTP サーバから PC の現在のディレクトリに転送します。

```
MGET *.Doc
```

この例では、文字「A」を転送されるファイル名に追加します。例えば、「test.txt」は「Atest.txt」になります。

```
MGET *.* A*.*
```

その他の例については、[ABORT_ON_ERROR Script Sample](#)を参照してください。

12.3.15 MKDIR

構文: `mkdir <サーバフォルダ>`

SFTP コマンドの索引

MKDIR コマンドは、サーバ上に新しいフォルダを作成します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は **MD** コマンドを使用します。

`<サーバフォルダ>` 新しいフォルダの名前と場所を指定します。

例

次のコマンドは、FTP UNIX サーバドライブの現在のフォルダに Films というフォルダを作成します。

```
MKDIR Films
```

12.3.16 MPUT

構文: `mput <pc ファイル指定> [to] [<サーバファイル指定>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]`

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

MPUT コマンドは、ファイル指定の条件に一致する 1 つ以上のファイルを PC から FTP サーバに転送します。ワイルドカードを使用して複数のファイルを転送できます。

メモ

Reflectionクライアントは、SFTPセッション内の**MPUT**をサポートしますが、SFTPサーバがワイルドカード指定を正しく解釈しない場合があるため、ワイルドカード文字を使用する転送をテストする必要があります。

MPUT コマンドを使用する前に、必要ならば、[ASCII](#)、[BINARY](#)、[TENEX](#)、または [SMART](#) コマンドを使って [ツール] メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の **SET** パラメータによって影響されます。詳細については、[ここをクリック](#)してください。

<pc ファイル指定>	単一の PC ファイルまたはワイルドカードを使って複数のファイルを指定して、サーバに転送します。ファイルはサーバの現在のディレクトリに置かれ、PC ファイルと同じ名前が付けられます。 テキストボックスでPCワイルドカード文字 (?と*文字)を使って、複数のファイルを送信することができます。例えば、現在のディレクトリにある <code>.TXT</code> のファイル拡張子が付いているすべてのファイルを送信するには、コマンド <code>MPUT *.Txt</code> を使用します。 ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例: <pre>MPUT "C:\My documents*.*)" </pre>
to <サーバファイル指定>	PC ファイルを受信するための 1 つまたは複数 (サーバワイルドカードを使用する場合) のサーバファイルを指定します。この名前のファイルが存在しない場合は、転送時に作成されます。<サーバファイル指定> に値を指定しないと、サーバファイルにはPCファイルと同じ名前が付けられます。 キーワード TO は省略してもかまいません。
append askuser cancel overwrite skip unique	転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定します。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

次の例では、PC 上の現在のフォルダ内の Meeting Notes フォルダに .doc 拡張子を持つファイルを転送し、そのファイルを現在のサーバフォルダに保存します。転送先のサーバフォルダ内のファイルと同じ名前を持つソース PC ファイルは転送されません。

```
MPUT "Meeting Notes\*.Doc" skip
```

次の例では、サーバに転送されるファイル名の前に文字「A」を追加します。例えば、「Sample.htm」は「ASample.htm」になります。

```
MPUT *.htm A*.htm
```

最後の例では、サーバにコピーされる PC ファイルのファイル拡張子を削除します。

```
MPUT *.* *.*
```

12.3.17 PROGRESS

構文: `progress`

SFTP コマンドの索引

進行状況メータの表示を切り替えます。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

12.3.18 PUT

構文: `put <クライアントファイル> [to] [<サーバファイル>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]`

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

PUT コマンドは、PC からサーバにファイルを転送します。

PUT コマンドは、ワイルドカードに対応していません。ワイルドカードを使用して複数のファイルを転送する場合は、**PUT** の代わりに **MPUT** コマンドを使用してください。

[**PUT**]コマンドを使用する前に、必要ならば、**ASCII**、**BINARY**、**TENEX**、または**SMART**コマンドを使って[ツール]メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の **SET** パラメータによって影響されます。詳細については、[ここをクリック](#)してください。

<code><クライアントファイル></code>	PCの名前を指定します。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。
<code>to <サーバファイル></code>	作成するサーバファイルの名前を指定します。サーバファイル名を省略すると、サーバファイルには、PC ファイルと同じ名前が付けられます。キーワード TO は省略してもかまいません。

append askuser	転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定します。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。
cancel overwrite	
skip unique	

例

以下の例では、PC からサーバにファイル `MEMO.DOC` を転送します。

```
PUT Memo.doc
```

以下の例では、PC から VAX/VMS FTP サーバにファイル `HAPPY.ME` を転送し、VMS ファイルに `HAPPY.BIRTHDAY` という名前を付けます。

```
PUT HAPPY.ME TO HAPPY.BIRTHDAY
```

その他の例については、[ABORT_ON_ERROR Script Sample](#)を参照してください。

12.3.19 PWD

構文: `pwd`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

PWD コマンドは、現在開いているサーバのフォルダを表示します。そのフォルダ名と保存場所が FTP コマンドウィンドウに表示されます。

12.3.20 QUIT

構文: `quit`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

QUIT コマンドはサーバへの接続を切断します。

💡 メモ

Windowsコマンドラインから `/RFS` スイッチを使用してスクリプトを実行し、**QUIT** コマンドでスクリプトを終了する場合は、スクリプトが完了するとFTPクライアントが自動的に終了します。

12.3.21 RENAME

構文: `rename <サーバファイル名> <新規ファイル名>`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

RENAME コマンドは、サーバファイル名を指定された新しい名前に変更します。サーバによっては、**RENAME** を使って、ファイルの新しい名前と新しい保存場所を指定できるものもあります。この場合は、ファイルは新しい場所に移され、新しい名前が付けられます。

<code><サーバファイル名></code>	変更したいサーバファイル名を指定します。この指定には、ファイルが保存されているサーバフォルダ名を含むことができます。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例えば、 <code>"/Maps/North America"</code> です。
-------------------------------	---

<code><新規ファイル名></code>	新しいファイル名を指定します。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。次に例を示します。
------------------------------	--

`"D:\To do\Work assignments"`

サーバによっては、名前を変更するファイルのパスを省略すると、ファイルが現在のサーバフォルダに移動されて新しい名前が付けられるものがあります。
RENAME を使ってファイルを移動する場合は、新しい保存場所とファイル名を指定してください。

例

次のコマンドは、サーバ上の現在のフォルダにあるファイル名 `Map of Canada` を `Canada` に変更します。

```
RENAME "Map of Canada" Canada
```

次のコマンドは、サーバ上の `Maps` フォルダから `Europe` フォルダにあるファイル名 `England` を `Great Britain` に変更します。

```
RENAME /Maps/Europe/England "/Maps/Europe/Great Britain"
```

12.3.22 RM

構文: `rm` <サーバファイル>

[SFTP コマンドの索引](#)

RM コマンドは、SFTP サーバ上にある特定のファイル指定と一致するファイルを削除します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は **DELETE** コマンドを使用します。

💡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバファ
イル>

削除するサーバファイルの名前を指定します。ファイルへの完全なディレクトリパスを指定することもできます。一部のシステムでは、ディレクトリ名とファイル名を指定するときに大文字と小文字を区別する必要があります。

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリから MEMO.DOC を削除します。

```
RM MEMO.DOC
```

12.3.23 RMDIR

構文: `rmdir` <サーバフォルダ>

[SFTP コマンドの索引](#)

RMDIR コマンドは、サーバ上の空のディレクトリを削除します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

💡 メモ

SET パラメータ CONFIRM-DELETE が YES に設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバフォルダ>	削除するディレクトリの場所と名前を指定します。<サーバフォルダ> は、サーバのオペレーティングシステムの規則に従って指定しなければなりません。フォルダを削除する前に、そのフォルダ内のフォルダとファイルを削除する必要があります。
-----------	---

例

次のコマンドは、現在のサーバから Articles フォルダを削除します。

```
RMDIR Articles
```

12.3.24 SET

構文: set <SETパラメータ> <値>

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

SET コマンドは、Reflection を構成する場合に使用します。使用できるオプションの一覧については、[SET パラメータ](#) を参照してください。

例

以下のコマンドは、各種のファイル転送パラメータを初期化します。

```
SET TABS-TO-SPACES NO
SET TRANSFER-DISPOSITION Overwrite
SET TRANSFER-METHOD Ascii
SET TRANSLATE-FILES NO
```

詳細

- [SET パラメータの解説](#)
- [SET パラメータとそれに対応するインタフェース設定](#)

- [サイト固有のファイル転送用 SET パラメータ](#)

12.3.25 SMART

構文: `smart`

[FTP コマンドの索引](#)[SFTP コマンドの索引](#)

SMART コマンドは、現在の FTP ファイル転送方式をスマート方式に変更します。

転送するファイルの種類によって FTP クライアントが使用する転送方式 (テキストファイル、バイナリファイル、Tenex) を自動的に決めるように設定するには、スマート転送方式を使用します。FTP クライアントはソースファイル拡張子を使用して、転送されるファイルの種類を決定します。スマートファイル転送の設定には、**[オプション]** ダイアログボックスの **[ファイルの種類]** タブの設定を使用します。

12.3.26 TENEX

構文: `tenex`

[FTP コマンドの索引](#)

[SFTP コマンドの索引](#)

TENEXI コマンドは現在のファイル転送方式を「ローカル 8」方式に変更します。DECsystem-20 など、1 バイトが 8 ビットでないバイトを使用しているサーバとの間でファイルを移動する場合は、この転送方式を使用します。

13. Copyright

© 1985 - 2024 Rocket Software, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.

13.0.1 Trademarks

Rocket is a registered trademark of Rocket Software, Inc. For a list of Rocket registered trademarks go to: www.rocketsoftware.com/about/legal. All other products or services mentioned in this document may be covered by the trademarks, service marks, or product names of their respective owners.

13.0.2 Examples

This information might contain examples of data and reports. The examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to the names and addresses used by an actual business enterprise is entirely coincidental.

13.0.3 License agreement

This software and the associated documentation are proprietary and confidential to Rocket Software, Inc. or its affiliates, are furnished under license, and may be used and copied only in accordance with the terms of such license. Note: This product may contain encryption technology. Many countries prohibit or restrict the use, import, or export of encryption technologies, and current use, import, and export regulations should be followed when exporting this product.